

問題ニハ、公益上ノ觀察點カ非常ニ重大テアツテ、其カライフト、酒其モノノ消費量カラ見テモ品質カラ見テモ將タ其原料タル米ノ問題カラ考エテモ、政府專賣ヲ得策トスルコトニナル。酒ノ專賣カ到ル處ニ大勢テアルトイフ(註一七)コトハ言ヒ過キテアルニセヨ、兎モ角既ニ多々先例モアル(註一八)コトデアリ、日本テモ今日ノ情勢ヲ冷靜ニ考エルト當サニ之カ採用ヲ爲スヲ得策トスル。終ニ臨ンテ私ハ酒ノ專賣カ酒弊ニ對抗スル有力ナル一武器タル(註一九)コトヲ高唱スル者テアル。(大正九年四月)

(註一七) につちハ到ル處ニ酒精ニツキ獨占ノ方向ニ向フノ傾向ヲ示ストイフ¹⁹⁾

(註一八) 佛國ニ於テ風ニ一八八〇年あるぐらゝ此提案ヲ出シ、瑞西ニハ一八八六年來、露國ニハ一八九四年來(此國テハ此前三モ既ニ十七世紀ニ并ニ十九世紀ノ初メニ行ハレタコトカアル)火酒獨占カ行ハル。尙ホせるびあニモアリ²⁰⁾

(註一九) リつばーミモ亦曰フ、獨占ハ飲酒對抗戰爭ノ爲メノ一ノ重要ナル武器テアルト²¹⁾

第九編 住居稅ト公平負擔

緒言

(一) 私ハ最近、奢侈的住居稅(又ハ高級住宅稅)ヲ立案シタ。其案及之カ説明ハ後編ニ述フルコトトシテ、茲ニハ其前置トシテ、由來實際ニ行ハレ且ツ理論上最モ多ク論議セラレタル單純ナル住居稅カ、租稅ノ第一要求タル公平負擔又ハ給付能力原則ト如何ナル關係ニ立ツヤニ就キテ論究ヲ試ミヤウト思フ。私ノ新案、奢侈的住居稅ノ當否モ固ヨリ先ツ、其ノ給付能力原則上ノ批判ヲ要スルカ、其ヲ爲スニツケテモ、先ツ一應、單純ナル住居稅ト此原則トノ關係ニツキテ由來行ハレタル學說ノ通觀ヲ爲シ置クコトヲ便トスル所テアル。是レ私カ茲ニ此研究ヲ試ムル所以テアル。

(二) 儲テ又之カ説述ノ順序トシテハ、先ツ第一ニ單純ナル住居稅ノ普通ノ課稅標準タル住居ノ賃貸價格カ、住居者ノ所得又ハ財産ト一定ノ關係ニアルコトヲ唱フル學說ヲ擧ケテ之ヲ批評シ、次キニ右ノ賃貸價格カ住居者ノ全支出又ハ全奢侈的支出ト一定關係ニアルト爲ス説ヲ擧ケテ之ニ批評ヲ加ヘ、以テ單純ナル住居稅カ如何ナル度マテ公平負擔ノ要求ニ適フ

19) Nitti, l. c. p. 564.

20) Lippert, a. a. O. S. I. Nitti, l. c. p. 586. Ehoberg, a. a. O. S. 366, 367. Lewin, a. a. O. S. 4-5.

21) Lippert, a. a. O. S. 75.

ヤヲ明ニシヤウ。

第一段 住居税ト所得又ハ財産

其一 住居税ト所得

(一) 住居税ハ普通ニ屋賃税トモ稱セラルル程テ(註一)、其普通ノ課税標準ハ即チ住居ノ賃貸價格テアルカ、之ニツキ(A)先ツ其賃貸價格ノ大小カ住居者ノ所得ノ大小ヲ反影ストイフ見方カアル。即チ所得ノ大ナル者ハ其小ナル者ヨリモ一層大ナル屋賃ヲ有チタル住居ヲ使用スルトイフノテアル。尤モ之ヲ傳フルニツキ學者ノ用ユル所ノ語ニ強弱カアツテ、或ハ屋賃カ此所得關係ヲ示スノ最良標準トイヒ(註二)、或ハ大體又ハ近接的ノ表示トモイフ(註三)。ソシテ夫ノ佛國ノ動産税ノ如キモ亦タ此假定ニ基キタルモノノ如クテアリ(註四)、而シテ又斯カル假定ヲ生スルニ至ツタ理論上ノ根據ハ、今日ノ人々ハ出來ルタケ愉快ナル生活ヲ遂ケヤウトイフ欲求ヲ有ツ所テ、所得大ニ餘裕カ大トナレハ、自ラ大ナル又高價ナル住居ヲ選ムコトトナルトイフニ在ル(註五)。B)其カラ所得ト給付能力トノ關係ハ當ニ所得ノ大小分量ニツキテ之アルノテナク、所得ノ種類品質ニツキテモ之アル所テ、所得力同一大テモ所

得種類カ異ルトキハ給付能力ニ大小ヲ生スルモノテアル。例之人的所得者ハ物的所得者ヨリモ能力ノ比較的小ナルモノテアルカ、前者ハ自然、後者ヨリモ割合ニ小ナル住居ヲ取ルコトニナルノテ、住居又ハ屋賃税ニヨツテ自動的ニ公平負擔ノ行ハルルトイフコトモアル(註六)。是レ亦住居税カ所得ニ關シ公平負擔ヲ得ル上ニ於テノ長所テアルトイフノテアル。

(註一) 諸多ノ學者ハ此税ヲ指スノニ住居又ハ屋賃税トイフ詞ヲ用ユル。例之、ヘッける、ローベるヒ、ぶあいふあ
1. シーセンノ如シ (Wohnungs-od Mietsteuer, rent or occupier's taxes)¹⁾

尤モ或學者ハ住居屋賃税(L'impot sur le loyer de habitation はーリシ)屋賃及住居税(Mieth-und Wohnmu stener. ぶいすちんぐ)又ハ之ヲ逆ニシテ住居及屋賃税(匿名政治家)テフ詞ヲ用ユル。及トイフ字ヲ用井タル場合ハ其前後ノモノヲ別物ト見タノテアラウ。之ニツキ加藤氏ハ住居税ハ屋賃税ト同一テナイ。給付能力ニ基カス、屋賃ヲ各人カ公共行政給付ヨリ受クル利益ノ測定標準トシテ利用スル屋賃税ト同一テナイ。住居ノ外ニ他ノ建物ヲモ税スル所ノ屋賃税トモ同一テナイトイフ。²⁾

(註二) 例之ふなつてハ此税ハ住居ノ價格又ハ價值カ住民ノ給付能力ニ對シテ正比例ニ立チ、隨ツテ其適當ナル表示タルトノ假定ニ基クテイヒ、あいぜんはるま所得ニ對シテ公平ナル割合ヲ示ス消費ハ他ニナイトイヒ、こつさハ收入ト住居ニヨリ生シタル支出トノ間ニハ關係カ存スルトイヒ、ぶあいふあハ少クトモ同一地ニテハ或度マテ各人ノ處分シ得ル方便カ大トナレハナルホト愈々多ク彼力之ヲ其住居ニ使用スルコトトナルヲ假定スルヲ得トイヒるつじあハ實際多クノ人ニテハ其住居ノ價值ハ其經濟狀態ノ最良ノ徵證ナリトイヒ、らうハ屋賃出費ハ多クノ場合ニ能力ノ良キ記シテアルトイフ。更ラニぐらゝニ依ルトふなるくすまんモ亦タ、住居支出カ各人ノ全經濟狀態

1 Hockel, Lehr' rech. II. S. 289. Derselbe, Mietsteuer. (Conrad, Hwb. 3 Aufl. I. S. 696 Eheberg, Fw. 9 Aufl. S. 389. Pfeiffer, Staatseinnahmen. II. S. 482 Dawson, Municipal life and government in Germany. p. 415.
2) Leroy-Beaulieu, Traité. 5 éd. I. p. 374. Fuisting, Grundzüge d. Steuerlehre. S. 108. Staatsmann a. D., I w. S. 249. Kato, Wohnungs-und Luxussteuern. S. 29.

チ最明ニ現ハス、一層大ナル財産又ハ所得ニテハ住居出費ノ相當ナル増加カアリ、住居ニ對スル一層大ナル出費カ一層大ナル財産又ハ所得ヲ決セシムトイフ考テアル。³⁾

(註三) 例之(一)ハ此稅ノ長所トシテ、住居カ實際住者ノ經濟上ノ地位ノ大體ノ標準ヲ示スコトヲ舉ケ、ばすて一層大ナル財産又ハ所得ヲ混同サレタルノ行ハルル理由トシテ人ノ家ノ價值ハ其所得ノ満足ナル標準也トイフ信仰リトイフモ、他ノ所ニテハ、此カ所得ニ對シテ單ニ可ナリ比例的トナルトイフ所テアル。ば一りゆーモ或所テハ、屋賃ノ大サハ財産又ハ所得ノ大サノ最多ク欺カサル徵證テアルトイフカ、他ノ所テハ此稅ハ完全テハナシ。併シ人民ノ所得又ハムシロ能力ニ財政事項ニテ出來ルタケノ近接ヲ以テ比例ト爲スチ得トイフテ居ル。⁴⁾

(註四) わぐな一ハ佛國ノ動産稅ニツキ、住居支出ヨリ所得額ヲ決シ、隨フテ見積所得カ課セラルヘキモノトシテ所得稅ノ稅ヲ此ニ於テ考ヘタトイフ。同様ノ趣旨ヲへつける、ぐら一ふ、ばすて一層大ナル所得トイフモ説ク。⁵⁾

(五) 例之、ば一りゆーハ之ヲ説明シテ、安樂ト外形的奢侈トヲ愛スル所ノ吾人ノ社會ニテハ、人カ一般ニ其財産ニツキ爲ス所ノ第一行爲ハ其住所ヲ大ニシ、且ツ美ニスルコトアルトイヒ、らうハ多クノ人ハ廣ク、便利且ツ適當ナル住居ノ愉快ニ大ナル價值ヲ置キ、隨フテ富者ハ其所得ニ相當ナル支出ヲ此住居享樂ノ爲メニ爲スチ例トストイヒ、ぶあいふあ一ハ美ニシテ且ツ廣キ住居ヲ有ツヘキ希望ハ凡ヘテノ文明國ニ於テ一般アルトイフ。⁶⁾

(註六) ば一りゆーハ論シテ曰ク、此稅ノ他ノ利益ハ永久の所得トノ間ニ區別ヲ爲シテ、前者チ後者ヨリモ重ク課稅スルコトアル。一ハ屋賃稅ハ自動的ニ之ヲ行フノ大効益カアル。實際一時的又ハ終身ノ所得、職業的所得、又ハ其人的活動ニ屬スル利益ノ持主ノ多數ハ其屋賃ニ向ツテ、永久の所得ノ持主ニヨリ同目的ニ出サレルヨリハ割合ニ小ナル額ヲ支出スルト。⁷⁾

(二)A) 成程、右ノ見解ハ人ノ普通ノ情ヲ寫シタモノテ、人ハ同シナラハ、所得カ大キク餘裕

カ大テアレハ、其ノ小ナル場合ニ比シテ一層大ナル住居ヲ用ユル傾カアリ、所得種類ノ差異ニヨリ給付能力ノ異ルニツキテモ、人ハ自ラ之ニ適應スルカ如キ住居ヲ選ムコトトナリ住居稅ニヨツテ自動的ニ公平ナル負擔ノ課セラルル傾カアル。テ大體ニ於テ住居稅カ公平トイフノハ不當テハナイ。(B)但タ併シ精密ニ考ヘルト決シテ公平トハイヘナイ(註七)。(イ)先ツ同額所得ニテアリナカラ屋賃ノ必スシモ同額タルヲ得サル原因カアル。(1)其第一ハ主觀的原因テ、即チ人カ其全所得中、幾許ヲ支出ニ充テ、其全支出中、更ラニ幾許ヲ住居支出ニ充ツルヤハ、其人ノ考次第テアリ、或屈伸力ヲ有ツ所テアル(註八)。各人ノ生活ニ關スル哲學觀、道義觀、經濟觀、社會觀、衛生觀等ニヨリ區々ナル結果ニナリ得ル(註九)。斯クテ其結果トシテ、大所得者カ小住居ニ甘ンスルコトニモナリ、小所得者カ大住居ヲ敢テ用ユルコトニモナル。ソレカラ人的所得者カ却ツテ同額ノ物的所得者ヨリモ一層大ナル住居支出ヲ爲スコトトモナル。ソウスルト住居稅テハ給付能力ニ對シ不公平ナル結果ニナルトイフ非難ヲ免レナイ。成程其ハ不公平負擔ニハ相違ナイ。カ併シ他ニ之ヲ恕スヘキ所以ノモノカ多少ハアル。即チ餘裕ノ大ナルニ拘ラス、屋賃ヲ節シタル者カ此稅ニヨリ割合負擔ノ輕キヲ見ルトモ、其ハ結局、彼カ社會ニ對シ資本充實ニ貢獻シ、多數民ノ生活ヲ豊ニスルコト

5) Wagner, Fw. 2 Aufl. III. S. 453. Heckel, Lehrbuch. II. S. 281. Derselbe, Mietsteuer. (in Conrad' Hwb. VI.) S. 696. Graf, a. a. O. S. 106. Bastable, l. c. p. 445.

6) Beaulieu, l. c. p. 374. Rau, a. a. O. S. 230. Pfeiffer, a. a. O. S. 488.

7) Beaulieu l. c. p. 376.

3) Voelke, Fw. S. 363. Eisenhart, Kunst d. Besteuerung. S. 177. Cossa, Grundriss d. Fw. S. 118. Pfeiffer, a. a. O. S. 288. Roscher, Fw. 5 Aufl. II. S. 73-4. Rau, Grundsätze. 5 Aufl. II. S. 230. Graf, Das Problem d. Luxussteuern. S. 175.

4) Echeberg, a. a. O. S. 389, Bastable, Public finance, 3 ed. p. 397. 443. Beaulieu, l. c. p. 374. 379.

ニ寄與シ、并ニ別ニ資本財産ニ對スル課稅ノ機會ヲ與フルコトニヨツテ貢獻モ出來ルカラ太シキ不都合トハイヘナイ。斯ク辯護スルコトカ出來ル(註一〇)。(2)第二ハ容觀的原因テ、各人ノ年齡健康、⁸⁾家族ノ大小(獨身ト否、小供ノ多少)、⁹⁾職業(註一一)、社會的地位(註一二)、慣習、¹⁰⁾住居スル市邑地區(註一三)等ノ爲メニ、同一所得テモ住居費ニ大小ヲ生セサルヲ得サラシムル。即チ多少ハ本人ノ意ノ儘ニナラサル關係ニテ割合ニ多クノ屋賃ヲ出サナケレハナラヌトイフコトカアル。併シ其中ニ就キテ年齡健康ノ如キハ通例大シテ有力ノモノテナク、慣習ハ本人ニ於テ餘程打勝ツコトカ出來ル。但シ健康ノ程度ニヨツテハ時ニ普通人ヨリモ高キ屋賃ヲ拂フノ餘儀ナカラシメ洵ニ氣ノ毒ナル場合カアル。テ精密ニイフト少クトモ特殊ノ病人ヲモツ家族テハ之ヲ斟酌スルカ至當トイフコトニナル。併シ其ノ之ヲ斟酌スル方法ハ甚タ六ツカシイ。家族ノ大小ニ至テハ各人ノ選ム所テアツテ、其多キ爲メニ割合ニ大屋賃ヲ拂フコトトナリ、高キ稅ヲ負フコトトナルトモ、其ハ自業自得テアルトイフ見方モアルカ(註一四)、併シ其ハ酷テアル。若モ人口ノ減退カ望マシクナク、家庭ノ和樂、人々ノ健康維持カ社會上望マシトスルナラハ、此大家族者ヲ宥恕シナケレハナラヌ(註一五)。又此カ斟酌ハ太シキ困難ヲ見スシテ實行スルコトヲ得ル(註一六)。職業ヤ社會的地位ヤハ其

8) Heckel, Lehrbuch, II. S. 282. Derselbe, Mietsteuer etc. S. 697.

9) Heckel, Lehrbuch, II. S. 282. Derselbe, Mietsteuer etc. S. 697. Roscher a. a. O. S. 74. Vocke, a. a. O. S. 364. Ehböck, a. a. O. S. 389. Rau a. a. O. S. 230. Eisenhart, a. a. O. S. 178. Cossa, a. a. O. S. 118. Conrad, Grundriss. Fw. 2 Aufl. S. 110. Quincy Adams, Gebäude- und Mietsteuer. S. 66-7.

10) Vocke, a. a. O. S. 264.

ノ爲メ屋賃カ大キクナリ租稅カ高クナルカラ嫌ヤトイフナラハ、轉業、貶位ヲ爲セハ可テアル。其ヲセヌ以上ハ、高キ負擔モ自業自得トイヒ得ルカ其ハ酷イ。或ハ高キ社會的地位ニハ無形ノ愉快カアリ高キ屋賃ヲ伴フ職業ニハ其レタケ利益多キコトカ伴フカラ埋合セカアルトモイヘル(註一七)。カ併シ又進ンテ考フルト其職業又ハ地位ニ伴フ屋賃ト其ノ之ニ伴フ有無形ノ收入トノ關係タケナレハ、其間ニ公平アリトモイヘルカ、更ラニ其上ニ租稅マテモ屋賃ニ加ヘテ尙ホ公平ナル埋合カアリヤハ疑ハシトモ考エラルル。特ニ地位ニ伴フ高キ屋賃トイフ方ハ一ノ虛榮ニ過キヌカラ、之ニ高キ稅ヲ負ハシテモ太シキ不都合ハナク、ムシロ當事者ニ若干ノ反省ヲ促スニ足ルトモイヘルカ(註一八)、營業上避クヘカラサル生産費トモ見ルヘキ高キ屋賃ニ稅ヲ課スルノハ産業壓迫ノ嫌モアリ、旁々此方ハ斟酌スルノカ至當トイフコトニナル。テ之ニツキテハ營業所免稅ノ原則ヲ設ルカ(註一九)、又ハ之ヲ課稅シテモ特別低率ヲ課スルコトトスヘキテアル(註二〇)。其レカラ住處ヲ市邑地區ノ何レニ定ムルカハ各人ノ自由ノヤウニモ見ラルルカ、實ハ少カラス職業ヤ教育ノ都合ヤ家事關係ヤ等ノ爲メニ制限セラルルカラ、此モ精密ニイヘハ幾分ノ斟酌ヲ加ヘナケレハナラヌ。尤モ屋賃ノ高キ處ハ其レタケ有無形ノ何等カノ利益ノ多イ處ト見レハ見ラルルカ、其ハ其レテ

埋合カ得ラレテ居ルカラ、其上ニモ屋賃ノ大小ニヨリテ課税スルノ結果、所得ノ大小ニ相
 當ナラサル課税トナルノハ不當ナル。或ハ又屋賃ノ割合安キ處ニ住メハ、自然大ナ家ニ
 住ムコトニナリ、其レテ屋賃支出カ大ナルコトトナツテ埋合カ得ラルルヤウテモアルカ、
 (註二一) 實際其ハ決シテ十分ナル埋合ニハナラヌ(註二二)。(ロ)次キニハ異額所得者間ニテハ
 大體、小所得者ホト割合ニ大ナル屋賃ヲ要スルトイフ關係カアル(註二三)。此點ハ屋賃ニ累
 進税率ヲ適用スルコトニヨツテ、所得ニ對シ比例課税トナラシムルコトモ出來、更ニ最下
 級小民ニハ一定額以下ノ屋賃ヲ免税スルコト(註二四)ニヨツテ此非難ニ對抗スルヲ得ル。ケ
 レトモ夫ノ小所得者割合ニ大屋賃トイフ關係カ精密ニイヘハ右ノ如キ規則正シキ累進ヲ至
 當トスルホトノ規則正シキ關係ノモノテナイコトヲ忘レテハナラヌ。又大所得必スシモ割
 合ニ小屋賃テナク、却テ割合ニ大屋賃ヲ負フ場合ノアルコトヲモ考慮シナケレハナラヌ(註
 二五)。

(註七) しほふれハ、住居支出ハ一般ニ所得ノ標準ヲ與ヘナイトイヒ、こんら一己ハ人ノ住居カ其生活狀態ヘノ結
 論ヲ許スモ、固ヨリ完全ナル精密ニテハ然ラストイヒ、ふいすちんぐモ所得ノ使用ニヨリ假定セラレタル所得ヲ税
 スルモノハ全ク不満足トイフ。¹²⁾

(註八) につちハ曰ク、家ノ需要ハ大ナル屈伸力ヲ示ス。特ニ住居家屋ニ於テ然リト。¹³⁾

(註九) ふなづけハ曰ク、人的嗜好カ住居ノ選擇及之カ爲メニ爲サルル支出ニ大ナル重要ヲ有スル。——營業者ノ中
 ニテモ努力向上スル人ハ永キ間往々ニシテ一生涯、其屋賃カ其給付能力ニ對シ正比例ニ立タサル住居ニ満足スルト
 、「つさモ亦曰ク、人ノ性癖、嗜好、考等ニヨリ屋賃ニ大差異カアルト。更ラニ、ぼりゆーハ曰ク、其財産カ許スヨ
 リモ以下ノ屋賃ヲ有ツコトニヨツテ税ヲ逃レントスル吝嗇漢ヲ妨クルノ難キコトハ明カテアルト。¹⁴⁾

(註一〇) べるぎうすハ吝嗇漢、特ニ其實ヲ埋藏シ其富ヲ生産的ニ使用セサル者ノ數ハ大クナイトイヒ、みるモ、吝
 嗇漢モ今日ハ其實ヲ徒ラニ蓄積スルモノテナナイ。生産的ノ爲メニ放資スルモノテアルカラ、此カ國富ヲ増加
 スルノミナラス、随フテ税ヲ拂フ一般方便ヲ増加スルトイヒ、あいぜんはるモ借屋人カ安キ住居ニテ住居税ヲ貯
 蓄スルモノチ、其丈々多ク他ノ課税スヘキ物體ノ爲メニ使用スルテアラウシ、其モ貯蓄スル場合ニハ資本税ヲ課セ
 ラルルコトトナルテアラウトイヒ、ぼりゆーモ此吝嗇漢ハ後日國庫ニヨリ取ラレルヲ得ル。彼等カ消費セサルモ
 ノハ貯蓄ニ對スル恩惠及獎勵ノ一種テアル。又相続税ノアルトキハ、此吝嗇漢ニヨツテ貯蓄サレタル所得ハ年々刻
 ンテ税セラルル代リニ、死時ニ一纏メトシテ税セラルルコトトナル。尤モ此カ稍少キ割合テアラウ。兎ニ角、國家
 ハ大シテ失ハナイテアラウトイフ。¹⁵⁾

尤モ之ニ對シ反對ヲ表スルアリ、例之ふなづけノ如シ。曰ク、斯カル節約ニハ恩典ヲ與フル値アリトイフカ、其ハ
 實際アルヨリハ過キタルモノテアル。何トナレハ國家ハ良キ經濟人ヨリ維持サルヘキテアツテ、節約カ承認スヘキ
 モノテアツテモ、此カ租税ヲ免セラルヘキモノテナイカラ。或人カ其給付能力ノ割合ニ餘リ少ク拂フタケハ、他ノ
 人カ餘リ多ク拂ハナケレハナラヌコトニナル。ソシテ此ハ不正テアルト。¹⁶⁾

(註一一) 例之らうハ多クノ營業又ハ其他ノ職業ニヨリテ或大サ、地位及性狀ノ住居ヲ取ル餘餘ナキコトトナル。——
 然ルニ他ノ者例之資本金及多クノ恩給持ハ此ニツキ自由ナル選擇ヲ有ツトイヒ、ふなづけハ營業者カ其營業ノ爲

14) Vocke, a. a. O. S. 364. 365. Cossa, a. a. O. S. 118. Baulieu, l. c. p. 375.
 15) Bergius, Grundsätze d. Fw. S. 276. Eisonhart, a. a. O. S. 181. Mill, Principles. Bk. V ch. III. § 6. Baulieu, l. c. p. 375.
 16) Vocke, a. a. O. S. 365.

11) Vocke, a. a. O. S. 364.
 12) Schäffle, Steuern. B. T. S. 346-7. 347. Conrad, a. a. O. S. 110. Fuisting, a. a. O. S. 108.
 13) Nitti, Principes. p. 450.

メニ家ニ於テヨリモ一層多ク旅行ニアリ、家カ唯々寓居ニ過キサル人ハ此税ニヨリ宥恕セラルル。——然ルニ多クノ者ハ職業及營業事情ニヨリ然ラサレハ其經濟上ノ地位ニ相當ナルヨリモ高キ住居ヲ有ツコトヲ餘儀ナクサルトイヒ、るつじあ！ハ屋賃税ノ不公平トナル場合トシテ、交通頻繁ナル地位及最下階ノ家ニ住セサルヘカラサル小賣商人ト大商人特ニ銀行トノ對立ヲ擧ケ、こんらーどハ業務力往々ニシテ労働者、商人、役人ヲシテ一定ノ地方ニ住マサルヲ得サシメ、又ハ特ニ廣キ場所ヲ使ハサルヲ得サシムル。例之其住居ニテ同時ニ仕事場ヲモ 指物師ノ如シトイフ。其他ふあいふあ、わるか、につち、へつける、わーべるひ、等此關係ヨリスル不公平ヲ注意スル所テアル。¹⁷⁾

(註二二) こつさハ人ノ地位ノ種類ニヨリ、屋賃ニ大差異ヲ生スルコトヲ説キ、ふなつけモ地位ノ關係カ之ニ關係アルコトヲ唱へ、之方例トシテ市民ハ役人ヨリモ一層簡單ニ住居スト爲ス。ぐらーふハ特ニ高キ役人ハ其社會上ノ地位ノ爲メニ富者ト住居ヲ同フセサルヘカラサルモノトス。¹⁸⁾ 或ハ見様ニヨツテハ此ニ入レルコトカ出來、見様ニヨツテハ、前ノ主觀的原因ニ數フヘキ興味アル事例ハふなつけノ擧クル所ノモノテアル。即チ財產家カ其營業及富裕ノ減退ニ際シ、其支出上出來ルタケ永ク人ノ注意ニ觸レサラント努ムルコトテアル。¹⁹⁾

(註二三) らうハ屋賃ハ異レル場所ニテ頗ル不等トイヒ、ふあいふあ、ふなつけ、及こんらーどモ地方ニヨリ屋賃ノ大差異アリト爲シ、市ト田舎トノ照對ヲ擧ケ、わーべるひハ更ラニ此屋賃カ田舎ト都市トノ間及各箇ノ市區ニテモ著シキ相違アリトイフ。へつけるハ住居費ハ市邑ニヨリ異リ、屋賃ハ特ニ急速ニ發展スル市ニテハ、一層不動ナル事情ヲ有スル處ニ於ケルヨリモ相對的ニモ一層高シトイヒ、につちハ頗ル貧ナル國ニシテ新築ノ爲メニ資本ヲ投スルコト少キ處テハ、屋賃カ頗ル高ク、往々ニシテ(下級者ノ爲メノ伊太利ノなぼりノ如ク)所得ノ三分ノ一又ハ二

分一ヲ成ストイツテ居ル。²⁰⁾

(註二四) 之ニツキべるぎうすハ此非難ハ考慮ノ値カナイ。何トナレハ其財產狀態ニヨリテ愉快ニ且ツ長ク養育シ得ルヨリモ多クノ小供ヲ作ツタモノハ、其カ爲メニ少キ税ヲ拂フコトヲ要求スル權利ヲ有タメカラトイヒ、みるハ彼ハ不平チイフ資格ハナイ。何トナレハ大ナル家族ヲ有ツコトハ彼自ラノ選擇テアルカラ。公益ニ關スルタケテハ此カ獎勵サルルヨリハ、ムシロ抑制サルヘキモノテアルトイフ。²¹⁾

(註二五) ぼーりゆーハ此不平ヲ解クニハ税率ニテ家族ノ員數ヲ考慮スレハ可トイヒ、ふなつけモ亦未婚者ノ重負擔及小供數ノ對酌ニヨツテ之ヲ計算スルヲ得トス。²²⁾

(註二六) 尤モ此カ標準ノ定メ方カ多少恣意ヲ伴フノ非難カアリ(ふなつけ)、此考慮カ多少此課税ノ長所タル賦課ノ容易ヲ損スルコトニハナル。即チ各住家ニ幾人ノ住者アリヤノ問題ノ確定カ被稅者ノ内部及家族事情ニ於ケル痛マシキ侵入ヲ伴フ(ぐらーふ)。²³⁾

(註二七) みるハ之ニツキ、營業者カ倫敦ノ大通ノ如ク屋賃ノ獨占率ナル地位ニ生活スルヲ餘儀ナクサルトイフ訴ハ注意ノ値ナキヤウテアル。何トナレハ彼カ此特別地位ヨリ待ヘク期待スル特別利益カ、彼ニトリ其特別費用ト同一以上ナルノ故ノ外ハ、何人モ之ヲ爲サナイカラトイヒ、ほふまんモ此場合ニ特別ノ負擔カ多クハ營業ノ特別ノ收益ニヨツテ賠償セラルトイフ。²⁴⁾

(註二八) 尤モぐらーふハ予ト反對ノ見チ以ル。曰ク、斯カル虛偽ナル社會的名譽觀ヲ抑ユルコトニ此税カ貢獻スルコトハ何等ノ損害ナシトイフ者アランモ、斯カル税ニヨツテハ彼等ノ區域ニ行ハルル觀念ノ犠牲トナレル罪ナキ者ノミナ税スルコトトナル。此見解其モノハ税法ニテハ抑ヘラレナイ。此ニハ非常ナル一般の社會改革ヲ要スルテアラウト。²⁵⁾

20) Rau, a. a. O. S. 211. Pfeiffer, a. a. O. S. 488. Vocke, a. a. O. S. 364-5. Conrad, a. a. O. S. 111. Eheberg, a. a. O. S. 389. Heckel, Lehrbuch. II. S. 282. Derselbe, Mietsteuer etc. S. 697. Nitti, l. c. p. 4. o.
 21) Bergius, a. a. O. S. 276-7. Mill, l. c.
 22) Caullieu, l. c. p. 376. Vocke, a. a. O. S. 364.
 23) Vocke, a. a. O. S. 364. Graf, a. a. O. S. 178.
 24) Mill, l. c. Hoffmann, Die Lehre von den Steuern. S. 238.
 25) Graf, a. a. O. S. 107.

17) Rau, a. a. O. S. 230: 231 Vocke, a. a. O. S. 365. Roscher, a. a. O. S. 74. Conrad, a. a. O. S. 110-111. Pfeiffer, a. a. O. S. 491. Wa'cker, Fw. S. 8. Nitti, l. c. p. 451. Heckel, Lehrbuch. II. S. 282. Derselbe, Mietsteuer etc. S. 697. Eheberg, a. a. O. S. 389.
 18) Cossa, a. a. O. S. 118. Vocke, a. a. O. S. 364-5. Graf, a. a. O. S. 107.
 19) Vocke, a. a. O. S. 229.

(註一九) 諸多ノ學者ハ此税ニ於テ營業所ヲ租税スヘシト爲ス。らう、へつける、みる、わぐな、ぶあいふあ、あいぜんはるまノ如シ。²⁶⁾

(註二〇) あいぜんはるまハ營業用ト混合セル住居ノ場合ニハ低率ヲ課スヘシトシ、匿名政治家ハ營業所又ハ營業用ノ室及場所ハ小ナル率ヲ負フヘキモノトシ、ばーりゆーハ職業上ノ必要(例之、醫師辯護士ノ如キ)ニ關シテハ税率ノ制定ニ於テ考慮ヲ爲スコトヲ得ル。其職業カ同所得ヲモツ人ノ普通ノ屋賃ヨリモ一層大ナル屋賃ヲ餘儀ナクサルル義務者ノ爲メニ税率ヲ一定度ニテ輕減スルヲ得ルトイフ。²⁷⁾

(註二一) みるハ曰ク、屋賃ノ低キ處テハ所得ノ同額ノ人ハ通例一層大且ツ良キ家屋ニ住スル。斯ノ如クニシテ屋賃ニ對シ最初ニ見ユルヨリハ一層多ク其所得ノ同割合ヲ支出スルコトニナル。若然ラサレハ、恐ラクハ彼等ノ多クカ此等ノ場處ニ住スルノハ他ニテ住スルニハ餘リニ貧ナルカ爲メテアル、隨フテ輕ク課税セラルヘキ最強キ要求ヲ有ツト。へるぎうすモ亦タ略ホ同事チイフ曰ク、大都市ニテハ人カ小住居ニテ満足スルコト、多クノ場處ニテ屋賃ハ住民カ貧ナルノ故ニ低キコトカ考察ニ來ルト。ふなるくすまんモ人カ特ニ高キ住居費ノ存スル處テハ室ノ數ニ於ケル制限ニヨツテ稅ヲ輕クスルヲ得ルコト、住處ノ安キ處ニハ住居需要ノ十分ナル満足アルコトカ此稅ヲ壓迫的ナラシメサルコトニヨツテ辯護スル(ぐらーふ)。²⁸⁾

(註二二) ぐらーふハふなるくすまんノ說ニ對シテ反駁シテ曰ク、斯カル證明カ正當カハ疑問テアル。何トナレハ住居價值ノ左ナクトモ既ニ高ク隨ツテ其上ノ稅ノ特ニ重ク壓迫スル所テハ、此ニヨリ生セララル住室ノ數ノ制限ハ確カニ輕易トハ感セラレスシテ犧牲ト感セラレ、小市等ニ於ケル如ク、大住居ノ安キ處テハ、此安キ住居價格ハ通例タタ小市ノ民カ大市ノ民ニ比シテ讓ル所ノ諸缺乏、例之小供多キ家族ニハ重ク感スヘキ其學校及教育所ノ缺乏及之ニヨリ條件サレタル子女ノ多費ナル外地ニ於ケル勉強ニ對スル合理的平準テアルカラ。此平準カ高キ住居稅ニヨリ

無效トセララルトキニ此ハ正當トイフヲ得ヌト。²⁹⁾

(註二三) ふなつげ、わぐな、ぬーべるひ、あいぜんはるま、ぐらーふ、加藤等、所得ノ大ナルニ隨ツテ割合ニ小ナル住居支出ヲ爲スコトヲ說ク。特ニろつじあーハ小所得ヲ有スル家計特ニ其大市ニ於ケルモノハ富者ヨリモ其全支出ノ一層大ナル割合ヲ住居ニ用スルヲ例トストシ、例之、伯林テハ一八六八年ニ一萬八千たーらー以上ノ所得ヲ有スル所得稅義務者ハ住居屋賃ニ對シ所得ノ七・五七%、一千一百たーらーノ所得稅義務者ハ二七・五五%、一千たーらー以下ノハ五〇・〇〇%以上ヲ支出シタトイヒ、らうハ佛蘭西ノ憲法議會ニテハ其產稅ノ制定ニ於テ一萬二千法ノ屋賃ハ十二倍半ノ所得ニ相當シ、三千乃至五千法ノ屋賃ハ八倍ノ所得ニ、二千乃至二千五百法ノ屋賃ハ六倍ノ所得ニ、五百乃至一千法ノ屋賃ハ四倍ノ所得ニ、百乃至五百法ノ屋賃ハ三倍ノ所得ニ、百法以下ノ屋賃ハ二倍ノ所得ニ相當スルコトヲ假定シタトイヒ、こんらービハ簡單ナル勞動者ノ住居力上階級ノ住居ヨリモ割合ニ高キコトハ一般ノ經驗テアル。特ニ大市テハ勞動者ノ家族ハ其所得ノ五分一乃至三分一ヲ住居ノ爲メニ支出シナクテナラヌ小官吏ハ四分一、高級官吏ハ五分一乃至六分一、然ルニ頗ル富メル人ハ往々ニシテ單ニ百分五乃至一ノミナ住居ノ爲メニ使用スルコトヲ假定スルヲ得ルトイヒ、へつけるハ統計研究ニ依レハ、大市テハ下層社會ハ其所得ノ三分一乃至五分一、中等階級ハ四分一乃至六分一、上流階級ハ七分一乃至十分一、全ク富メル階級ハ恐ラクハ十二分一乃至二十分一ヲ住居目的ニ使用ストイフ。³⁰⁾

(註二四) へつける、らう、ほふまん、あいぜんはるま等、齊シク一定最小住居支出ノ免稅ヲ認ム。一九〇七年ニ立法部ニ報告ヲ出シタル紐育ノ特別租稅委員會ノ薦メタル累進住居稅モ唯小所得ヲ有スル者ヲ課セサルカ如キ十分高キ免稅ヲ條件トシタ(まーじゆ)、ぶあいふあーハ此一定屋賃ノ免稅ハ人ノ生存ニ必要ナル支出ハ免稅スヘシトイフコトヲ要求スル公正理由ヨリモ要求セラルトイフ。³¹⁾

29) Graf, a. a. O. S. 179.

30) Vocke, a. a. O. S. 364. Eheberg, a. a. O. S. 389. Wagner, a. a. O. III. S. 453-4. Eisenhart a. a. O. S. 178. Graf, a. a. O. S. 107, 175. Kito, a. a. O. S. 37. Roscher, a. a. O. S. 74. 460. Rau, a. a. O. S. 232. Conrad, a. a. O. S. 110. Heckel, Mietsteuer etc. S. 696.

31) Heckel, Mietsteuer etc. S. 6, 7. Rau, a. a. O. S. 231. Hofmann, a. a. O. S. 238. Eisenhart, a. a. O. S. 179. Marsh, Taxation of land values in American cities. p. 59. Pfeiffer, a. a. O. S. 490.

26) Rau, a. a. O. S. 231. Heckel, Mietsteuer etc. S. 697. Mill, l. o. Wagner, a. a. O. II. S. 618. Pfeiffer, a. a. O. S. 491. Eisenhart a. a. O. S. 179.

27) Eisenhart, a. a. O. S. 179. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 249. Beauieu, l. o. p. 375.

28) Mill, l. o. Lorgius, a. a. O. S. 277. Graf, a. a. O. S. 179.

(註二五) ぼーリウーハ曰ク、實際頗ル大ナル財産ニツキテ見レハ、屋賃ニ献ケラルル所得ノ割合ハ屢々中等有産者及往々ニシテ労働者カ其住居ニ供スル所得ノ割合ヨリモ一層大ナルモノテアル。例之、年金ヨリ十五萬又ハ二十萬法ヲ受ル人ハ往々ニシテ大ナル市、特ニ巴里ニテ其屋賃三萬又ハ四萬法ニモ達スル邸宅ヲ構ヘルカ、(同一ノ人カ往々ニシテ其屋賃四千又ハ五千法ナルヘキ田舎ノ家ヲ構ヘル)——斯クテ頗ル大ナル富チ有ツ人カ其所得ノ六分一、五分一、往々ニシテ四分一ヲモ屋賃ニ供スルコト稀テナイト。³²⁾

(三) 斯クノ如ク此住居税カ精密ニ所得ニ關聯シテ公平トハイヘナイニモセヨ、日本ノ所得税ノ如ク人的所得者ニ過重負擔トナツテ大部分ノ物的所得者ヲ見逃シ又ハ輕ク負擔セシムルモノニ比スルト、或ハムシロ此住居税ノ方カ大體上ニ公平ヲ得テ居ツテ一層良キモノトモイヒ得ル。然レハトテ夫ノ嘗テ英佛ニテ試ミラレタル如ク、所得税ノ代リニ此住居税ヲトイフ運動³³⁾ハ此ハ金權的、反民主的テ固ヨリ採ルヲ得ナイ(註二六)。ムシロ日本ナトテハ折角有ツ所ノ所得税ヲ改良シ完成シ、ソシテ住居税ノ或改良サレタルモノニテ其所得税ヲ補完セシムルノカ最得策テアラウ。住居税ニ此補完能力サヘナシト見ル人モアルカ、其ハ過キテ居ル(註二七)。

(註二六) ふなづけハ此運動ヲ解シテ諸多ノ富者ノ利益ノ爲メトシ、わるかハ住居税ノ攻撃ハ一部、主義的テ、封建的、同業組合的、反せみちつきの色彩チ有チ、此税ノ辯護ハ一部矢張り主義的テ、金力的トイフ。³⁴⁾

(註二七) ふなづけハ此税カ所得税ノ補完モ爲シ得ナイ。何トナレハ此カ所得税ト同一ノ課税標準即チ全給付能力チ

32) Beaulieu, l. c. p. 378.
 33) Vocke, a. a. O. S. 364.
 34) Vocke, a. a. O. S. 364, Walker, a. a. O. S. 84.

而モ其不確ナル弊徴ニテ表ハサレタルモノチ有ツカラトイフカ、³⁵⁾ 住居税ハ所得税ノ如ク實際、人ノ全給付能力ヲ直接ニ捕捉セントスルモノテナク、單ニ屋賃ニ現ハレタル特別給付能力ヲ捕捉スルモノテアルカラ、此非難ハ當ラナイ。此住居税ト雖モ他ノ諸税ト共ニ所得税ノ補完トナルコトヲ得ル。

其二 住居税ト財産

此ノ如ク住居税ハ所得課税ノ上ニハ不精密不満足テアリ、随フテ所得課税ニ依ル公平負擔ノ見地カラ見レハ、所得ヲ直接ニ捕捉スル所得税ニ劣ルコトニナルカ、併シ唯一點、其カ所得税ニモ勝ルコトカアル。他テハナイ。所得カ人ノ經濟上ノ地位ノ唯一完全ノ表示テナク、財産モカ其地位ニ影響スルノテアルカ、此點ヨリ見レハ、住居支出ノ方カ所得ノ影響ノ外、財産ノ影響ヲモ受ケ随フテ少クトモ此點ニテハ住居税ノ方カ所得税ヨリモ一層公平トイヒ得ル(註二八)。左リトテ所得税ノ如ク公平課税ノ上ニ重大任務ヲ有ツモノヲ止メルコトハ勿論出來ナイ。タタ別ニ此所得税カ行ハレテ、其缺ヲ補フモノトシテ或改良サレタル住居税ヲ用ユルコトハ右ノ見地カラ得策トイフヲ得ル。

(註二八) 加藤氏ハ住居税ハ此カ所得税ノ矯正トシテ用立ツトイフ大ナル特徴チ有ツ。財産税カ此外ニ存シナイ處トハ、住居税カ財産所有ニ依ル各人ノ給付能力ヲ計算ニ入レルコトニヨツテ然リトイフ。³⁶⁾

35) Vocke, a. a. O. S. 365.
 36) Kato a. a. O. S. 58.

第二段 住居税ト支出

(一) 更ニ給付能力ノ測定標準トシテ、人ノ支出、特ニ其奢侈的支出ヲ選ムトイフ觀點ヨリスルトキハ、住居支出ハ其代表的ノモノトシテ、他ノ種ノ支出ヨリモ一層便利テ之ヲ以テ全支出ノ大小ヲ見ル最良ノ標準トスルコトカ出来ル(註二九)。勿論人ノ全支出又ハ全奢侈的支出ヲ見出スコトカ出来レハ、其ニ越シタルコトハナイカ、其カ困難テ、何カ一ノ支出ニヨツテ之ヲ推定スルニ甘シヤウトナレハ何ウシテモ先ツ此住居支出ニ來ラナクテハナラヌ蓋シ此カ諸支出中、最重要ナル一目テアリ(註三〇)、其カ最外形的ヲ捕捉容易トイフ租税技術上ノ便利モアル(註三一)。勿論之ヲ奢侈的支出ノ代表ト見レハ、各家ニツキ一定最小價值ヲ超過スル部分ノミヲ課税標準トスルコトトスヘキテアリ、單純ニ全支出ノ代表ト見ル場合ニテモ右ヨリハ低キ度ニテモセヨ最小價值ノ免税ヲ至當トスル。ソシテ此實行ハ決シテ困難テハナイ。斯クテ人ニヨツテハ之ヲ以テ代表的ノ消費税トセントスル程テアル(註三二)。

(註二九) あだむすみすハ曰ク、全生活費ニ對スル屋賃費ノ割合ハ富ノ度ノ異ルニヨリ異ル。此カ恐ラクハ其最高度ニ於テ最高ク、此カ低キ度ニ於テ漸次減退シ、斯クテ一般ニ最低度ニテ最低テアラウ。——此故ニ屋賃ニ於ケル税

ハ一般ニハ富者ノ上ニ最重ク課セラルルコトナルテアラウ。而シテ平等ノ此種ノモノニ於テ恐ラクハ頗ル不相當ナルモノハナイテアラウ。而シテ富者カ其收入ノ割合ニテノミナラス、多少其割合以上ニテモ公費ニ貢献スルコトハ不相當テナイテアラウ。——一般ニイヘハ人ノ全支出ノ大小ヲ判断スルヲ得ル出費又ハ消費ノ或物件トシテハ屋賃ヨリ良イモ、ハナイト。みるモ曰ク、人ノ支出ノ中ニテ全體上其方便ノ此ヨリモ一層良キ標準ヲ示スモノハナイ。人カ屋賃ニ拂フモノカ或モノノ標準トナルトスレハ、此ハ彼カ持ツ物ノ標準テハナクテ、彼カ支出ニ供シ得ルト考フルモノノ標準テアルト。べるぎうすモみるト略ホ同事ナイヒ、更ニうんぶんばつはハ住居ハ模型的使用物ノ諸多ノモノニ代リ得ルトイヒ、ぶあいふあ一ハ各人ノ全支出ニ對スル代表トシテ選マレ得ル凡ヘテノ各支出中ニテ、住居ニ對シテ爲サルルモノカ確ニ適當ナルモノテアルトイフ。³⁷⁾

(註三〇) あいぜんはるミハ文明人ノ最重要且ツ同時ニ最認メ得ヘキ需要ハ住居支出テアルトイヒ、ふなづけハ住居カ生活需要ノ種々ノ物體ノ中ニ就キ現ハルル重要ノ爲メニ、他ノ消費税ノ如ク而ク此住居税カ無價值テハナイトイフ。³⁸⁾

(註三一) ふなづけハ其課税標準ノ認識シ得ヘキコトノ爲メニ此住居税カ他ノ消費税ノ如ク而ク無價值テナイトイヒ諸多ノ學者、へつける、ばすてーぶる、ばーりゆー、ぶあいふあ一、こつさ等凡ヘテ此税ノ賦課徴收ノ容易簡單ナ舉ク。³⁹⁾

(註三二) 例之べち一ハ此税ヲ消費税中最良キモノトシ、性質上他ノ支出ト關聯スル支出ノ集合的消費税ノ推薦ニ於テ特ニ住居税ヲ考ヘタ。ソレカラでつか一ハ一七四三年ニ凡ヘテノ他ノ種ノ消費税ヲ住居税ニヨツテ代ラシメヤウト提案シタ。⁴⁰⁾

みるノ如キハ家屋税カ占有者ニ歸スルタケテハ、若モ此カ家ノ價值ニ正比例ヲ得ルナラハ、此カ凡ヘテノ税ノ中ニ

37) Adam Smith, W. of N. Fk. V. Ch. II. Pt. II. Art. I. Mill, l. c. Bergius, a. a. O. S. 276. Umpfenbach, Fw. S. 285. Pfeiffer, a. a. O. S. 488
 38) Eisenhart, a. a. O. S. 177. Vocke, a. a. O. S. 364.
 39) Vocke, a. a. O. S. 364. Heckel, Lehrbuch. I. S. 281. Derselbo, Mietsteuer etc. S. 697. Bastable, l. c. p. 397, 443. Beaulieu, l. c. p. 379. Pfeiffer, a. a. O. S. 489. Cassa, a. a. O. S. 119.

テ最公平及最故障ナキモノ一テアルトサヘイフテ居ル。⁴¹⁾

(二) 併シナカラ (A) 全支出又ハ全奢侈的支出ト屋賃支出又ハ其一定小價值ヲ超ユル屋賃支出トノ間ニ一定ノ規則正シキ關係アリトイフコトハ出來ナイ。前ニ所得ニツイテイヘル所ヲ準用スルヲ得ル通り、各人ノ自由意思ニヨリ並ニ其住所地、職業、地位、家族、慣習等ニヨリ不同ノ割合タルヲ免レス、且ツ支出ノ大小ニ對シ規則正シク増減スルトイフコトモナイ (註三三)。故ニ精密ニ公平ナル税トナルコトハ出來ナイ。 (B) 併シ全支出又ハ全奢侈的支出ヲ捕捉スルコトカ出來ス各箇ノ支出ニ課スル普通ノ消費税ヲ甘ンシ、之ヲ採ルコトトナレハ此住居税ニ存スル不公平ノ如キハ凡ヘテノ消費税ニ共通テアリ (註三四)、ムシロ此等ノ箇々のナル消費税ノ中テハ此住居税カ一番公平テアリ、貧乏人ニモ堪エ易キモノトイヒ得ル (註三五)。特ニ最小屋賃ヲ免税トシ又ハ極メテ奢侈的ナル住居ノミノ税トスルナラハ、決シテ不當ノ税テハナイ。住居税ヲ以テ生活必需品税ト見ル (註三六)ニ至テハ過キテ居ル。假令最小屋賃ノ免税ヲ行ハナイニシテモ、夫ノ生活必需品其モノニ課スル消費税ヨリハ勝ツテ居ル。小民ニモ負擔トナルカ富者ニ一層大ナル負擔トナル傾アルタケニ於テ勝ル。テ夫ノ入市税等ニ代ルニ此住居税ヲ以テシャウトイフ運動又ハ考 (註三七)ノ如キハ敢テ不當テナ

40) Roscher, a. a. O. S. 76. Rau, a. a. O. S. 232. Parien, Traité des impôt. 2 éd. II. p. 22.
41) Mill, l. o.

イ。勿論之ヲ以テ單一ノ消費税トシタリ、況ヤ之ヲ單一税トスルニ至テハ到底認ムルヲ得ヌカ、之ヲ改造シテ奢侈税のモノトシ、他ノ消費税等ト共ニ所得税ノ補完ヲ爲サシムルハ決シテ不當テハナイ (註三八)。

- (註三三) ろつしあーハ小所得ヲ有スル家計ハ特ニ大市ニテハ富者ヨリモ其全支出ノ一層大ナル割合ヲ住居ニ使用スルヲ例トストイヒ、ぶあいふあいモ同様ノ意味ノコトナイフカ⁴²⁾如キハ大體論テアツテ精密ナル議論テハナイ。
- (註三四) 例之、吾輩漢カ此税ノ一部ヲ脱シ得ルコトハ凡ヘテノ消費税ニ當ルコトテアリ (みる、べるぎうす) 小供多キ細民ニ不相當ニ重ク課税サルコトモ諸多ノ消費税ニ當ル所テアル。(ぼーりゆー、加藤)⁴³⁾。
- (註三五) ぶあいふあいハ之ニヨツテ貧民ニ要求サルル過重負擔トイフコトハ多クノ他ノ消費税ヨリモ小イト注意ス⁴⁴⁾。
- (註三六) へつけるハ之ニ絶對生活必需品ノ課税ニ對シテ爲サルル凡ヘテノ非難カ當ルコトトナルトイフ⁴⁵⁾。
- (註三七) ぼーりゆーハ屋賃ノ一定小額ヲ免スルコトヲ止メテ、ムシロ此屋賃税ヲシテ最重ク且ツ最窮屈ナル間接税、例之、葡萄酒、さいだー、麥酒税ヲ廢止セシムル道具トシテ使用スルヲ選ムヘシト爲シ、ぶあいふあいハ此カ地方税トシテ入市税消費税及他ノ間接税ヨリノ收入ニ代ル爲メニ益々採用ニ來ルヘシトイフ⁴⁶⁾。
- (註三八) じゆふれーハ、一般又ハ單一使用税トシテノ住居税ハ反對スヘキモノテアル。他ノ間接使用税ノ傍ニ使用税體系ノ中ニ入ラレテ、初メテ此カ家屋收益税ノ重要ナル改良、其補充ヲ許ステアラウトイヒ、びるんばうむハ此税ニ關聯シテ、スヘテ各税ハ唯々全租税體系内ニノミ其正當ナル價值ヲ維持スルヲ得ル。斯クテ恐ラクハ本來不當ニシテ酷ナル税カ一定ノ體系ノ中ニ正當ニ包容サルルコトニヨツテ満足ナル任務ヲ盡シ得ルノ故ニ辯護セシムトイフ⁴⁷⁾。

42) Poscher, a. a. O. S. 74. Pfeiffer, a. a. O. S. 489.
43) Mill, l. o. Iergius, a. a. O. S. 276. Beaulieu, l. o. p. 375. Kato, a. a. O. S. 57-8.
44) Pfeiffer, a. a. O. S. 480.
45) Beckel, Lehrbuch. II. S. 281. Derselbe, Mietsteuer etc. S. 696.
46) Beaulieu, l. o. p. 377. Pfeiffer, a. a. O. S. 491.
47) Schaffle, a. a. O. S. 46. 347. Birnbaum, Die gemeindlichen Steuersysteme. S. 231.

結 論

要之、住居税、特ニ屋賃ヲ標準トスル其ハ決シテ理想的完全ニ公平ナ税トハイヘナイ。カ之ヲ一ノ消費税ト見レハ他ノモノニ勝ツテ公平トイフコトカ出來、所得税ニ比スレハ公平ニ於テ劣ルカ、併シ大體的公平ヲ得テ居リ、所得税ノ補完トナル資格ハアリ、缺點多キ所得税ナトニ比スレハ或ハムシロ之ニ勝ルトイヘル。ソレテ此カ公平負擔ノ見地カラ萬更ラ棄テタモノテナイトイフコトニナル。之ヲ單純ナル儘ニテ又單獨ナル税トシテハ薦ムルヲ得ヌカ、之ヲ改造シ且ツ租稅體系中ノ一税トスルナラハ、相當ニ價值アルモノトナリ得ルト考エラルル。(大正八年七月)

第十編 住居税ノ本質及其構造

緒 言

(一)前論文ニテハ住居税ノ公平負擔要求ニ對スル關係ヲ吟味シタ。ソシテ其カ完全ニ公平テハナイカ、大體的ナル公平ニハ適フ所テアリ、之ヲ改造シテ、而モ租稅體系中ノ一ト爲スナラハ、萬更ラ棄テタモノテモナイトイフ結論ニ到達シタ。即チ夫ノ高級住宅税ノ如キモノナラハ、少クトモ右觀察點ヨリシテ承認スヘキモノトイフコトニナツタ。併シ私ノ提案タル高級住宅税ヲ了解スルカ爲メニハ、右ノ公平負擔要求ト本税トノ關係ヲ明ニシタノミテハ不十分テアツテ、今一步立入ツテ一般住居税ノ本質ナリ構造ナリニ就イテ、從來行ハレタル學說及立法例ヲ吟味シテ置クコトヲモ、肝要ト信スルニ依ツテ、茲ニ敢テ之ヲ試ムルモノデアル。

(二)本文説述ノ順序トシテハ、先ツ此税ノ本質ヲ説キ、其レヨリシテ其構造ニ及フコトスル。一體、事ノ性質カライフト、税ノ構造カ一通リ明ニナラヌト、其本質モ明ニシ難キ譯テハアルカ、茲ニ私カ研究ノ結果ヲ報告スルニ就イテハ、其本質論ハ當然、構造ヲ一通リ

明ニシタ上テノ結論ニ外ナラヌカラ、別ニ本質論ノ前ニ構造ヲ説クニモ及ハヌ。ムシロ問題ノ根幹タル本質ノ方ヲ述ヘテ、然ル後、枝葉ニ屬スル構造論又ハ課徴方法問題ニ移ルトイフ普通ノ説明順序ニ從フコトトスル。

第一段 住居税ノ本質

其一 住居税ノ定義

住居税トハ人ノ住居ニ對シテ課徴スルノ税テアル(註一)。屢々屋賃税ト混同セララルコトハ前論文ニモ一言シタ通りテアルカ、其住居税カ必スシモ屋賃又ハ住居ノ賃賃價格ニ依ルモノニ限ラナイコト、後段ニ述フル如クテアルカラ、假令其ノ屋賃ニ依ルコトカ普通テアルニシテモ、矢張り之ニ基キテ定義ヲ與エス、住居ノ方ニ重點ヲ置イテ意義ヲ定メルノカ選ムヘキテアル。モシモ此屋賃ニ重キヲ置イテ定義スルコトニナルト、屋賃ヲ標準トスル家屋税營業税ヲモ包括シナケレハナラヌコトニナル。然ルニ普通、屋賃税トイフ詞ヲ用キル人モ實ハ住居税ノ意味テ、住居又ハ屋賃税トイフ風ニイフテ居ルノテアルカラ、矢張り住居ノ方ニ重キヲ置イテ定義スヘキモノテアル。

(註一) 學者ノ學クル定義ノ二三例ヲ示スト、例之、ふおつけハ曰ク、住居税ハ住居者ノ税テ、カ實際拂フ所ノ屋賃ノ度ニ應ジテ、又ハ所有者ヨリシテ自ラ利用サレタル住居ノ持ツ賃賃價值ニ應ジテ取ルモノテアルト。らうハ曰ク、住居税トハ各人民ヨリ、屋主タルト借屋人タルトヲ問ハス、彼ヨリ住ハレタル場處ノ推定的屋賃ニ從フテ拂ハルル税テアルト。(註二) べるひハ曰ク、住居又ハ屋賃税トハ住居場處ニヨリ、又ハ住居ノ目的ノ爲メニ爲サレタル支出ニ依リ測定サレタル家屋又ハ家屋ノ部分ノ住居者ノ税テアルト。へつけるハ曰ク、住居又ハ屋賃税ハ一家屋又ハ家屋部ノ住居者ニ對シ、其所有者タルト借屋人タルトヲ問ハス課スル所ノ直接税テアルト。¹⁾

其二 住居税ノ部屬

住居税ノ定義ハ右ノ如シトシテ、儲テ然ラハ住居税ハ理論上、如何ナル種類ノ税ニ屬スルカ是レ一ノ興味アル問題テアル。

(一) 第一ニ此税カ、臺帳税從率税ノ意義ニテモ、負擔ノ直接間接ノ意義ニテモ、直接税ニ屬スルコトニ異議ハナイ(註二)。尤モ負擔ノ直接間接カライヘハ、實ハ豫メ一税ノ部屬ヲ定メルコトカ難イトモイヒ得ル。轉嫁關係ノ如何ニ依ツテハ、住居者テナクテ所有者ノ負擔ニ歸スルコトモアリ得ルノテ(註三)、精密ニイヘハ此税ノ性質ハ原則上定マラナイ。タ、事實上定マルトイヒ得ル。併シ此ノ如キコトハ獨リ住居税ニ限ツタ問題テハナクテ、凡ヘテノ税ニツイテ或ハムシロ精密ニイヘハ殆ント凡ヘテノ税ニツイテ負擔ノ直接間接トイフ標準

1) Vocke, Fw. S. 36.; Itau, Grundskä za. 5. Aufl. I. S. 230. Elieberg, Fw. 9 Aufl. S. 389. Heckel, Mietsteuer. (Conrad, Hwb. 3 All. VI.) S. 696.
2) Heckel, a. a. O. S. 696. Derselbe, Lehrbuch. II. S. 281.

カラ起リ得ル所テアルカラ、茲ニ取立テテ議論スル程ノ事テナイトモイヒ得ル。

(註一) へつけるハ直接税ト明言ス。尤モこんらーじハ、此税ニテハ人カ屋賃ノ支出ヨリ、收入ニ及ヒ、随ツテ間接ニ給付能力ニ結論スルノ故ヲ以テ、間接税トスル特殊ノ見解ヲ持ツ。加藤氏モ同見ナルカ如シ。³⁾
 (註二) 此ハ家屋税ノ方カライフテモ同様テ、轉嫁關係ニ依ツテハ家屋税カ借屋人タル住居者ノ負擔トナツテ、所有者ノ負擔トナラヌコトモアリ得ル。へつけるハ曰ク、住居税及家屋税ノ兩税ニ於テ、轉嫁事情カ屋賃ノ自由ナル協定ノ爲メニ事實上ノ結果ヲ推移セシムルコトヲ得ル。斯クテ或時ハ借屋人ヲ、他ノ時ハ屋主ヲ終局ノ擔稅者ト爲スコトトナルテアラウト。⁴⁾

(二) 次キニ所得、財産、收益、交通及消費税ノ分類カライヘハ、此税ハ明カニ(A)消費税テアル⁵⁾。直接消費税又ハ使用税テアル(B)イ(1)夫ノ家屋税ノ如ク家屋ノ所有者ニ生スル有又ハ無形ノ收益ニ課スルト異リ、其使用者即チ住居者ニ其使用又ハ支出ノ標準ニ從フテ課スルモノテアル(註四)。間々、之ニツキ轉嫁關係ヲ考慮シテ、住居者又ハ借屋人ノ負擔ニ歸スルタケニテ消費税テアルナトトイフ説明ヲスル人モアルカ(註五)、斯クイヘハ家屋税テモ借家人ノ負擔ニ歸スルタケニテハ消費税也トイハナケレハナラナクナツテ終ウ。一體、所得收益交通及消費税ノ分類ヲ、ソナ風ニ見テ行クヘキモノテナク、其々ノ税ノ精神又ハ趣旨ニ着眼スレハ足ルノテアル。テ往居税カ住居者ヲ課スルモノトシテ出來タ以上ハ、假令其カ

轉嫁ノ事實上ノ結果ニ於テ間々屋主ノ負擔ニ歸シテモ其ヲ其レタケニテハ特ニ收益税テアルナトトイフニ及ハナイ。住居者ノ負擔ニ歸スルタケニテ消費税トイフニモ及ハヌ。矢張り元來住居者即チ消費者ヲ税スル趣旨ノモノトシテ消費税ニ入レテシマウヘキテアル。之ト同様ニ家屋税ノ方ハ家ノ所有主ノ收益ヲ税スル積リテ出來タモノ故、收益税ニ入レル事ニスヘキテアル。尤モ英國法ノ如ク、名稱カライツテモ家屋税(詳シクイヘハ住居家屋税(Inhabited houses tax)⁶⁾)トナリ、實際一部ノ住屋ニツキテ所有者ヲ納稅義務者ト爲シ、借主カ税ヲ代ツテ拂ツタ場合ニハ賠償ヲ求ムルコトサヘ認ムルモノ(註六)ニテハ、往居税ト家屋税トノ混合カ存スルト見ルヘキテアル(註七)。2) 或ハ又住居税又ハ屋賃税ヲ營業ノ場處ニモ及ホシタルトキハ之ヲ以テ直チニ其營業所ニ關スルタケヲ營業税ノ追加税⁷⁾トイフ風ニ見ル人モアルカ、此ハ後ニモイフ如ク本來、純營業所ニハ之ヲ及ホスヘキテナク、半營業半住居所ニハ之ニ及ホスモ已ムヲ得ヌカ、之ニハ自然、純住居ヨリハ輕率ヲ課スルコトトナラウシ、然ルトキハ立法者ノ精神ハムシロ其住居タル分子ヲ見テ課シテ居ルトイフヘキモノテアル。併シ其ノ實際不明テアツテ、多少營業ノ分子ニモ課スルト見ルヘキ場合カアリ得ル。此場合ニハ矢張り住居税ト營業税トノ混合アリト見ルヘキモノテアル(註八)。執レニセ

6) Heckel, Mietsteuer etc. S. 698. Derselbe, Lehrbuch. II. S. 283
 7) Heckel, Mietsteuer etc. S. 695. Derselbe, Lehrbuch. II. S. 281.

3) Heckel, Mietsteuer etc. S. 696. Conrad, Grundriss. Fw. 2 Aufl. S. 110. Kato, Wohnungs und Luxussteuern. S. 29.
 4) Heckel, Mietsteuer etc. S. 696. Derselbe, Lehrbuch. II. S. 281.
 5) Kato, a. a. O. S. 29.

ヨ住居税其ノモノハ消費税テアツテ、収益税テハナイ。(ロ)或ハ又、此税ニツキ原則上又ハ事實上、住居支出カ義務者ノ所得ノ一定割合ト解セラルルナラハ、又ハ其レタケニテハ、此税カ所得税ノ領域ニ入込ミ得ルトイヒ、⁸⁾或ハ此税カ實際最多クノ場合ニ借屋人(ムシロ住居人)ノ所得ヲ税スルノ故ニ、住居消費又ハ所得税也トイフモアルカ、其ハ當ラナイ。元來住居税ハ屋賃ノ如キモノノミニ依ラス、例之、住居ノ大サノ如ク所得ノ大小ト關係ノ密ナラサルモノニ依ルコトカアリ、屋賃ニ依ルモノニテモ、其モ亦、到底此ノ如ク、得ノ一定割合トハイヒ難ク、假令大體ニテ然ルトイヒ得テモ、住居税カ所得其モノヲ捕捉セスシテ、住居支出ヲ見ル以上ハ、之ヲ所得税トイフハ當ラナイ。住居又ハ住居支出ニ現ハレタル所得ヲ見ルノ故ニ、住居税カ所得税也トイフナラハ、大抵ノ税ハ其カ所得ト或關係アリトイフノ理由ヲ以テ凡ヘテ所得税トイハナケレハナラナクナル。此ノ如クニ税ヲ分類スルナラハ、最早、所得收益財産交通消費税ノ分類其モノカ無意義ニナル。テ此分類法ヲ維持スル以上ハ、住居税ハ所得税ニ非ス、消費税也トイフノ外ハナイ。

(註四) へつけるハ住居税ハ住居者ヲ此目的ノ爲メニ彼ヨリ爲サレタル消費ノ標準ニ從ツテ課スルモノテ、家屋税ノ如ク家屋ノ使用ニヨリ直接又ハ間接ニ生スル所得ヲ課スルモノテナイトイフ。わぐな一モ略ホ同様ノコトナイフ。¹⁰⁾

(註五) あだむすみすハ此税カ住居者ニ歸スルタケニテハ——消費物ノ或他ノ種類ノ上ノ税ト同性トイヒ、へつけろハ或住居ノ借手カ終局ノ擔稅者ナルトキハ、消費税ノ特徴カ現ハルトイヒ、又他ノ處ニテ英國ノ住居税ニツキ此カ一方ニハ消費税ノ性質ヲ有シ、他方ニハ或ハ起ルヘキ轉嫁事情ノ爲メニ收益——税ノ特徴ヲ示シタトイフ。¹¹⁾

(註六) 英國ノ現行、住居税ハ通例ハ、租稅義務アル建物ノ住居者又ハ借屋人ヨリ、併シ分割賃貸サレタル家屋ニ於テハ所有者ヨリ、拂ハルヘキモノテアル。¹²⁾

斯クテ分割賃貸家屋ニテハ、所有者カ實際ノ納稅義務者(擔稅者)テアルヘキテアルカ、彼カ徵收區域内ニ住居セス又ハ一定期經過後ニ租稅ヲ拂ハサル場合ニハ、賃借人カ之ヲ支拂ハナケレハナラヌ。併シ其支出シタル稅額タケ屋賃ヲ減縮スル權利ヲ有スル。¹³⁾

(註七) ねーべるひハ、英國ノ屋賃税ハ一部、家屋收益税也トイヒ、わぐな一ハ收益家屋税ト住居税トノ混性ヲ有ストイヒ、ふいすちんぐモ此カ混合的性質ヲ有ストイフ。¹⁴⁾

(註八) わぐな一ハ、住居税カ營 所等ヲ税スル處テハ、此ハ本來、營利税特ニ營業税テアル。兩種ノ場處ノ屢々實際ニ於テ混雜シ且ツ聯絡セル爲メニ、住居税ハ往々ニシテ混合性ヲ有ストイフ。¹⁵⁾

第二段 住居税の構造

其一 住居税ノ課稅物件

(一) 住居税ノ課稅物件ハイフマテモナク、住居トイフモノテアル(註九)。或ハ住宅トイフテモ良イ。住宅トイヒタリトテ、一個獨立ノ建物トハ異ル。數個ノ建物カ集マツテ一ノ住宅ト

10) Heckel, Mietsteuer etc. S. 696. Derselbe, Lehrbuch. II. S. 28c-I. Wagner, 1w. 2 Aufl. II S. 618.
 11) Adam Smith, Wealth of Nations. B.V. Ch. II. pt. II. Art. I. Heckel, Lehrbuch. II. S. 281. 283. Derselbe, Mietsteuer etc. S. 698.
 12) Heckel, Mietsteuer etc. S. 698. Derselbe, Lehrbuch. II. S. 283. Wagner, a. a. O. III. S. 257. Vocke, a. a. O. S. 363. Fuisting, Grundzüge der Steuerlehre S. 321.

8) Heckel, Mietsteuer etc. S. 696. Derselbe, Lehrbuch. II. S. 281.
 9) Quincy-Adams, Gebäude- und Mietsteuer. S. 64.

ナルコトモアルヘク、一個ノ建物カ數個ノ住宅ニ分ルルコトモアル。後ノ場合ニ課税ノ便宜上、其一建物ヲ一括シテ課税物件トスルコトハアルケレトモ、此ハ全ク便宜上ノ處置ニ止マリ、原則上ニハ別ノモノト見ルヘキテアル。故ニ理論上、課税物件ノ單位ノ定マルノハ建物ノ物理上ノ状態ヨリハ、ムシロ其用法ニ依ルノテアル。(二) (A) 建物トイフテモ土地ト離レテハ住居トシテ意味ヲ成サヌカラ、土地ト不可分状態ニアル住居ト得ヘク又現ニ住ハルル場處トイフコトニナル。附屬建物、附屬土地モ當然其住居ニ用キラルルタケテハ、其課税物件ノ範圍内ニ置カルヘキテアル(註一〇)。(B) 併シ住居シ得ヘキ家屋ニニテモ現ニ住居サレテ居ラヌモノハ除外スヘク、(註一一)、營業所其他生産ニ用キラルルモノモ除外スヘク(註一二)、其住居用ト不可分ナルタケテハ特別輕率ヲ適用スヘキテアル(註一三)。其他公益的利用ノ住居ニ至テハ除外スヘキモノテアル(註一四)。

(註九) わぐな一ハ、嚴格ニイヘハ此ニハ唯タ私住居ノ税ノミカ屬ストイヒ、ぶあいふあ一ハ此ニテハ各家族自ラ住居スル場處ノミナ税スヘキモノトイヒ、あいぜんはるま其正當ナル賦課ノ爲メノ注意ノ一トシテ、此カ唯タ家事經濟上ノ使用ニ向ケラルル場處ノミナ課スルコトヲ擧グ。¹⁴⁾

(註一〇) 例之、英國法ニテハ、家屋ノ附屬物(附屬建物、園、庭等)ヲモ計算ス。¹⁵⁾

(註一一) あだむすみすハ之ニツキ、不住居家屋ハ税ヲ拂フヘキテナイ。此カ税ハ全ク所有者ノ負擔トナル。而カモ

其人ハ彼ニ仲利ヲモ收入ヲモ供セサル物件ノ爲メニ課セラルルコトトナルトイフ。之ニ從フテ英國テハ不住居中ニ屬スル空屋ハ税セラルル。¹⁸⁾

(註一二) みるハ、専ラ營業ノメニ占有サレタル建物及建物部カ家屋税ヲ免除サルヘシトイフコトハ承認セラレタル原則也トイヒ、らうハ此税ニテハ營業目的ニ利用サレタル場處ヲ除外スヘシトイヒ、へつけるモ亦タ此カ固有ノ住居需要ノ租税的捕捉ニ限ラルヘク、隨フテ營業所ニ及ホサルヘカラストイフ。ぶあいふあ一、こつさモ同様ノコトヲ説ク。¹⁹⁾

尤モ實例ニハ營業所ヲ併セ課スルモノ少カラス。例之、獨逸ノだんちつひニテハ凡ヘテノ種類ノ住居、工場、仕事場、倉庫、家畜小舎ノ使用ニ課税シ、白耳義ノがんにテモ、家屋、工場、店等ノ屋賃ニ課税ス。其他、家屋税ノ例テハアルカ、獨逸ノざくせんまいにんげんにテハ住居ト營業用家屋トヲ區別シ、後者ニ前者ノ半分タケノ率ヲ課シ農業ノミニ用井、住居サレサル家屋ヲ免税トス。²⁰⁾

(註一三) あいぜんはるまハ住居カ營業用ト混合スル場合ニハ低キ税率ヲ課スヘシトイヒ、匿名政治家ハ固有ノ住居場處ハ屋賃税ノ定率ヲ拂ヒ、營業所又ハ營業用ノ室及場處ハ低キ率ヲ負フヘキモノト爲ス。例之、英國法ニテハ、同時ニ營業目的、商工業、宿屋、酒屋、物貨業ニ用立ツ住居ニハ本税ノ三分二ノ率ヲ課ス。²¹⁾ 或ハ之ニ關聯シテ、るつしや一ハ其營業ノ爲メニ過大ナル屋賃ヲ拂フコトヲ證明スル者ニ輕減ヲ許スコトヲ得ヘシトイヒ、ぼりりゆ一ハ其職業カ、同所得ヲモツ人ノ普通ノ屋賃ヨリモ一層大ナル屋賃ヲ餘儀ナケル義務者ノ爲メニ税率ヲ一定度ニテ輕減スルヲ得トイフケレトモ、此カ實行ハ難ナルモノテアラウ。²²⁾

(註一四) 例之、英國ニテハ救貧院、貧民學校、類似ノ營造物、王族ノ住居ヲ免スル所テアル。²³⁾

其二 住居税 課税標準

18) Adam Smith, l. c. Wagner, a. a. O. III. S. 257. Heckel, Mietsteuer etc. S. 69. Derselbe, Lehrbuch II S. 28.
 19) Mill, Principles of P. E. l. k. V. Ch. III. § 6. Rau, a. a. O. S. 231. Heckel, Mietsteuer etc. S. 697. Pfeiffer, a. a. O. S. 49. Cossa, Grundriss d. Fw. S. 118.
 20) Dawson, Municipal life and government in Germany P. 4. Department of commerce and labor, Municipal taxation in European countries p. 10. Ackermann, Thüringer Gemeindesteuern S. 51.

13) Heckel, Mietsteuer etc. S. 69. Derselbe, Lehrbuch II S. 283-4.
 14) Eberberg, a. a. O. S. 89. Wagner, a. a. O. III. S. 257. Puisting, a. a. O. S. 321.
 15) Wagner, a. a. O. II. S. 618-9.
 16) Wagner, a. a. O. II. S. 518. Pfeiffer, Staatseinkommen. II. S. 491. Eisenhart, Kunst der Besteuerung S. 179.
 17) Heckel, Mietsteuer etc. S. 69. Derselbe, Lehrbuch II. S. 283

(一) 住居税ノ課税標準ノ最粗ナルモノハ人頭テ、此ノ如キ古式ノモノカ現代ノ獨逸ノ一部ニ存スル(註一五)ノハ洵ニ奇怪事テアル。中世ノ終リニ可ナリ廣ク行ハレタ所ノ竈又ハ煙突税ノ如キモ畢竟スルニ、住居状態ヲ示ス税テアルカラ、一ノ住居税トイヘルカ、此レ亦々全ク粗ナルモノデ、到底非常ニ不公平タルヲ免レヌ。次ニ發達シタル門窓税モ亦々粗ニシテ不公平ナルコト勿論テアル。(二) 今日ノ時世ニ於テ行フトシテハ到底右ノ如キモノニヨルコトヲ得ヌ。恐ラクA) 屋賃又ハ住居ノ賃賃價格又ハ住居價值ニ依ルノカ最公平テアリ、又精巧テアリ、實際ニモ此カ最普通テアル(註一六)。併シ賃賃セラレサル住居ニ至テハ、賃賃サレタル他ノモノヨリ類推評定スルノ外ナク(註一七)又評定法ニツイテハ、一般ニ若干ノ斟酌ヲ與エ(註一八)、或ハ特殊ノ住宅ニツキ特段ナル評定法ヲ定メ(註一九)、或ハ又臺帳ニ登錄サレタルモノヲ一定年毎ニ修訂スルコトモ行ハルルカ(註二〇)、別ニ斯カル特別斟酌ヲ與エス特段ナル評定ヲ行ハス、又凡ヘテ年々義務者ヲシテ屋賃ヲ申告セシメ、之ヲ政府ニ於テ修訂スルコト、スルノカ、ムシロ時勢ノ變遷ニ追隨シテ公平ナル課税ヲ爲スコトニナル所以テアル。勿論課税物件カ餘リ多イトキハ其ハ煩ニ堪エナイカ、高級住宅ノミニ課スルカ如キモノナレハ其モ行ヒ得ル。或ハ住居ノ屋賃ニ代ルニ、住居ノ元本價值ヲ標準トスルコト

21) Eisenhart, a. a. O. S. 179. Staatsmann a. D., Fw. S. 249. Heckel, Mietsteuer etc. S. 698. Derselbe, Lehrbuch. II. S. 283.
 22) Roscher, Fw. 5 Aufl. II. S. 74. Reaulion, Traité. 5 éd. I. p. 375.
 23) Heckel, Mietsteuer etc. S. 698. Derselbe, Lehrbuch. II. S. 283.
 24) Helffer, a. a. O. S. 4 4-5
 25) Rau, a. a. O. S. 231

モ出來ル(註二一)。併シ住居税ヲ一ノ財産税トセス、一ノ支出又ハ消費税トスレハ、ムシロ屋賃ニ依ルヲ選ムヘシトスル。(B) 此税ノ課税標準トシテハ右屋賃ニ依ツテ給付能力ノ適合トイフコトモ大體達セラレ、生産及社會政策上ノ要求ニモ大體適フコトニナルカ、尙ホ之ト關聯シ之ニ附帶シテ住居ニ於ケル土地利用ノ方法ヲ考慮スルコトカ社會及生産政策上重要テ、土地ヲ出來ルタケ節約スルコトカ望マシク、其ノ爲メ一住居ノ爲メニ用キラレタル土地ノ面積及其用法ヲ標準トシテ或追加課税ヲ爲スコトカ薦メラルル。此點ハ次ノ論文ニテ明カニセラレテアラウ。

(註一五) 此カ獨逸ノうゆるてんべるひニ行ハルル。すつつまがるミテハ、獨立ノ住居ヲ持ツ凡ヘテノ人ニ此カ課セラレ、室ノ專用テモツ寄宿人ニモ課セラル。²⁶⁾

(註一六) 此カ國稅トシテ採用サルルハ、英、佛、白、蘭、露テアル。²⁷⁾
 地方税トシテ行ハルルハ英國ノロンドンばら、ばーみんがむ、はつだーすふいるーど、²⁸⁾ 佛國²⁹⁾ 獨逸ノ嘗テノ柏林、現在ノめくれんぶるひじゅうわりん、ぶれーまーはーふねん、ふねげざつく³⁰⁾ 埃國³¹⁾ 白耳義ノあんまわぶ、がん、りいーじノ如シ。其他、和蘭ノ地方税モ同シ。

(註一七) ふなつけハ住居税ハ住居者カ實際支拂フ所ノ屋賃ノ度ニ應シ又ハ所有者ヨリ自ラ利用サレタル住居ノ持ツ賃賃價格ニ應シテ取ルモノトイヒ、あだむすみすモ亦々所有者ヨリ住ハルル家屋ハ若モ之ヲ他人ニ貸シタランニハ生シタルヘシト推定セラレル屋賃ニ從フテ課セラルヘシトイヒ、ほふまん亦々屋賃契約ノ存セサル場合ニハ、其存

26) Birnbaum, Die gemeindlichen Steuersysteme in Deutschland. S. 231. Dawson, l. c. p. 415
 27) Heckel, Mietsteuer etc. 698. Derselbe, Lehrbuch. II. S. 283-6. Fuisting, a. a. O. S. 103 108. 321. Voeko, a. a. O. S. 363. Ehborg, a. a. O. S. 389.
 28) Department of C & L., l. c. p. 61. 67. 76.
 29) Department of C & L., l. c. p. 17.
 30) Heckel, Mietsteuer etc. S. 699. Birnbaum, a. a. O. S. 370 390. 391.

スル近隣ノ類似ノ住居ノ例ニ依ツテ容易ニ屋賃ヲ評定スヘシトイフ。³⁴⁾
尤モベるぎうすハ之トハ多少異ル見テモツ。即チ斯カル場合、再生産ノ爲メニ要セラルヘキモノニ依リ、其評價額ハ元本ヲ示スヘク、其利子カ其年々ノ價值ヲ示シ、之ニ依ツテ其家屋ヲ課税スヘシト爲ス。ばすてーぶるモ亦タ先ツ賣買價又ハ市場賃賃價格ヲ測定シ、之ナキ場合ニハ、其他ニテ貸サレタル類似ノ住居ニ依リ、又ハ彼ノ家ノ設備ニ於ケル持主ノ蓋然的ノ出費ニヨツテ評定スヘシトイフ。³⁵⁾

(註一八) 例之佛國巴里ニテハ此税ノ臺帳屋賃即チ課税標準トナル屋賃ハ、實際ノヨリモ七十二弗三十八せんミタケ安クナリ、巴里以外テハ法定屋賃ハ實際屋賃ノ五分四トセラルル。³⁶⁾

(註一九) 例之、ぶれーまーはーふんニテハ、官及職宅ノ屋賃トシテハ、國及帝國官吏ノ爲メニ其人ノ給料ノ一割トセラルル。ふいげざつクモ同様。³⁷⁾

(註二〇) 例之英國テハるんごんノ爲メニ五年毎ニ行ハルル。佛國ニテモ一八三四年以降、屋賃ノ發展ヲ多少考慮スル爲メニ各縣ノ間ノ賦課ノ尾賃價值ニヨリ五年毎ニ改定スルコトトナツタ。其カラ家屋税ノ例テハアルカ、ざくせんまいにんげんニテハ最近十年間ノ平均ヨリ生スル屋賃ニヨツテ測定シ、新賦課ハ少クトモ十五年毎ニ行ハルル。³⁸⁾

(註二一) 例之、一九〇七年ニ立法部ニ報告シタル租育特別税委員會ノ薦メタル住居税ハ、土地及建物ノ評定價值ニ基ツケタ。³⁹⁾

其三 住居税ノ免稅點

(一) 住居税カ住居支出ニ課スル税テアル以上ハ、最貧困級ニ在ル者ノ爲メニ或點以下ノ住居ニ免稅ヲ行フノカ當然テアル。理論上モ然ルヘキテアルカ(註二二)、實例モ此ヲ採ルカ多イ

(註二三) 尤モ之ヲ採ルトシテ、出來レハ多少地方事情ニヨリテ其免稅點ノ高サヲ區別スヘキテアル(註二四)。併シ事情カ全國頗ル區々ニ亘ルノニ之ヲ精密ニ斟酌スルトイフハ難イ。大都會、中小都會、田舎ノ三位ナラハ區別カ出來ヌコトモナイカ、其レ以上精密ニハ行ヒ難イ。(二)而シテ此免稅點ニハ不必要論モアル。或ハ他ノ消費税ノ代リニ此税ヲ採ルナラハ免稅點ハ入ルマイトイフモアルカ、(註二五)、特ニ國ノ場合ニハ他ノ消費税ヲ止メルコトカ出來難イノミナラズ、地方ノ場合ノ如ク他ノ消費税ノナイトキニテモ、尙且ツ最下層ノ貧民ダケハ免稅スヘキモノテアルトイハナケレハナラヌ。或ハ免稅點ヲ定ムルトキハ、其以下ノ小家屋ノ需要カ増加シ、隨フテ其屋賃ヲ高メテ、貧民ヲ免稅セントシテ却ツテ齊シク課税シタノト同結果ニナル(註二六)トモイフカ、其トモ果シテ其ト同結果ニナルヤハ之ヲ必スルコトカ出來ス、又結結果如何ヲ問ハス、一定以下ノ貧民ハ免稅スルコトカ原則上至當テアルトイハナケレハナラヌ。尤モ此免稅點不要ノ考ニ基イテ、此ヲ設ケナイ實例モアル(註二七)

(註二八) へつける、らう、こつさ、等一定最小住居ノ免稅ヲ薦メ、一九〇七年ニ立法部ニ報告シタル租育特別税委員會ノススメタル住居税ニテハ、ムシロ唯小所得者ニ課セサルコトナルカ如キ十分高キ免稅ヲ薦メタ。ぶあいふあーハ貧民ニ於ケル健康及衛生上ノ理由ト、人ノ生存ニ必要ナル支出ハ免稅スヘシトイフコトヲ要求スル公正理由トヨリ之ヲ要求シタ。尙ホあいぜんはるごハ單ニ住居ノ下級ノ者ハ宥恕スヘシトイヒ、はーべるひハ一定以下ノ屋

37) Pirnbaum, a. a. O. S. 390. 391.

38) Heckel, Mietsteuer etc S. 698. Derselbe, Lehrbuch. II. S. 284. 285. Ackermann, a. a. O. S. 2

39) March, Taxation of land values in American cities. p. 58-9

31) Heckel, Mietsteuer etc S. 69.

32) Department of C. & L., l. c. p. S. 12.

33) Department of C. & L., l. c. p. 56.

34) Voelke, a. a. O. S. 36; A. Smith, l. c. Hoffmann, Die Lehre von den Steuern S. 238

35) Bergius, Grundsätze d. Fw. S. 297. Bastable, Public finance. 3ed. p. 448-9.

36) Department of C. & L., l. c. p. 17

賃ノ住居ハ免税セラレ、又ハ小額ヲ賃ハナケレハナラヌトイフ。⁴⁰⁾

(註三三) 例之、英ノ住居税ハ年收二十磅以下ノ凡ヘテノ住居、労働者住屋ニシテ其中カ分割セラレ、労働者カ事
實上住居スル場處ニ有シ各住居カ二十磅以下ノ屋賃ヲ有ツ場合ヲ免ス。⁴¹⁾

獨逸ノ都市ノ住居税ニテモ住居支出ノ最小額ハ多クハ免税セラレ、⁴²⁾ 獨逸ノめくれんぶるひしゅうりんにテハ
免税點ハ地方ニヨリ色々ニ規定セラレ五十馬克ト百二十馬克トノ間ヲ動搖ス。尤モ二三ノ處ハ免税點ヲ止メニシタ。
だんちのひニテハ二十五磅ヲ免税點トス。⁴³⁾ 白耳義ノがんにテハ三十八弗六十せんミヲ免税點トス。⁴⁴⁾

(註三四) へつけるハ最小住居費ハ地方的事情ニヨリ考慮スヘキモノトイフ。⁴⁵⁾

(註三五) ぼーリウーハ曰ク、人ハ一定小額ノ免税ヲ、此カ小納稅義務者ノ爲メニ、彼等カ間接稅ニツキ受クル過重
負擔ニ對スル賠償トシテ辯護スルモ、此稅ハ之ヲ定メテ徵收スルコトノ最易ナルモノノ一ナレハ、全ク免税スル
コトヲ行ハスシテ、ミシロ之ヲシテ最重ク最窮屈ナル間接稅ノ廢止ヲ許スヲ得ル道ハタラシムルヲ選ムヘシト。⁴⁶⁾

(註三六) きんじいあだむすハ曰ク、一定小屋賃免税ノ結果ハ、其以下ノ住居階級ノ方ヘノ需要カ頗ル、此増加
スル需要ト共ニ斯カル住居ノ屋賃カ、貧民カ其以前ノ屋賃并ニ之ニ課セラレタル租稅ヲ拂ヒタルト恐ラクハ同丈ケ
其住居ノ爲メニ拂ハサルヘカラサル程ノ高サニ進ムコトテアル。此故ニ小屋賃免税ハ國家ニモ借屋人ニモ利トナラ
ナイテ、唯々貸主チ利スルコトナルト。⁴⁷⁾

(註三七) 例之、うゆるてんべるひノ地方稅ノ如シ。此ハ所得稅ノ最小活資ノ免税ノ缺陷チ一部充タスヘキ任務ヲモ
ツカ其カ正當カハ疑ハシ。何トナレハ之ニ依ツテ最小活資免税ノ考及目的カ一部破ルルカラ。⁴⁸⁾

其四 住居税ノ稅率

(一) 住居税ノ稅率ハ住居ノ屋賃(又ハ家屋價值)ニ對シテハ累進的トスルノカ至當テアリ(註二

八) 實例ニモ此カ少クナイ(註二九) 其ハ大體、屋賃ノ大イホト、給付能力カ絶對的ノミナ
ラス相對的ニモ大イカラテアル。但シ此關係ハ精密ナモノテナイカラ、餘リ烈シキ累進ト
スルモ考物テアリ(註三〇)、或ハ此屋賃ニ於ケル相當ナ累進ヲ緩和スルニ、別ニ土地ノ面積
及利用法ニ對スル比例稅ノ附加ヲ以テスルモ可テアラウ。尙ホ此稅率ニツキ地方事情ノ斟
酌(註三一)、家族員ノ數(註三二)ナトモ出來ルタケ考慮スヘキテアル。尤モ高級ノニナレハ家
族員ノ數ハ格別考慮シナケレハナラヌトイフ程ノモノテナナイ。(二) 斯ノ如ク此稅ノ稅率ハ
屋賃ニハ累進トスヘキテアルカ、實例ニテハ其ニ比例ナルモアル(註三三) 又人頭稅のナル
モアル(註三四) 或ハ此稅カ配賦稅トナルコトモアルカ(註三五)、此場合ニハ勿論稅率ハ豫メ
一定シナイ。

(註二八) ぶあいふあー、こつさ、こんらいぎ、わーべるひ、ぐらーふ、加藤氏等、此稅ニ於ケル累進ヲ要求ス。紐
育特別稅委員會モ(一九〇七年ノ)之ヲスス。⁴⁹⁾

(註二九) 露國ノハ累進ニシテ、最低屋賃ノ六十分一ヨリ最高十分一二至ル。⁵⁰⁾ 獨逸ノ都市ニテハ百分ノ五乃至十
ニシテ、ういんなニテハ百分ノ十五マテ課セラル。稅率ハ累進ナリ。——嘗テ行ハレタル獨逸伯林ノハ正當率ヲ百
分六・六七トシ、累退的トナリ、六百—三百馬克ノ屋賃ニハ百分五、三百馬克以下ノニハ百分三テアツタ。ふいげざ
つくテハ二百五十馬克マテノ屋賃ニハ百分ノ四半、二百五十馬克以上ノニハ百分ノ六テ課ス。だんちつひテハ二十

44) Department of C. & L., l. c. p. 10.
45) Heckel, Mietsteuer etc. S. 697.
46) Beaulieu, l. c. p. 377.
47) Quincy-Adams, a. a. O. S. 68.
48) Birnbaum, a. a. O. S. 231.
49) Pfeiffer, a. a. O. S. 489. 491. Cossa, a. a. O. S. 118. Conrad, a. a. O. S. 110. Eheberg, a. a. O. S. 526. Graf, Das Problem der Luxussteuer. S.

40) Heckel Mietsteuer etc. S. 697. Rau, a. a. O. S. 231. Cossa, a. a. O. S. 118. Marsh, l. c. p. 59 Pfeiffer, a. a. O. S. 490. Eisenhart, a. a. O. S. 179. Eheberg, a. a. O. S. 526.
41) Heckel, Mietsteuer etc. S. 698. Derselbe, Lehrbuch. II. S. 283. Bastable, l. c. p. 444. Wagner, a. a. O. III. S. 257.
42) Heckel, Mietsteuer etc. 699
43) Birnbaum, a. a. O. S. 370. Dawson, l. c. p. 415.

五乃至五十磅ノ屋賃ニ百分ノ二半、五十磅以上ノ屋賃ニ百分ノ三ヲ課ス。ぶれめんテハ十磅以下ノ屋賃ニハ五磅ニツキ七片四分ノ一、十乃至十五磅ニハ五磅ニツキ九片半、十五乃至二十磅ニハ五磅ニツキ一志一片四分ノ一、二十乃至二十五磅ニハ五磅ニツキ一志六片、二十磅以上ニハ五磅ニツキ二志ヲ課ス。

(註三〇) 之ニツキほりゆいハ此稅ヲ累進トスルコトカ許サルル。併シ階級ハ少クスルカ可テアル。例之、六〇〇法以下ノ屋賃ノ稅ヲ百分六トスレハ、六〇〇—一、二〇〇法ノハ百分八、一、二〇〇—二、〇〇〇法ハ百分十、二〇〇〇以上ハ百分十二トスヘシ。此ヨリ以上ニ累進ヲ進ムルノニハ其理由ハナシ。何トナレハ屋賃ニ使用サルル所得ノ割合カ其ヨリシテハ、往々ニシテ減退スルヨリハ、増加スルコトカ證明サルカヲトイフ。わぐな一モ此累進率ハ經驗ノ十分ナル支持點、事實ノ豫備的ナル統計上ノ調査ナク、可ナリ恣意的ニ定メラレタトイフ。

(註三一) へつけるハ此方稅率ノ高サハ地方事情ニ適應スヘキモノトイフ。こつさハ之ヲ人口標準ニヨル分級ニヨリ斟酌スヘシトイヒ、ふおるくすまんハ田舎ヲ排除シテ、其他ヲ第一部五萬以上ノ人口ノ市、第二部五萬以下ノ人口ノ市トシ、第二部ニハ第一部ヨリモ多少低キ稅率ヲ提案シ、ぐら一ふモ亦獨逸帝國稅トシテ奢侈的住居稅ヲ採ルトスレハ、種々ノ國及地方ニ於ケル住居價格ノ非常ニ大ナル差異ヲ顧慮シテ、一層多クノ分級ヲ爲サナクテハナラヌトイフ。——實例トシテハ露國テハ市及重ナル地方ノミカ課セラレ、田舎ニハ課セラレヌ。五級ニ分タレ、第一級ハへてるすぶるぐ、もすこ、第二級ハ十市、第三級ハ六十七ノ市及町、第四級ハ百四十一ノ市町、第五級ハ五百二十二ノ市町テ、此分級ニツキテハ住民數、住居ノ數及價格、市町ノ行政的重要、商工業ノ發達等カ標準トナツタ和蘭ニテモ屋賃稅ノ賦課ノ爲メニ人口ニ從ツテ九級ニ分タル。

(註三二) へつけるハ其稅率ハ家族員數ノ平均ニヨツテ定メ、此ヲ超ユルモノニハ相當ノ割引ヲ、其以下ノニハ追加稅ヲ指定スヘシトイフ。ふおるくすまんノ案ニテハ此稅ヲ、一住居ノ住者數ノ一乃至四、五乃至六、七及以上ノ三

175. Marsh, l. o. p. 58. Kato, a. a. O. S. 38.
50) Koussler, Die Staatswohnungssteuer in Russland. Finanz Archiv. XI. S. 856.
51) Heckel, Mietsteuer etc. S. 699.
52) Heckel, Mietsteuer etc. S. 699. Birnbaum, a. a. O. S. 391. Dawson, l. o. p. 415-6.
53) Beauhieu, l. o. 378. Wagner, a. a. O. III. S. 454.
54) Heckel, Mietsteuer etc. 697. Graf, a. a. O. S. 179. 180. Department of Commerce and Labor, l. o. p. 56. Cossa, a. a. O. S. 118

級ニ分チテ課稅シヤウトシタ。ほりゆいハ例之、獨身者カ屋賃ノ一割二分トスレハ、夫婦者ニハ一割、ソシテ親ト同様スル未成年ノ小供一人ニツキ一分ツツ下ルコトトスヘシトイフ。而シテ佛國ニテハ一八九〇年來、七人ノ生存スル(合法的又ハ認知シタル)小供ヲ有スル父母ハ此稅ヲ免除セララル。

(註三三) 例之、獨ノめくれんぶるひ、しゆうゆりんノ地方稅ニテハ屋賃ニ對スル百分率ニヨリ課稅シ、和蘭ニテハ屋賃ノ百分五、白耳義ノがんにテハ屋賃ノ百分三ヲ課ス。英國モ久シク比例テアツタカ、一八九〇年ニ改正セラレ累進ニナツタ。即チ二十乃至四十磅ノ住居ハ三片、四十乃至六十磅ノハ六片、六十磅以上ノハ九片ソシテ營業用ノハ二、四、六片トス。

(註三四) 例之、ゆるてんべるひノ地方住居稅テハ、一年ノ稅額一人ノ男子ニツキ二馬克、一人ノ獨立セル婦人ニツキ一馬克ツツトス。

(註三五) 例之、佛國テハ此稅ハ配賦稅テアル。テ國家ノ之カ全割當額及各縣ノ割當額カ年々財政法律ニテ確定セララル。右終ノ割當額カ其配賦官廳ニヨツテ郡及市町村ニ配當セラレ、終局市町村配當額カ各箇ノ義務者ニ課セラレルコトニナル。

住居稅ノ租稅主體

(一) 住 稅ハ住居者ヲ租稅主體又ハ納稅義務者トシ、建物ノ所有者ヲ主體トセス。又スヘキモノテモナイ(註三六)。家屋稅ト異ル所テアル。(二) 便宜上又ハ制度ノ精神上、住居者テナクテ所有者ヲ義務者トスルコトモアルカ(註三七)、其ハ住居稅ノ固有ナル分子テハナイ。

(註三六) ぬーべるひ、ふなつけハ住居稅ハ住居者ノ稅トイフ。わぐな一ハ家ノ所有者(彼カ住居享樂ヲ有ツノ故

55) Heckel, Mietsteuer etc 697. Derselbe, Lehrbuch. II. S. 285. Graf, a. a. O. S. 178. Beauhieu, l. o. p. 376.
56) Department of Commerce and Labor l. o. p. 10. Bastable, l. o. p. 444. Birnbaum, a. a. O. S. 370. Eheberg, a. a. O. S. 389.
57) Birnbaum, a. a. O. S. 231. Dawson, l. o. p. 415
58) Heckel, Mietsteuer etc. S. 698. Derselbe. Lehrbuch. II. S. 284.

ニ及其範圍ニテ) 及借屋人ヲ同方法ニテ課税スト爲ス。——實例ニテモ佛國テハ此カ屋賃支拂人ニ課セラレ、英國
 ばーミンガムノ地方税(レミ)ノ家屋、建物又ハ其一部ノ占有者ニ依ツテ拂ハレ、所有者ニ依ツテ拂ハルルノテナ
 イ。はつだーすふいーるゴノぼろーれーミハ凡ヘテ不動産ニツキ其占有者ニ課税シ、倫敦ノゼレラるれーミモ不動
 産ニ課セラレ、借人カ通例れーミヲ拂ヒ、又ハ其大部分ヲ拂フ。いぢんばらノ市税ハ財産ノ所有者カ年價値ノ殆
 ト三分一ニツキ課セラレ、借人カ殆ント三分二ニツキ課セラルル。土地及建物カ十九弗、十六せん(年)又ハ其以
 下ノ賃貸料ニテ貸サルルトキハ、所有者カ占有者ニ代ツテ課セラレ、一年ヨリモ短キ期間、貸サルルトキモ所有者
 ニ義務アリ。⁵⁹⁾

(註三七) 前掲註六參照。

其六 往居税ノ課税權者

(一)之ヲ實例ニ徵スルニ、或ハ之ヲ地方税トシテノミ行フモアル。例之、獨逸埃士利ノ如シ
 (註三八)〇。成ハ國税トシテ行フカアル。例之、露國ノ如シ(註三九)〇。更ニ或ハ國及地方税トシ
 テ行フカアル。英、佛、白、蘭ハ即チ是レテアル(註四〇)〇。(二)進ンテ理論上ヨリ稽フルノニ
 此税カ給付能力ニ適合セヌカラトイフテ國税トシテモ地方税トシテモ排斥スル人モアルカ
 (註四一)〇、其ハ餘リニ極端テ、此税モ或度ニテハ給付能力ニ適合スルモノト認メラレルカラ
 別トシ、或ハ之ヲ特ニ地方税ニ適スルモ、國税ニ適セストシ(註四二)〇、或ハ之カ都市特ニ
 大都市ニハ適スルモ、田舎ニハ適セストイフカアル(註三)〇。而シテ其ノ國税ニ適セストス

59) Theberg, a. a. O. S. 389. Voelke, a. a. O. S. 363. Wagner, a. a. O. II. S. 618. Department of Commerce and Labor, l. c. p. 17. 61. 67. 7. 81.

ルノハ、此税ノ課税標準トシテ通例用キラルル屋賃カ、地方ニ依ツテ非常ニ相違ノアルノ
 ト、⁶⁰⁾又一ニハ都市ニテハ借屋カ多ク行ハレ、隨フテ屋賃カ課税標準トシテ適當テアルカ、
 田舎ニテハ此カ不適當テ隨ツテ他ノ標準ヲ採ルコト、ナリ、地方ニヨリ異ル標準ヲ採ラサ
 ルヲ得サル不便アルニ由ル。併シ借屋ノ多ク行ハレス、屋賃ノ現實ナルモノノ乏シキ處テ
 モ、其土地建物ノ價格ヨリ推定スルヲ得ルシ、地方ニヨリ屋賃ノ相違ノ大ナルコトヨリ生
 スル不公平ハ、課税標準ニテ屋賃以外ニ家屋及附屬地ノ面積性質等ヲ加味スルコトニ依ツ
 テ緩和サレヤウシ、敢テ國税トシテ、全國ニ行フモ妨ケナイ。其レカラ此ヲ都市特ニ大都
 市ニ限ラウトイフ説モ畢竟スルニ、屋賃ノ標準ヲ見出スノ便利ヨリ割出サレタノテアルカ
 此カ田舎ニテモ評定シ得ルコト右ニイフ如クテアル、トスレハ、何ニモ大都市ニノミ限ル
 ニ及ハス。特ニ之ヲ國税トシテ行フニ於テ一部ノ都市ノミニ行フトキハ、脱税ヲ誘ヒ、不
 公平ヲ生スルコトニモナル(註四四)〇。採ルコトヲ得ナイ。

(註三八) 獨逸テハ地方税トシテ行ハレテ居ル。特ニ此カ管テハ廣ク普國ニ行ハレ、伯林ニモアリ、ふらんくふる
 あんまいん、はるれ、だんちつひ、いむでん、おつてんぜん、てんにんぐ其他諸多ノ處ニ行ハレタ。然ルニ一八九
 三年七月十四日ノ地方税法テ、此屋賃税ノ新採用ヲ禁シ、既存ノハ右地方税法ノ原則ト一致スルヤニツキ吟味シ、
 大藏内務兩大臣ヨリ新ニ認可スルコトトナツタ。此認可ナシニハ一八九八年四月一日以降廢止サルルコトトナリ、

60) Pfeiffer, a. a. O. S. 488. Conrad, a. a. O. S. 111.

多クノ都市特ニ伯林ハ之ヲ止メ、市ニテ之ヲ採ルハだんちつ位トナツタ。其他今日普國外ニテ、うゆるてんべる
ひ、めくれんぶるひじゆうけりん、ぶれーまーはーふねん、ふねげさつくノ地方税トシテ行ハルル。⁶¹⁾
奥國ニテモ此カ地方税トシテ行ハル。⁶²⁾

(註三九) 露國ニハ國税トシテ存ス。⁶³⁾

(註四〇) 英國ニハ國税トシテモ諸市ニ之アリ。⁶⁴⁾——佛國ニハ國税トシテノ動産税カ其ニ當リ、地方
ニテハ之ニ附加税ヲ課スル所テアル。——白耳義ニハ國税トシテ之アルノ外、地方トシテあんざわーぶ、がん、
リじ等ニアリ。⁶⁵⁾——和蘭ニモ國税ノ屋賃税カアツテ、州及市ハ之ニ一定ノ百分率ヲ賦課ス。⁶⁶⁾

(註四一) ふおつけハ此税ハ國税トシテ同様ニ地方税トシテモ薦ムヘキモノテナイ。——其不公平及間ニ合セ物ト
イフ缺點カ愈々多ク感セラレルトイフ。⁶⁷⁾

(註四二) ほふまん、ぶあいふあー、こんらーど、へつける等、此カ地方税ニ適スルモ國税ニ適セスト爲ス。へつけ
る及けりるへひハ屋賃税ノ缺點カ地方税ノ場合ニハ少シトイフ。⁶⁸⁾

(註四三) へつけるハ此税カ本来唯大都市地方團體ノミニ適當シ、田舎村落團體ニハ適當セストス。ふおるくすまん
ハ其税案ニ於テ田舎ヲ排除シ専ラ大中小市ニ課セントシびりんすきハ住居奢侈税ヲ唯大ナル隨フテ富メル市ニ限ラ
ウトシタ。⁶⁹⁾

(註四四) ぐらーふハ右ノ説ヲ評シテ曰ク、此税ヲ此等ノ市ニ限ルコトニ依ツテ、富者ノ田舎ニ於ケル別荘(確カニ
奢侈的ナル)ヲ免税スルコトニナルテアラウト。⁷⁰⁾

其七 住居税ト他税トノ結合

住居税ニ時代遅レノ人税ヲ結合スル佛國ノ税法ハ採ルヘキテナイトスルモ、此ニ或簡單ナ

ル奢侈税、例之、馬車、僕婢税ノ如キヲ結合スル案(註四五)ハ奢侈的使用物ニ對スル重課ヲ
行フニ外ナラヌカラ、面白キ仕組ノ如クニモ考エラルルカ、併シ其場合ニハ自ラ一個ノ馬
車ニツキ本税ノ幾割ツツカヲ増ストイフコトニナラウカ、然ルトキハ一ノ混雜ヲ來タシ、⁷²⁾
又不公平ヲ來タスコトニナル。採ルヘキテナイ。ムシロ住居税ト並行シテ別ニ採ルヘキ
テアル。

(註四五) 此ハ一七九一年ノ佛國ノ憲法議會ノ採ツタモノテ、例之、義務者カ馬又ハ車ヲモツトキハ一割ヲ増シ、男
僕一人ニツキ五分ヲ増ストイフカ如クスルノテアル。⁷³⁾其故ニ同一價值ノ馬一匹ニテモ、住居屋賃ノ大小ニ依ツテ租
税負擔ニツキ非常ナル差異ヲ生スルコトニナル。

其八 住居税收額ノ使途

住居税ノ收額ノ使途ニツキテハ、由來之ヲ特殊ノ目的ニ充テヤウトイフ考カアリ又之ヲ行
フタ例モアル(註四六)カ、ソシテ其特殊使途ノ定メヤウニ依ツテハ、此税トノ間ニ密ナル關
係モアツテ好都合ノ如クテアルカ、併シ本來此ノ如キ目的税ヲ定メルコトカ、統一ヲ要ト
スル財政ノ趣旨ニ合ハヌ。矢張りスヘテ他ノ税ト同様ニ一旦中央ニ其收額ヲ納メテ然ル上
ニテ適當ニ分配シ支出シテ可然キモノテアル。

(註四六) 例之、ろつじあーハ、屋賃税收入ヲ以テ市ヲ美麗ニスル方ニ使ヒ、隨フテ其カ屋賃ヲ上クルコトトナルト

65) Heckel, Mietsteuer etc. S. 698. Derselbe, Lehrbuch II. S. 284. Eheberg, a. a. O. S. 389. Department of Commerce and Labor, l. c. p. 17.
66) Eheberg, a. a. O. S. 389. Department of C. & L., l. c. p. 8-12.
67) Eheberg, a. a. O. S. 389. Department of C. & L., p. 56.
68) Vocke, a. a. O. S. 364.

61) Heckel, Mietsteuer etc. S. 698-9. Dawson, l. c. p. 415-6. Iirnbaum, a. a. O. S. 231. 370. 390. 391. Visting, a. a. O. S. 108. Vocke, a. a. O. S. 64.
Eheberg, a. a. O. S. 389. Quincy-Adams, a. a. O. S. 64.
62) Heckel, Mietsteuer etc. S. 699. Eheberg, a. a. O. S. 389. Quincy Adams, a. a. O. S. 4.
63) Heckel, Mietsteuer etc. S. 698. Derselbe Lehrbuch. II. S. 283. Eheberg, a. a. O. S. 389.
64) Heckel, Mietsteuer etc. S. 698. Derselbe, Lehrbuch. II. S. 283. Department

キハ、其螺旋力際限ナク廻ハサルコトナルトイヒ、へつげるハ此住居税收入ハ唯タ行政ノ一般的目的即チ寺院
學校、慈善事業、公益設備、保安警察及公債ノ爲メノ費用ノミニ充ツヘキモノトイフ。ソシテ奥國ノ都市テ 往々
ニシテ此力全部又ハ一部目的税トナツテ居ル。其收入ハ救貧、運河、學校、宿營、公共燈火等ノ爲メニ使用スルコ
トトナツテ居ル。

結 論

以上要之、住居税ハ人ノ住居ニ課税スルモノテアリ、一ノ直接税テ、ソシテ消費税テア
ル。住居者ニ對シテ、住居用ニ供セラレタル場所ニツキ、其賃貸價格及面積并ニ性質ニ應
ジテ、若干ノ免税點ヲ定メタル上、出來ルタケ累進的ニ課税スヘキモノテアル。國税トシ
テモ地方税トシテモ課シ得ルカ、其收額ノ使途ハ特定セヌカ良イ。又他税ト結合シテ構成
セヌカ良イト考エラルル。(大正八年八月)

第十一編 住居税ノ利害ト高級住居税ノ提案

緒 言

前論文並ニ前々文ニ於テ、住居税ノ如何ナルモノナルカ、如何ニ課税スヘキモノナルカ
並ニ其カ公平負擔ノ要求ヨリ見テノ當否如何ヲ研究シタ。其テ此税ノ大體ノ事ハ分ツタ譯
テアルカ、尙ホ其利害ヲ説キ殘シタ所テアル。茲ニ之ヲ明ニシテ其足ラサル所ヲ補ヒ、併
セテ更ラニ之ト前述シタル公平負擔ニ關スル結論トヲ結付ケテ相當ノ考査ヲ加エタル上、
特ニ高級住居税ヲ提案シテ一面理論ノ應用ヲ試ミ、及我國ノ實際ノ必要ニ對シテ參考資料
ヲ加エヤウト思フ。

第一段 住居税ノ長短

其一 住居税ノ長所

住居税カ大體ニ於テ公平負擔ノ要求ニ適ウコトハ前々文ニ説ケル如クテアルカ、其他ニ此
税ニハ左ノ如キ長所カアル。棄テ難キ税トイハナケレハナラヌ。

69) Hoffmann, a. a. O. S. 237. Pfeiffer, a. a. O. S. 488. 491. Conrad, a. a. O. S. 111. Heckel, Mietsteuer etc. S. 697. Derselbo, Lehrbuch. II. S. 285. Eneberg, a. a. O. S. 389.
70) Heckel, Mietsteuer etc. S. 697. Derselbo, Lehrbuch. II. S. 282. Graf, a. a. O. S. 173. 179.
71) Graf, a. a. O. S. 173. 72) Beaulieu, l. c. p. 377.
73) Beaulieu, l. c. p. 377.
74) Roscher, a. a. O. S. 460. Heckel, Mietsteuer etc. S. 697. 699.

(一) 財政上——

(A) 収入源トシテノ價值——此税ハ其仕組如何ニ依ツテハイ可ナリ多收ナルコトカ出来
 (註一)、随フテ假令他方、其ニ缺點アルコトニ顧ミテ、新タニ之ヲ設クルコトニハ躊躇スル
 トシテモ、特ニ既ニ前日以來行ハレタ場合ニハ之ヲ止メ難イトイフコトニナル(註二)。又
 (ロ) 其課税物件ハ進歩スル國又ハ所ニテハ益々増加シ、其價值モ益々上進スルカラ、此税ノ
 收入ハ愈々益々増加スルノ傾カアル(註三)。經濟界不況ノ時ニモ其減退ノ度カ甚タ少クテ濟
 ムトイフコトモアル。

(註一) ばりゆーハ此税カ凡ヘテノ奢侈税中ニテ最多收ノモノトイヒ、ばりゆーハ此税カ大ニ多收タルヲ得トイヒ
 といへるハモ此税ノ長所ノ一トシテ其ノ可ナリノ收入ヲ生スルコトヲ擧ケ¹⁾。

(註二) 之ヲ止メルトシテ、收入ノ爲メニ代ルヘキ税ヲ見出、ナケレハナラナクナル。斯カル適當ノ税アリヤ疑ハシ
 イカラテアル。尙ホ其上ニモ既存ノ此税ヲ止メタ場合ニ從來ノ擔税者タル借屋人ノ利トナラスシテ、却ツテ單ニ家
 主ニ屋賃ヲ上ス機會ヲ與ヘ、屋主ヲ肥ヤス結果トナルコトノアリ得ルコトヲモ考ヘナケレハナラヌ。之ニツキヘッ
 ける注意ス。²⁾

(註三) きんしーあだむスハ曰ク、急速ニ發展スル場處ニテハ、屋賃及随ツテ屋賃税ハ同一税率ニテモ上ホル。(家屋
 ノ増加、屋賃ノ騰貴トニ依ル) 屋賃税ノ現ハルル市ニテハ、殆ント例外ナシニ、屋賃ノ大増進カアツタト³⁾。

(B) 一ノ税トシテノ重要——先ツイ貧民ヲシテモ之ニ依ツテ租税ヲ直接負擔スルノ機會ヲ

持タシムルトイフコトカアル。元來租税ハ給付能力アル人ヨリ其力ニ應シテ取ラルヘキモ
 ノテ、随フテ貧民ノ如キハ自然、直接税ヲ免セラルヘキテアル。併シ又進ンテ考フルト、
 其カ極貧者タラサル以上ハ、些少ナリトモ直接税ヲ拂フコトカ、彼等ヲシテ國民自覺ヲ固
 クセシムル所以トイフコトヲ見ル。勿論今日ノ租税制度テハ普通、別ニ諸多ノ間接消費税
 モカアツテ彼等貧民ニモ負擔ノ機會ヲ與フル所テハアルカ、斯カル間接負擔テハ右ノ國民
 ノ自覺ヲ養フ上ニ有功テナイ。矢張り何カ直接ナノカーツ欲シイ。然ウカトイフテ、所得
 税ノ如キモノテハ、義務者ノ態度次第テ申告漏レトナルコトモ多カラウシ、税法其モノト
 シテ相當ニ高ク免稅點ヲ定ムルコトニモナリ、旁々太タ多クノ免稅者ヲ生スルコトトナリ
 得ル。然ルニ此住居税ヲ以テスルナラハ、斯カル脱税モ少ク、免稅點モ彼税ヨリハ餘程下
 ニ定メラレ得ル。テ直接負擔ヲ下ノ方ニモ及ホサウト思ヘハ住居税ハ蓋シ最便利ナ税トイ
 ヒ得ル(註四)。而シテ又消費税ヲ全ク採ラストイフ方針ヲ採ルナラハ別テアルカ、之ヲ採
 ルトイフナラハ、住居税ノ如キハ其最重要ナル消費品ニ課税スルトイフ點ニ於テモ意義カ
 アリ(註五)、又貧民ニ過重負擔トナルトイフコトモ、此ニテハ、他ノ消費税ヨリモ少イトイ
 フ長所カアル(註六)。

1) Beaulieu, Traité, 5 éd. I. p. 379. Eheberg, Fw. 9 Aufl. S. 389. Parieu, Traité. 2 éd. II. p. 8.
 2) Heckel, Mietsteuer. (Conrad, Hwb. 3 Aufl. VI.) S. 697. Derselbe, Lehrbuch. II. S. 282.
 3) Quincy-Adams, Gebäude-und Mietsteuer. S. 67.

(註四) 加藤氏之ヲ説明シテ曰ク、住居税ハ必要ノ場合ニハ所得税ノ達セサル下級者ヲ租税ニ引入ルコトニ用立ツトイフ。⁴⁾

(註五) ふおつけハ住居カ生活需要ノ種々ノ物體ノ中ニツキテ現ハルル重要ノ爲メニ、此税カ他ノ消費税ノ如ク而カク無價値テナイトイヒ、あいぜんはるミモ文明人ノ最重要且ツ最認メ得ヘキ需要ハ住居消費ナリトイヒ、うんぶはんばつはハ住居ハ模型的使用物ノ澤山ノモノニ代リ得ルトイフ。⁵⁾

(註六) ぶあいふあいハ之ニ依ツテ貧民ニ對シテ要求サル所ノ過重負擔ハ、多クノ他ノ消費税ヨリモ小イトイヒ、加藤氏ハ此ヲ消費税ニ勝ル、其故ハ此カ各人各階級ノ人的事情ノ考察ヲ許スノニ消費税ニテハ其 行ハレナイカラトイフ。⁶⁾

(二) 經濟上——此税カA) 住居ニ課セラレテ生産ニ課セラレス、隨フテ生産ヲ壓迫セス却ツテB) 土地及其他建築材料並ニ人力ヲ住居用ヨリ節シテ、ムシロ生産用ニ向ケシムルコトトナル其ヲシテ經濟上一層有功ニ使用セシムルコトトナル(註七)。特ニ日本ノ如ク土地狹マク材料乏シキ處テハ此點ハ甚々重大テアル。今日我邦ニテ穀價ノ高キヲ嘆シ、木材缺乏ヲ感スルニ於テ此等諸材料ノ節用トイフコトハ實ニ大事ナ事テアル。勿論、此等ノモノノ住居用ニ充テラルルコトカ凡ヘテ無用テハナイ。否ナ其人々ノ生活必要ノ最小限ニ關スルタケテハ非常ニ重要テアリ、生産的利用以上ノ價值ヲ持ツカ、其多少奢侈ニ屬スルタケテハ、生産用ニ劣リ、隨フテ出來ルタケ彼ヲ節シテ此ヲ殖スコトヲ進メナケレハナラヌ。而シテ又此

4) Kato, Wohnungs-und Luxussteuern. S. 58.

5) Vooke, Fw. S. 364. Eisenhart, Kunst der Besteuerung. S. 177. Umpfenbach, Fw. S. 285.

6) Pfeiffer, Staatseinnahmen. II. S. 489. Kato, a. a. O. S. 58.

税カ斯カル結果ヲ生スルノ大小ハ、其課税方法ニモ係ルコトテアリ、一概ニハイヘナイカ其方法ニ依ツテハ各人ヲシテ其ノ土地材料ノ使用ニツキテ相當考慮セシムルコトニナルテアラウ。

(註七) まいじカ地租ノ利トシテ、土地價值ノ高キ課税カ市ノ論理的及經濟的發達ヲ獎勵スヘシトイフタノハ、移シテ住居税ニモ及ホスコトカ出來ル。特ニ此住居税ヲ住居用ノ面積ニ係ラシメタナラハ、一層多ク此結果ヲ擧グルテアラウ。

(三) 道義上——此税カA) 或税ノ如ク納税上脱税工夫ヲ刺戟シテ、人民ノ道德ヲ不良ニスルコト少ク却ツテB) 住居ニ關スル奢侈又ハ虚榮ヲ制スルコトニ貢獻スルノ利カアル。此税カ生スルニ於テハ此ナキ場合ニ住居ニ關シ奢侈ヲ行フタ者、經濟力ノ乏シキニ拘ハラステ體面又ハ虚榮カラ強イテ大住居ヲ構エタ者ニ反省ヲ促シテ、之ヲ多少トモ控目ニセシムルコトニナル(註八)。其結果ハ彼等ノ私經濟上ニモ有利ニナリ得ルカ、其ハ必スシモ確カニ然ルコトヲ期シ難イカ、少クトモ人々ノ精神上道義上ニハ、多少トモ奢侈虚榮ヲ慎ムトイフ傾向ヲ作ルコトニナル。齊シク奢侈テモ住居ニ屬スルモノハ、食物ニ關スルモノト異リ、他人ニ見セヒラカストイフ虚榮的ノ分子カアリ、其カ又衣服ニ關スルモノト異リ、永續的ニ虚榮ヲ張ルトイフコトヲ意味シ、道德上太タ罪深キモノトイハナケレハナラヌ。斯カルモノヲ

7) Marsh, Taxation of land values in American cities. p. 69.

税ニ依ツテ制スルコトハ大ニ良キコトテアル。然レハ此税アルカ爲メニ富者カ住居ヲ節約シテ、他ノ之ヲ節セサル人ヨリモ割合ニ輕キ負擔ヲ爲スコトトナリ、給付能力ニ應スル上ヨリシテハ不公平トイフコトニナルトモ、右ノ如キ道義的關係アルノ故ニ、其ハ恕スヘキ不公平トイフコトニナル(註九)。

(註八) あだむすみすハ若モ此税カ頗ル高カツタラハ、人民ノ大部分ハ一層小ナル家ニ満足スルコトトナリ、且ツ支出ノ一層大ナル部分ヲ、或他ノ方向ニ向クルコトニ依テ、出來ルタケ之ヲ避クルコトヲ努ムルデアラウトイフテ居ル。⁸⁾

尤モ其カ税カ課セラルルヤ直チニ生スルトイモテハナイ。稍長キ時間ヲ經テ初メテ現ハルル所テアル。又勿論下層階級ノ住スル狭一家ニテハ其以上節スルコトハ困難デアラウカ、併シ多少トモ節スル餘裕アル大住居ヲ使用スル者ハ、出來ルタケ之ヲ控目ニスルコトヲ計ルコトニナル、本文ニイフ所ハ此場合ヲ見テ居ル。につちハ、通例、社會ノ諸階級カ住居費ヲ制限スル前ニ、殆ント凡ヘテノ其他ノ消費ヲ制限スル。一般ニ人ハ、人民ニヨリ其住居ノ爲メニ爲サル支出ヲ以テ、整調シ難キモノト考フトイフテ居ルシ、きんじーあだむすモ住居ノ制限難ヲ説クカ、⁹⁾此ハ下層階級ニハ當ルカ中以上ノ處ニハ當ラナイヤウニ私考フル。

(註九) びりんすきカ一千乃至一千二百ふろりんヲ免税セントシタルニ對シテ、ぐらふカ、爲メニ大市ニ於ケル富メル青年ニシテ、一千乃至一千二百ふろりん以下ノ屋賃ノ、良ク建具附ケラレタ二三室ヲ持ツタ小住居ニ住スルモノハ此税ヲ免ルルコトトナル。此ハ事物ノ本質ニ反ストイフケレトモ、此ハ私ノ見ル所テハ當ラナイ。¹⁰⁾

(四) 社會上——

(A) 屋賃上騰ノ制限——居住税カアルト、然ラサレハ生スヘキ宅地々價隨フテ屋賃ノ上騰ヲ幾ラカ抑ユルコトニナル。其レタケイ) 一方ニハ此地價又ハ屋賃ノ騰貴ニ依リ生スヘキ不勞利得ヲ制スルノ利カアリ、(ロ) 他方、貧民ノ生活ヲ樂ニスルコトニモナル。尤モ斯クテ貧民ノ利用スル住居マテモ其屋賃ノ上騰ヲ制スルヲ得ルヤニハ多少疑カアル。即チ此税アルカ爲メニ、人々ヲシテ成ルベク良イ住宅ヲ避ケテ安イ住宅ヲ求メシムルコトニナル。爲メニ優等住宅ノ方ハ需要ヲ減シテ、其價格ノ上騰ヲ抑ヘラルルノテアラウカ(註一〇)、劣住宅ノ方ハ却ツテ其レ丈ケ需要カ増シテ、此カ價格ノ上ホルトイフコトカアル。其點ハ見逃シテハナラヌカ、併シ前者ノ抑エラルルトイフコトカ、一般ノ屋賃上騰ノ氣勢ヲ幾ラカ抑エルトイフコトモアリ、ソシテ特ニ夫ノ優等住宅ノ制セラル、コトカ然ラサレハ富裕者カ益々貧民ナトノ住居スル地區ヲ買收シテ大キナ邸宅ヲ作り、其ノ爲メ貧民ノ住居スヘキ家屋ヲ減少シ並ニ地價ヲ競リ上クルコトニ依ツテ、貧民ノ住宅難、屋賃騰貴ヲ生スルノヲ抑制スルコトニハナル。故ニ此住居税ノ賦課カ全ク社會上良キ結果ノミ齎ラストイフコトハ出來ナイカ、併シ良キ結果ヲモ齎ラストハ疑ハナイ。

(註一〇) ほふまんハ之ニツキテ曰ク、急速ニ發展スル交通多キ市テハ、其屋賃ニ從フテ課ル所ノ住居税ヲ當ニ辯

8) Adam-Smith, Wealth of nations. Bk. V. Ch. II. Pt. II. Art. 1.
 9) Nitti, Principes. p. 450. Quincy-Adams, a. a. O. S. 67.
 10) Graf, Das Problem der Luxussteuern. S. 174.

護スルノミナラス、特ニ適當ノモノトシテ現ハレシムル特段ナ事情カアル。富裕ナル又ハ容易ニ營利スル住民ノ流入ノ爲メニ、此處ニハ、住居ニ對スル需要カ之ヲ充タスヘキ方傾ヨリモ一層急速ニ増加スル。斯クテ資本カ住屋ノ建築ニ使用セラレテ、普通利率ヨリモ一層多クテ齎ラス。——斯ノ如クニシテ建築場所ノ價格ノ騰貴ハ一方ニハ増進スル所ノ富裕ノ徵證テアル。併シ他方カライヘハ此ハ一ノ大キナ災害テアル。此カ偶々住居ニ適當ナル場所ヲ持ツ者、全ク彼ノ働ナクシテ、イハハ眠ツテ居テ贈與スルコトトナル。——其上ニ此建築場所ノ騰貴カ建築ニツキ公共ニ對シ有害ナル方向ニ幾多ノ刺戟ヲ與フル。貴重ナル場所ヲ出來ルタケ利用スル盡力カ、濕氣多キ地下室住居、温メ難キ屋根裏室、狭キ空氣及日光ノ入り難キ庭ヲ生スル。要スルニ健康ノ維持、清潔及便宜ニ用立ツヘキ建築上ノ設備ノ行ハレサルコトトナル。——交通多キ市テハ各人ハ實際彼カ其觀念ニ依レハ其欲望ノ満足ノ爲メニ使用スル必要アリトスルタケ多クノ屋賃ヲ拂フ所テアル。然ルニ此屋賃ノ支出ニ尙ホ一ノ稅カ加ハツテ、此額ヲ一定百分率タケ高ムルトキハ、借手ハ其所得ニ對スル此新要求ヲ、彼カ割合ニ一層安キ住居ヲ選ムコトニ依ツテ避グルコトカ出來ル。此事カ頗ル一般ニ生スルトイフト、高キ價ノ住居ニ對スル需要カ減シ、之ニ依ツテ少クモ建築場所ノ價格ノ其上ノ騰貴ノ勢カ抑エラレルト、あだむすみすニ至テハ、窓稅及凡ヘテ其他ノ家屋ニ對スル稅ノ自然ノ傾向ハ屋賃ヲ下ルコトテアル。人カ稅ヲ多ク拂エハ拂フホト、一層少ク屋賃ヲ拂フコトニナルトマテイツテ居ル。¹¹⁾

(B) 社會感情ノ融和——斯クノ如クニシテ富者ノ虛榮的奢侈カ控エラレ、屋賃上騰カ抑エラレテ不勞利得ヲ制シ及幾分、貧民ノ屋賃負擔ノ増進ヲ喰止メ、更ラニハ土地材料ノ生産的利用カ進メラレテ其產物ノ價格ノ上騰カ抑エラレルコトトナルトイフノハ、其ノ然ラサル場合ニ比シテ、一層、中下層階級民ノ富裕者ニ對ズル反感ヲ緩メテ、社會上平和ナル關係ヲ齎ラスコトヲ得ル。テ今日ノ時勢ニハ特ニ此稅ノ採用ヲ必要トシナケレハナラヌ。

(五) 收稅技術上——

(A) 課徵ノ容易——此稅ニテハ課稅物件ノ隱匿困難テアリ、其評價困難ナラサルノ長所カアル(註一一)。唯タ多少家庭ノ内情ニ立入ル嫌ハアルカ、其ニシテモ所得稅ナトニ比シテハ堪エ易イ。

(註一一) へつける、こつき、ふおつけ、ねーべるひ等之ヲ説ク。尙ホばすてーぶるハ之カ長所トシテ賦課ノ便利及迅速ヲ説キ。ふあいふあいハ此カ徵收ノ簡單、小費且ツ取引ヲ擾亂セサルコトヲ擧ケ、加藤氏ハ此稅ハ所得稅消費稅ヨリモ一層少キ道義上ノ心配カアリ、其租稅義務ノ監督及成形容易ノ爲メニ、義務者ノ方ニテ犯罪カ殆ント可能テナイトイヒ、ほつふまんハ、屋賃稅カ唯タ住居ノ屋賃ノ輕キ百分率ニテノミ存スルコト、此稅カ適宜ニ分配セラレ、且ツ唯タ優等住居需要ノ満足ヲ示ス如キ屋賃ヨリ徵收セラレルコトヲ假定シテ、更ニ義務者ノ最大部カ實際、屋賃ヲ拂ツテ住居スルコト、而モ文書上ノ約束カ之ヲ定ムルコトヲ假定シテ、——此稅ト一般警察上ノ監督トノ適當ナル聯絡ノ定メラルルコトヲ假定シテ、同一ノ容易ト確實トヲ以テ、同一收額ヲ擧グル他ノ稅ヲ求ムルコトハ難イトイフ。¹²⁾

(B) 課稅ノ確實——此稅ニテハ課稅上、恣意ヲ避ケ、¹³⁾ 隨フテ其結果カ確實テ(註一二)、人々ヲシテ納得セシムルニ足ルトイフ利カアル。尤モ其課稅物件ノ方ハマタシモテアルカ課稅標準ノ決定ニツキテハ此點ニ關シ多少不完全ノ嫌カアルヲ免レヌ(註一三)。

12) Heckel, Mietsteuer etc. S. 697, Derselbe. Lehrbuch. II. S. 281. Cosserat Grundriss d. I.w. S. 118. Vocke, a. a. O. S. 363. 364. Eheborg, a. a. O. S. 389. Bastable, Public finance. 3ed. p. 443. Pfeiffer, a. a. O. S. 489. Kato, a. a. O. S. 61. Hoffmann, a. a. O. S. 237.

13) Beaulieu, l, o. p. 379.

11) Hoffmann, Die Lehre von den Steuern. S. 234-7. A-Smith, l. c.

(註二二) 前註一一、ほつふまんノ説参照

(註二三) わぐな一ノ之ニツキ、最精巧ナル法律規定及行政官廳ノ命令及行政裁判所ノ決定ニ依ル擴充モカ、恣意ノ大ナル度ヲ排除スルコトハ出來ナイテアラウトイフテ居ル。¹⁴⁾

其二 住居税ノ短所

此住居税ニハ上記ノ如キ種々ナル長所モアルカ、併シ其ニ對シ短所モ少クナイ。其重ナルモノハ大凡ソ左ノ如キモノテアル。

(一) 社會上——

(A) 生活困難ヲ齎ラス——此税カアルト貧民モ亦タ之ヲ負擔スルコトトナリ、其乏シキ經濟ハ一層乏シクサルコトトナル。勿論此税ノ爲メニ屋賃ノ上ルノヲ制スル傾ハアルカ(註一四)、併シ其租税ニ依ル負擔ヲ埋合セルニ足ルヤハ疑ハシイ。斯クテ少シニテモ彼等ノ負擔ヲ増スコトニナレハ彼等ノ住居カ彼等ニトリ絶對必要テアリ(註一五)、之カ制限可能ノ少キ(註一六)タケ、彼等ノ苦痛ハ大テアリ、彼等ノ不平ヲ生シ、社會擾亂ヲモ生スルコトトナリ得ル。特ニ細民カ割合ニ多人數ノ家族ヲモツ點カラ考エテモ、此事カ一層憂慮セララル(註一七)。尤モ家族ノ大小ヲ税率上斟酌シテ此弊ヲ緩メルコトハ出來ル(註一八)。又免税點ヲ

14) Wagner, Fw 2 Aufl. III. S. 464.

相當ニ高く定メルコトニ依ツテ、一般ニ下層民ノ右ノ困難ヲ除クコトヲ得ルカ、其ニシテモ尙之ヲ負ハサルヘカラサル中等民ノ生活ハ矢張り切詰メラレルノヲ免レナイ。彼等ニハ尙ホ生活上ノ苦痛ヲ與エル(註一九)。

(註二四) 前註一〇参照

(註二五) へつける、らう、につち、ばすてーぶる、加藤氏等、此缺點ヲ高唱ス。特ニわぐな一ハ曰ク、人カ此税ヲ住居需要ノ満足トイフ最重要且最大ナル消費ノ一ニ對スル消費税ト見ルカ、住居支出ヨリ所得ノ高サヲ決スル所得税ノ一種ト見ルカ何レノ場合ニテモ、此税ハ其ノ必要ナル消費ノ負擔ノ爲メニ並ニ其不公平ノ爲メニ疑ハシキモノテアルト。きんじーあだむスモ亦曰ク、所得カ消費税ニヨリ課セラルルトキニ、ムシロ享樂品カ選マルヘシ。強制品即チ各人カ消費セサルヘカラス而カモ可ナリ精密ニ確定シタル度ニテ然ル物カ選マルヘカラス。ソシテ住居ハ此性質ヲモツト¹⁵⁾

(註二六) につちハ曰ク、家ノ需要カ相對的屈伸性アルモノテハアルカ、此屈伸力ハ、細民ノ住居ニ定メラレタル家ノ澤山ニハ一層小イモノテアルト。¹⁶⁾

(註二七) ぼーりゆーハ曰ク、此税ノ一大故障ハ此税カ細民ノ如ク多人數ナル家ヲ割合ニ重ク税スルコトテアルト。¹⁷⁾

(註二八) ぼーりゆー又曰ク、此困難ヲ解クコトハ容易テアル。此カ税率ニテ、家族ノ員數ヲ考慮ニ入ルレハ足ルト。¹⁸⁾

(註一九) うんぶいんばつハ之ニツキテ曰ク、高キ相當ニ分級サレタル全住居ニ對スル課税ハ、假令凡ヘテノ住居ニテ小屋賃ノ免税ノ下ニ行ハルトモ、——大ニ住居ヲ制限スルコトノ悲ムヘキ結果ヲ齎ラステアラウ。之ニ依ツテ國民ノ生活維持ニ不良ナル影響ヲ表ハステアラウト。¹⁹⁾

15) Heckel, Mietsteuer etc, S. 696, Derselbe, Lehrbuch. II. S. 281. Rau, Grund sätze. 5 Aufl. II. S. 230. Nitti, l. c. p. 450. Bastable, l. c. p. 397. Kato, a. a. O. S. 37. Wagner, a. a. O. III. S. 457-8. Quincy-Adams, a. a. O. S. 66
16) Nitti, l. c. p. 450.
17) Beaulieu, l. c. p. 375.
18) Beaulieu, l. c. p. 376.
19) Umpfenbach, a. a. O. S. 285.

(B) 衛生及風教ヲ害ス——次ニ此稅カ特ニ中下層民ノ住居ニ及ホス影響ニシテ、社會上重大ナルハ、其カ彼等ノ住居ヲ制限シ、唯サハ狹隘ニシテ衛生上風教上有害ナ住居ヲ一層制限スルコトニ依ツテ、此等ノ觀點ヨリ一層痛マシキ結果ヲ生スルコトテアル(註二〇)。勿論之カ免稅點ヲ相當ニ高ク定ムレハ多少此弊ヲ緩メルコトカ出來ナイコトテハナイ。

(註二〇) ろうハ重キ住居稅ノ衛生上ノ弊害ヲ説キ、みるハ特ニ窓稅ニツキ健康上ノ損害ヲ説ク。ソシテぶあいふあ
 一ハ、住居ハ往々ニシテ既ニ狹隘テ、之ヨリ以上制限スルコトハ、健康及道義上ノ利益ニ於テ、人爲的ニ齎ラスヘキモノテナイトイヒ、ほふまんハ住居費ハ特ニ有益テ、此カ健康——道義的觀念ヲ高メルコトニ大影響ヲ持ツ。——
 一政府ハ此建築ヲ租稅ニ依ツテ負擔セシムル動機ヨリハムシロ之ヲ獎勵スル切ナル理由ヲモツトイフ。²⁰⁾

(C) 人口増加ヲ制限ス——少クトモ此稅カ中下層民ニ對スルタケテハ、多少此住居ヲ制限シテ、隨フテ其人口増殖ヲモ制セシムルコトニナル傾カアル。茲ニ於テカ課稅上家族員ノ數ヲ斟酌スルコトカ選ムヘキコトニナルカ、併シ其ハ凡ヘテノ住居ニ及ホス必要ハナク、上級ノ住居ニテハ之ヲ斟酌セストモ、別ニ之ニツキ惡影響ヲ齎ラス程ノコトハナイ。
 (二) 文化上——此稅カ存スルト、人々ハ出來ルタケ住居 築ヲ制限スルコトニナルカラ、之ニ關聯スル諸多ノ技術及美術ノ發達ヲモ妨クルコトトナルヲ免レナイ(註二一)。尤モ此住居ノ方ニテ制限スルトモ、住居以外ノ建築物ノ所ニテ技術及美術ノ伸ヒル餘地カナイコトモ

20) Rau, a. a. O. S. 231. Mill, Principles. Bk. V. Ch. III § 6. Pfeiffer, a. a. O. S. 490. Hoffmann, a. a. O. S. 233-4.

ナイシ、又住居ノ方ニテモ小費ヲ以テ且ツ小面積ノ處ニ有功ナルモノヲ作ル技術ニ至テハ、此稅アルカ爲メニ大ニ發達スルトイフコトモアル。テアルカラシテ此ニ舉クル弊害ハサウ大シタモノトハイハレナイ。

(註二一) ほつふまん曰ク、住居費ハ元來、技術及美術ニ大ニ有益ニ貢獻スルモノテアルト。²¹⁾

(三) 經濟上——元來、住居上ノ奢侈ナルモノハ、奢侈ニシテ而カモ繼續的ノ虛榮物トイフ缺點ヲモツカ、併シ又他面カライフト、他ノ奢侈カ一時的ニ消滅シ行クノニ反シ、此住居奢侈ハ切角、資本ヲ繼續的ニ土地ニ固着セシメテ、其價值ヲ保存シ、又屢々其價值ヲ増殖スルトイフ長所ヲモ持ツ(註二二)。而シテ之ニ對スル課稅ハ析角ナル此經濟的意義アル行爲ヲ制スルトイフ短所ヲモツコトニナル。併シ全體上ヨリ考フレハ住居費ニ於ケル後ノ長所ハ以テ、前ノ短所ヲ補フニ足ラヌカラ、矢張り此ニイフ住居稅ノ缺點ハ別ニ重キヲ成スニハ足ラナイ。

(註二二) ほつふまん曰ク、住居費ハ資本ヲ繼續的ニ土地ニ固着セシムル。多クノ他ノ奢侈品カ唯々容易ニ消滅スヘキ現象テ短キ光輝ノ後ニ跡型モナク消失スルノニト。²²⁾

第二段 高級住居稅ノ提案

21) Hoffmann, a. a. O. S. 234
 22) Hoffmann, a. a. O. S. 234.

其一 提案ノ大綱

前々回ノ論文及本論文ノ第一段所説ヨリ見ルト、住居稅カ假令完全ナルモノテナク、隨フテ唯一ノ稅トシテ又ハ租稅體系ノ基本トシテハ不満足テアルカ、大體ニ於テ公平ナルヲ得ルノ見込モアリ、其他諸多ノ長所モアツテ、所得稅ナトニ對スル一ノ補完的ノ稅トハナリ得ル。唯タ其カ中下層民ニ對シテ、經濟、衛生及風教上、好マシカラサル影響ヲ生スルノ故ニ、並ニ特ニ中下層民ニハ可ナリ重キ負擔トナリ、各階級ニ對スル公平負擔ノ上ヨリシテモ躊躇スヘキモノカアルカラ、單純ナル住居稅テナク、特ニ高級住宅稅トシテ、一定標準以上ノ高級ノ住居ノミニ課スルコトトシタナラハ、右ノ弊害又ハ缺點ヲ免レテ而カモ其長所ヲ發揮シ、特ニ日本ノ現下ニ之ヲ行フニ於テ、時代ノ要求ニ應スルニモ足ルヤウニ思フ(註二三)。

(註二三) 諸多ノ學者ハ之ニツキ或度以上ノ住居ニ課スルコトヲ薦ム。例之、らうハ夫ノ需要(必要ナル)ヲ超ユル屋賃支出ノミカ課稅ニ適當ストイヒ、ほつふまんハ之ニヨリ單ニ手ヨリ口ニマテ生活スル最下層ノ國民階級ヲ課稅シテハナラヌトイヒ、へつけるハ屋賃ノ外形的標準ハ個人的所得ノ決定ニ對スル不完全ナル方便テアル。凡ヘテ此等ノ考カ屋賃稅ノ適用範圍ニ注意スヘキモノテアルトイフ。ぐらふモ亦曰ク、貧民ハ彼カ住居ノ爲メニ富者ヨリモ其所得ノ遙カニ一層大ナル割合ヲ使用シ、隨フテ住居稅ニ依ツテ後者ヨリモ一層酷ク稅セラルルコトヲ見ルトキハ、

住居稅ニテ唯タ富者ノ住居ノミヲ稅シ、而カモ累進的ニ之ヲ稅シ、即チ奢侈的住居ニ對シ累進的ニ取ル所ノ稅ニテ定メラレナケレハナラヌト抗議スルヲ得ヘシト。更ラニしむふれ一モ亦下ノ如ク曰フテ居ル。吾人ハ此稅ヲ單ニ區別化シタル間接稅ノ機能ニテノミ眼中ニ置クヘキモノテアル。(即チ人ノ全給付能力ヲ捉フル能力ハナイ)此稅ハ此ノ如キモノトシテ初メヨリ凡ヘテノ住居ヲ稅シテハナラヌ。何トナレハ此カ唯タ家屋稅ノ第二稅テモアルカラ。——直接家屋稅カ一般所得稅ニ移ツタ後ニ、課稅スヘキ住居奢侈ヲ全不動産奢侈(庭園、池、狩獵場等ニ行ハルル)ト共ニ課稅スルコトカ考察ニ來ル。此ニテハ唯タ、中級以下ノ住居ニ住フ凡ヘテノ人々、隨フテ全人口ノ大衆ハ住居使用稅ヲ免セララルルコトトナルヘク、限界ハ遙カニ上ノ方ニ置カルヘキテアル。²³⁾

其二 提案ノ細目

借テ右ニ述ヘタル大綱ニ從フテ之ヲ課稅スルトシテ、更ラニ其細目ヲ如何ニスルカトイフニ(一)課稅物件——精密ナルコトハ今少シ良ク研究シタ上テ定メタイカ、私ノ今日マテ常識上カラ判斷シテ居ル所テハ、年賃賃價格五百圓以上、又ハ建坪三十坪以上、又ハ無建物地坪三十坪以上ノ住居(又ハ産業兼用住居)ニ課シテ然ルヘキト思フ。賃賃價格ノ五百圓ヲ指定シタノハ、今日ノ日本ノ生活程度テハ、二千圓以上ノ所得者ハ兎モ角モ稍々餘裕アル人々テアリ、其カ高キハ所得ノ四分一ヲ屋賃ニ支出スルモノト見テ、其以上ノ人々ニ之ヲ課シヤウトイフノテアル。或ハ今一段高クシテ年千圓以上ノ處ニ定メテモ良カラウト思フ。此賃賃價格カラ行クト、大都會ノ住居者ヲ可ナリ課稅スルコトニハナルカ、小都會又ハ田舎ニ

23) Rau, a. a. O. S. 231. Hoffmann, a. a. O. S. 238 Heckel, Mietsteuer etc. S. 696. Graf, a. a. O. S. 107. Schäffle, Steuern. B. T. S. 347.

住スル其ニ相當ナル人ヲ逃カスコトニナル。之ヲ捕捉スル爲メニ、并ニ大都會ニテモ其住居ノ爲メニ土地及材料ヲ濫用スル人ヲシテ反省セシメンカ爲メニ、建坪及宅地坪ノ一定以上ノ者ニ別ニ課税スルコトト爲スヘキテアル。ソシテ建坪トシテハ三十坪アラハ先ツ普通人ノ住居ニハ十分テ、其以上ハ贅澤ナル住居トイフテ良イ。ソシテ又其建物ニ附屬シテ其坪數ト同タケノ三十坪位ハ庭園ナリ空地ナリトシテ維持スルコトカ生活上必要テアル。其以内ハ特別ニ課税シナイカ、其以上ノハ矢張り贅澤ナリト見テ特別課税スル。其以上ノ建坪又ハ附屬地坪ヲ使用スル者ハ仍チ此範圍ニ切詰メタラ良イ。特ニ建坪ノ方ハ二階三階ヲ作ツテ土地ヲ節用シ、右限界内ニテ可ナリ廣キ住居ヲ得ルコトカ出來ル。其カラ二階三階等并ニ地下室等ノ建坪ハ、一階ヲ基礎トシテ其半分ト計算シタラ良イ。テ右ノ建坪三十坪トイフノハ、平屋建ナレハ三十坪其儘テアルカ、二階建ナレハ總二階ニシテ二十坪ノモノトナリ、其ニ三十坪ノ附屬地ヲ併セテ五十坪以内ノ宅地カ免税サルルコトトナル。二家族以上共用ノ建物及附屬地ハ各平分シテ計算スル。其レカラ住居ト産業用ト兼テタ場合ニハ明白且ツ直接ニ産業ニ用キラルル部分、例之店舗、仕事場、工場、倉庫、物置（何レモ商品、材料ヲ入ルル爲メノ）ヲ除クコトトスル。附屬地ニ於ケル庭園及空地カ住居用ト見ル

ヘキハ勿論、宅地ノ構内ニ在ル以上ハ森林、花園、果物野菜畑等トナレルモノト雖モ矢張り住居用ニ計算スヘキテアル。此等ノモノニハ一部生産用ノ意味モアルカ、併シ住居用テアツテ庭園ニ代ルヘキモノトイフ意味モアルカラ、之ヲ免除スルコトハ出來ナイ。之ヲ免税サレヤウトスルナラハ、其等ヲ明確ニ宅地ト區別スヘキテアル。

(二) 課税標準及税率——課税標準ハ右ニイフ所ニ依リ明ナル如ク、一半ハ賃貸價格ニヨリ、其五百圓ヲ超ユルタケニ對シテ一定ノ累進稅ヲ課スヘキテアル。ソシテ其賃貸價格ハ、一應、義務者ヲシテ申告セシメ、之ヲ委員會ニテ適當ニ修訂シテ決定スル。實際ノ賃貸價格ナキモノハ、類推ニ依ル。課税標準ノ他半ハ建坪及附屬地坪テアルカ、之ニ對シテハ凡ソ左ノ如キ關係ニテ課税率ヲ定ムヘキテアル。

(A) 三十坪ヲ超過スル建坪ニ對シテ

一

(B) 三十坪ヲ超過スル附屬地坪ニ對シテ

二

即チ建坪ノ方ヲ附屬地坪ヨリモ輕クスルノハ、土地ノ利用上前者ヲ寬大ニスルノ薦ムヘキモノカアルカラテアル。或ハ此坪數稅ヲ累進稅ニシテモ良イカ、此方ハサウシナイテモ良イ。簡單ノ爲メニムシロ比例ニシテ置イテモ良イ。尙ホ稅率ニツキ既ニ坪數稅ノ處テ地

方事情ヲ考慮シテアル譯テアルカラ、其以上ニ地方事情ノ斟酌ヲ爲スニ及ハヌト思フカ、夫ノ家族員數ノ斟酌ノ如キニ至テモ、此モ下層民ノ爲メナラハ兎ニ角、奢侈的ナル高級住居ノ場合ニハ考慮セストモ良イ。特ニ之ヲ斟酌スルトナルト、賦税手續面倒トナルノミナラス(註二四)、脱税センカ爲メニ戸籍ヲ細工スルモノヲ生スルコトニモナル。特ニ日本ノ戸籍制度ノ特殊ノ事情ノ下ニハ尙更ニ探ルコトヲ躊躇セシムル。

(註二四) ぐらふハ曰ク、此カ決定ニハ被税者ノ内部及家族事情ニ於ケル痛マシキ侵入トイフ弊害カアル。恰カモ之カ故ニ英佛露ニテ其住居税ニ住者數トイフ特徴ノ採用ヲ止メタ所テアルト。²⁴⁾

(三) 租税主體及課税權者——此ハ矢張り前論文ニテ一般住居税ニツキイヘルト同様、租税主體ハ住居者トスヘク、課税權者ハ國家トシテ良イ。國税トシテ慣レタル後、更ラニ地方附加税ヲ許シテモ良イ。租税主體ノ往居者タルコトハ、夫ノ一般住居税ノ場合ニハ困ルコトモ生スルカ、高級ノ其ノ場合ニハ大シテ不都合ハナイ。

結 論

以上要之、住居税ニハ若干弊害カアリ、特ニ下層民ニ對シテ社會上不良ノ影響カアルカ併シ別ニ財政上ニモ社會上道德上經濟上ニモ棄テ難キ長所カアル。ソシテ其弊害ハ之ヲ高

24) Graf, a. a. O. S. 178.

級住居税トスルコトニヨリテ餘程除去シ得ル所テアルシ、斯クスルコトカ公平課税ノ要求カラモ薦ムヘキモノテアルカラ、斯カルモノヲ成形シテ、租税體系ノ一瓜分トシ、所得税等ヲ補充スルコトトスルノハ頗ル適切ナル處置テアリ、日本ナトニテハ現下ノ時世ニ最適合シタモノト思ハレル。(大正八年九月)

第三部 特殊的課徵物

第十二編 特別課徵ノ本質

緒言

(一) 近時我國ノ財政、特ニ地方財政カ窮乏ノ境ニ在ツテ、財源發見ニ苦心ノ結果、政府ニ於テ特ニ地方財政ノ爲メニ附加稅制限ヲ緩和スルノ外、間口稅、空地稅、庭園稅等ヲ許ス方針トシタトノコトアル。洵ニ適當ノコトト思フ。空地稅、庭園稅ニ關シテハ、土地增價稅及住居稅ニ關シテ說キタルコトカアリ、特ニ庭園稅ニツキテモ特別ノ一文ヲシタコトカアルカラ、今暫ラク重テテ說クヲ休メ、特ニ間口稅ニ關シテ考慮シタイト思フ。處テ此ハ多分、外國ニ在ル特別課徵ノ一方法トシテ行ハルルモノ(註一)カラ思ヒ着キタルモノト考フルカ、特別課徵トイヘハ此ノミニ據ルノテハナク、加之、特別課徵トイヘハ稅トシテ取ルノテモナイ。一定地區内ノ者ニ間口其他ノ標準ニ依リテ利益ニ應シテ取ルモノテアル。ソシテ私ハ間口稅ヨリモムシロ、特別課徵ノ方ニ特別ノ重要ヲ認メ、理論上モ正當ニ、時世ニモ適切ナリト思フニ依ツテ、之ヲ明ニシャウト考フルカ、其前ニ一應、特別課徵トハ

何かトイフコトヲ說カウト考フル。本入ハ此後ノ點タケニ關スル。主論ハ次文以下ニ續記スルコトトスル。尤モ之カ理論ハ學問上、多少發達ノ後レタ嫌カアルカラ(註二)、其積リニテ讀マレンコトヲ乞フ。

(註一) 普魯西テハ一八七五年ノF、L法ニ依ツテ、道路ノ建設及維持費ヲ接觸地ノ所有者ニ其道路ノ闊レタル境界總ノ長サニ應シテ負擔セシムル場合カアル。¹⁾ 尙ホ同國ニハ下水費ノ爲メニ間口ノ長サニヨツテ測定シタル一回的資本分擔金カアル。

(註二) セリぐまんハ、未タ何處ニモ之カ理論及實際ニツキ適當ナル論究ヲ見出サナイ。トイフテ居ル。²⁾

(二) 本文ヲ說クニ就キ、先ツ其用語并ニ由來ヲ簡單ニ述ヘテ、次ニ定義ヲ與エ、其特徵ヲ列記シ、其ニ添エテ他ノ類似物タル租稅、手數料トノ對照ヲ爲サウト思フ。

第一段 特別課徵ノ用語及由來

(一) 用語——特別課徵トイフノハ英語ノ Special assessments³⁾ ヲ譯シタノテアル。色々ノ原語カアルケントモ、此カ最適當ト思フニ依ツテ之ヲ採リ移用シタ。此ハムシロ米國ニ行ハルル語テアリ、英國テハムシロ Betterment tax、(註三) Special improvement rates⁴⁾ トイハシ、⁵⁾ 獨語テハ Contribution⁶⁾ amelioration⁷⁾ トイヒ、獨語テハ分擔金 Beiräge⁸⁾ Interessentenbeiträge、⁹⁾

1) Fass, Die Heranziehung der Anlieger zu den Strassenbaukosten. S. 10.
2) Landsberg, Die Entwicklung des Gemeindeabgabenwesens. (in Schriften des Vereins für Sozialpolitik, Gemeindefinanz. II I.) S. 7.
3) Seligman, Essays in taxation. 8 ed. p. 413.

カ最々行ハルカ、²¹ 其他 Mitinteressenbeiträge, ²² Kostenbeiträge, ²³ Zuwachsbeiträge, ²⁴ Soziallasten, ²⁵ Präzipualleistungen, ²⁶ Steuerpräzipuen, ²⁷ Ausschläge ²⁸ ナルニシヤム。

- 4) Rosewater, Special assessments. Seligman, l. c. p. 413. Nitti, Principes de science des finances. p. 255.
 - 5) Ba-table, P. F. 3 ed. p. 166.
 - 6) Nitti, l. c. p. 255.
 - 7) Neumann, Die Steuer rund das öffentliche Interesse. S. 326. Voeke, Grundzüge d. Fw. S. 92. Roscher, System d. F. 5 A. II. I. S. 28. Eheberg, Fw. 9 Aufl. S. 108, H. 1, Gebühren. (in Conrad, Hrb. 3 Aufl. IV.) S. 513. Seligman, l. c. p. 413.
 - 8) Odenkirchen, Interessentenbeiträge. Schäffle Steuern. B. T. S. 14. Heckel, Lehrbuch I S. III. Neumann, n. a. O. S. 330. (Interessentenhaussee beiträge).
 - 9) Schäffle, n. a. O. S. 14.
 - 10) Stastmann a. D., Fw. S. 169.
 - 11) Odenkirchen, a. a. O. S. 33.
 - 12) Neumann a. a. O. S. 331. Ehrler, Die Gemeindebesteuerung im Grossherzogtum Baden. (Schr. Fw. d. V. l. c., Gemeindefinanzen. I.) S. 159. Waiker, Fw. S. 76.
 - 13) Heckel a. a. O. S. III.
 - 14) Heckel ebenda.
 - 15) Birnbann, Die Gemeinliche Systeme i Deutschland. S. 78.
- (註三) 此語ハ諸書ニ出ツ。例之セリぐまん¹⁶⁾ ニつちハ如シ。セリぐまん¹⁷⁾ ハミロ beitement charge トイフ方カ適當トイフ。

16) Seligman, l. c. p. 433 Nitti, l. c. p. 255.
 17) Seligman, l. c. p. 444.

(二) 由來——此ハ英國ニ初マリ(註四)、米國ニ傳ハツテ(註五)、此處ニテ最良ク發達シタカ(註六)佛國ニテモ米國ヨリモ早ク其萌芽ヲ持チ(註七)、唯タ今日テハ英佛ニハ多ク行ハレナイ(註八)獨逸テハ今日ハ可ナリ廣ク行ハレ(註九)、伊太利ニモ多少其實カアル(註一〇)。我國ノ市制一二二條、町村制一〇二條ノ規定ハ明瞭テハナイカ、解釋ノ仕様ニヨリテハ、之ニ基キテ特別課徴ヲ設ケテモ良イト思フ。尤モ之ニ重キヲ置クナラハ、今少シク明確適切ナル規定ヲ設クルコトカ望マシイ。

(註四) ろーすうおー ーノ説リ處ニ依ルト、英國テハ一四二七年ノ日附ヲ持チタル下水及排水法ノ澤山カアツテ、之ニ依ツテ海水ノ汎濫ニヨリ損害ヲ受クル堤防、濠渠、橋梁等ノ建設、又ハ修繕ヲ爲シ、其工事又ハ工事費ヲ其土地ニ就イテ之ヨリ利益ヲ受クル凡ヘテノ者ニ配當スル爲メニ、委員會カ指命セラルルコトトナツタトイフコトテアリ、セリぐまんニ依ルト一六六二年ニうひすさみにすたーニテ或道路ヲ擴張シ、任意ノ酬金ニ依ツテ其費用ヲ充タスコトヲ許ス法律カ出タ。ソシテ此カ不充分ノ場合ニハ道路敷設委員會ニ、受ケタル利益ニ比例シテ、財産ノ所有者ヲシテ負擔セシムルノ權能カ與エラレタトイフコトテアル。¹⁸⁾

(註五) 米國ニテハ、此カ先ツ紐育ニ入り、一六九一年ノ州法ニ採用サレタ。其ハ英國法ニ倣ツタモノテアリ、此カ段々ト一般ニ米國ニ行ハルルコトトナツタ。¹⁹⁾

(註六) ばすてーぶるハ、此カ公平ニ、米國産物トイフコトヲ得ル。——其ニ廣キ發達ヲ與エタノハ米國立法ノ効ニ歸セラルトイフ。其ノ如何ニ米國ニ發達シタカノ一例ヲ示ス爲メニ、セリぐまんノ擧グル所ニ依レハ一八九一年ニ

18) Seligman, l. c. p. 413.
 19) Rosewater, l. c. p. 20. Seligman, l. c. p. 434.
 20) Seligman, l. c. p. 414. 436.

紐育市ニテ二百四十萬弗以上ノ収入ヲ擧ケ、一八九〇年ニシカゴ市ニテ八百七十九萬弗ヲ擧ケ、租稅收額ヨリモ大テアツタトイフ程テアル。²¹⁾

(七) ろーすうおーたーニ依ルト、此原則ノ適用ニツキ、佛國テハ記録カ一六七二年ニ遡ル。當時、暗キ狹キ街路ヲ取廣ケラレタトキニ、斯カル改良ニ依ツテ利益スル家屋ノ持主カ需用ヲ貢獻スヘキテナイカノ問題カ起ツテ、既ニ屢々肯定的ニ定メラレタトイフコトテアル。²²⁾

(註八) せりぐまんニ依ル。尙ホぐらいすニ依ルト。佛國ニテモ、市ニ於ケル改良、道路掃除、撤水、敷石、及道路建設ノ爲メニ爲サルル特別支拂カアルトイフコトテアル。²³⁾

(註九) 普國ノ地方課徴ニ法第九條ニ之ヲ規定シテ居ル。ばーでんニモ規定アリ。うゆるてんべるひニモ法律上此カ認メラレ、ぶらうんじゆわいひ、じゆわるとつぶるぐぞんだーすはうぜんニテハ普ト同様ニ規定セラレ、あんぼるまざくせんまいにんげん、りつべニモ此カアリ、へつせんノ一あうすじゆれいげ」カ之ニ當リ、おるでんぶるぐニハ此ニツキ明文カナク、實際ニテモ此カ地方財政ニ頗ル低イ役目ヲ働キ、ばいゆるんニテハ之ニ關スル特別規定ハナイ。唯々事實、新道路ノ建設ニツキ市町村ヨリ支出サルル金額カ之ニ依ツテ齎ラサル。²⁴⁾

(註一〇) につちニ依ルト、伊太利テハ、改良工事ノ爲メニ、特別貢獻ヲ規定シ及之ヲ義務的トスルノ法律ハナイ。併シ公共工事ノ立法ノ中ニ、英米ノ法律ノ其ニ類似シタ諸多ノ取計カアルトイフコトテアル。²⁵⁾

第二段 特別課徴ノ意義及特徴

(一) 定義——特別課徴トハ何かトイヘハ、此ハ政府(註一)ノ施設ニ依ツテ特段ナル利益ヲ受クル一定地區内ノ者ニ對シ、其費用ノ一部ヲ充タスカ爲メニ、其特段ナル利益ニ應シテ配

21) Bastable, l. c. p. 166 402. Seligman, l. c. p. 414.
22) Rosewater, l. c. p. 14.
23) Seligman, l. c. p. 413 (Greece, National and local finance p. 283.
24) Odenkirchen, a. a. O. S. 8. 12 14 Birnbaum, a. a. O. S. 63. 78. 133. 162. 177. 218. 275. 281. 5. 306. Kutze, Die öffentlich-rechtlichen Einnahmen der Gemeinden in Bayern. (Gemeindefinanzen. I.) S. 220.
25) Nitti, l. c. p. 257.

當シ課徴スル物トイフテ良カラウ。由來之ニツキ色々ノ定義カ與エラレタカ(註一二)、私ハ彼是レ考慮シタ結果、右ノ處ニ到達シタ所テアル。

(註一二) 分擔金ニハ政府即チ地方團體ノ其ノ外ニ、特段ナル團體、例之、提防組合、耕地整理組合ニテ取ラレルモノモアルトイフ見解モアルカ。²⁶⁾併シ財政ノ固有ノ問題トシテハ前者ノミトイフテ良カラウ。私ノ定義ハ其考ニ出ツル。

(註一二) (一) 普通ナルモノ——例之、せりぐまんハ、特別課徴トハ公益ニ於テ企テラレタル財産ニ於ケル特別改良ノ費用ヲ充タスカ爲メニ、得ラレタル特別利益ノ割合ニ應シテ課セラルル所ノ強制的貢獻物テアルトイヒ。あだむすハ之ヲ探リ、ろーすうおーたーハ、特段ナル箇人又ハ財産ニ、特ニ有利ナル改良ニ對スル課税ノ意味ヲ有チ、與エラレタリト推定セララルル特段ナル利益ニ比例シテ課徴セラルルモノテアルトイヒ、びりんすきーハ分擔金ノ下ニ、第一位ニ義務者ニ用立ツヘキモ此外ニ公共的重要ノ設備トシテ一般市町村方便ニテ設立セラレ維持セラルル所ノ設備ノ設立ヲ維持ノ爲メニ、或人又ハ階級ノ一回的又ハ規則正シキ強制的寄與ヲ理解ストイヒ、ちいつけんすたいんハ分擔金トハ各人カ、附近土地ニ利益ヲ齎ラス所ノ公ノ設備ノ設立及維持ニ依リテ生スル所ノ費用ニ、此ノ彼等ニ生シタル利益ニ顧慮シテ干與スル所ノ手数料テアル。義務者ハ此ニハ常ニ市町村ニアル土地ノ所有者テアルトイヒ、ぼるぐまハ分擔金トハ或公益ニ於テ要セラレタル市町村施設ノ設立及維持費ニ對シ、此ヨリ義務者ニ生シタル特段ナル利益ノ標準ノ爲メニ、地主及營業者ノ爲スル所ノ貨幣的給付トイヒ、おーでんきんへんハ、利害關係者分擔金トハ其設立及維持カ公益ニ存スル所ノ施設ヨリ義務者ニ生スル所ノ特段ナル經濟上ノ利益ノ爲メニ、公共團體ヨリ徵收セラルル所ノ公法上ノ課徴物テ、其高サカ給付サレタル利益ノ價值ニ從ツテ測定サルルモノテアルトイフ。²⁷⁾

26) Neumann, a. a. O. S. 330.
27) Seligman l. c. p. 414. Adams, Science of finance. p. 226 Rosewater, l. c. p. 88. Bliński, Die Gemeindefbesteuerung. S. 9. Reitzens' en, Das kommunale Finanzwesen. (Schönberg, IIb. 4. Aufl. III. II.) S. 70. Brght, Fw. S. 72. Ode Krohen, a. a. O. S. 8.

サルル分擔給付テ、之ヨリシテ或國家的設備ノ設立ニ於ケル部分的費用充足ノ爲メニ、又ハ國家の福祉事業ノ實行ノ爲メニ拂フヘキモノテアルトイフコトアリ、(B)へつけるニ依ルト、分擔金トハ公ノ制度及官廳ノ給付ニ對スル報償テ、之ニヨリ生シタル費用ノ充足ノ爲メニシ 併シ此ニ於テ實際ノ官務ノ存セサルモノテ、彼ハ之ヲ二分シテ特別給付 (Priz' p'nalists' m. e., Seron' p'k' n. e.) ト目的税ト爲ス。前者カ人ノ通例イフ特別課徴又ハ分擔金ニ當リ、目的税タケカ餘計テアル。²⁸⁾

(二) 特徴

(A) 必要の特徴

(イ) 一ノ課徴物タルコト——此ハ特別課徴カ他ノ任意寄附金ヤ私經濟的收入トモ異リ、而カモ租税トモ手數料トモ同ナル點テアル(註一三)。其レテアルカラ之ヲ或學者ハ課税權ノ發動ニ依ルモノトスルカ(註一四)、其カ租税テナイ以上、斯クイフハ正確テナイ、ムシロ高權又ハ強制權ノ發動トイフノカ選ムヘキテアル。尤モ手數料ヲ租税ニ入ルル所ノ廣義ノ租税トイフ觀念(註一五)カライヘハ、前者ノ如クイフテモ必スシモ不當テナイ。

(註一三) ろーすうおーたーハ、強制作用ニ依ツテ終局徴收セラルヘキコトニ於テ、特別課徴カ租税ト似タリト爲シ、特別課徴ノ手數料トノ類似點トシテモ此カ國家ノ課税權ノ下ニ課セラルルコトヲ擧ケテ居ル。²⁹⁾ 或ハ特別課徴ハ強制的ナレトモ、手數料ハ任意的トイフカアル。例之、びりんすきーハ手數料ノ任意ノ利用ニ課スルニ對シ分擔金ハ強制的ニ拂ハルト ヒ、につちモ手數料ハ任意的テアル。人ハ之ヲ拂ハナイコトカ出來ル。併シ

特別貢獻ハ義務的テアル。何トナレハ改良カ謝絶スルヲ得ナイカラトイフ。併シ其説明ハ當ヲ得ヌ。何レモ強制的テアル。せりぐまんモ亦夫ノ説ノ不當チイヒ、兩者共強制的トイフテ居ル。³⁰⁾

(註一四) ろーすうおーたーハ語ノ或意味テハ、特別課徴ハ租税テアル 國家ノ課税權ノ下ニ、公共目的ノ爲メニ課セラルル意味ニ於テ然リトイフ。せりぐまんモ此カ課税權ノ實行ヲ表ハストイフ。³¹⁾

(註一五) ろーハ斯ク解説ス。べるぎうすモ、らうチ引用シ、更ラニ自ラモ進ンテ、手數料ト租税トノ區別ハ私ニハ大ナル實際上ノ重要アリト思エストイフ。³²⁾ 尤モわるかーカ手數料カ諸多ノ學者ニヨリ間接税ニ算ヘラルトイフノハ。³³⁾ 此意味テハナイ。わるかーノハ手數料カ進化シテ間接税のニ能カニ依リ課セラルルコトナルヲ見テ居ル。

(ロ) 政府ノ施設ニヨリ特段ナル利益ヲ受クル者ニ對シ課徴サルコト——ツマリ特別報償關係ニテ取ルトイフコトテ、此點ニ於テ此カ租税ト異リ、手數料ト同トイフコトニナル。尤モ手數料ニテハ特別報償トイフコトハ凡ヘテイヒ得ルカ、特段ナル利益トイフコトノイヒ得ナイ場合カアル。例之、刑事訴訟手數料ノ如キテアル。何レニセヨ、特別課徴テハ、人民カ政府ノ施設ニヨリ一般的ニ利益ヲ受クル報償トイフノテナクテ、其ニヨリ特段ナル利益ヲ得タルニ對シ、其ノ之ヲ得タルタケニテ取ルモノテアル(註一六)。手數料ニテハ特段ナル利益アリトイヒ得ナイコトアルニセヨ、其時ニテモ特段ナル給付ヲ受ケタリトハイヒ得ル。此ニ對スル報償トイフ點ニテ兩者共通トナリ、此ニヲ合セテ廣義ノ手數料トシテ、

30) Bilinski, a. a. O. S. 19, Nitti, l. c. p. 256-7. Seligman, l. c. p. 420.
 31) Rosewater, l. c. p. 133. Seligman, l. c. p. 415.
 32) Rau, Grundsätze d. Fw. 5 Aufl. I. S. 348. Bergius, Grundsätze d. Fw. S. 247.
 33) Waloker, a. a. O. S. 24.

28) Elheberg, a. a. O. S. 108-9. Heckel, Lehrbuch. I. S. 111.
 29) Rosewater, l. c. p. 133-134.

租税ト對立セシメルコトカ出來ル(註一七)。或ハ政府ノ施設ハ凡ヘテ各人民ニ不可分のニ及
 ブトモ見ララルカ、仕事ノ種類ニヨリ、例之 陸海軍備ノ如キハ全ク然リテアルカ、既ニ
 司法、教育ニナルト、餘程、一般利益ノ外ニ特別利益又ハ少クトモ特別給付ト見ルヘキカ
 アリ、經濟交通ニ至ツテハ、一層多ク此カアル。特ニ地方行政ニテハ、特ニ例之、道路、
 橋梁、堤防ニナルト、特別利益ヲ受クルモノノ生スルコトトハ確テアル。一般人ヨリモ以
 上ニ、特ニ明示スヘキ利益ヲ受クルカアリ、或ハ明確精密ニハ示スコトカ出來ナイニセヨ
 或度マテハ一般人以上ニ特ニ大ナル利益ヲ受ケタト推定シテ然ルヘキカアル。此ニ對シ、
 其當時ノ人々ノ公平觀及常識ニ從ツテ、其ヲ決定シテ特別ノ課徴ヲ爲スヘキモノテアル。

(註一六) セリぐまんハ特別課徴ノ爲メニ、政府ハ報償トシテ一定ノ特段ナル行爲ヲ爲スノニ、租税ノ爲メニハ、政
 府ハ報償トシテ特別箇人ノ爲メニ特別ノ事ヲ爲スコトヲ保證シナイトイヒ、ろすう、いたハ、特別課徴ノ場合
 ニハ、政府ハ常ニ或積極的勤務ヲ爲シ、其費用ヲ利益シタル人ヨリ賠償セシメヤツトスル。租税ノ場合ニハ、被稅
 者カ其仲間ノ者ヨリモ一層大ナル政府勤務ノ利益ヲ受クルノテハナイ。隨フテ特段ナル勤務ニツキテ費用ノ分前ノ
 問題ハ税ノ決定ニハ關係ナイトイヒ、特別課徴ト手数料トノ類似點トシテ、政府ノ或特段ナル勤務ニ對スル賠償ニ
 於ケル支拂トイフコトヲ擧グ。ふおつけモ分擔金ト手数料トノ共通點トシテ、此カ特段ナル種類ノ國家給付ノ爲メ
 ニ、各箇ノ國家設備ノ利用ノ爲メニ、スヘテ特段ナル目的ノ爲メニ、一般ヨリテナク、唯關係者ヨリ要求セラレ與
 ラルルコトヲ擧グ。³⁴⁾

34) Seligman, l. c. p. 417. Ro eweter, l. c. p. 133. 134. Vocke, a. a. O. S. 92.

其他 おいでんきるへんハ此カ 定ノ給付ニ對シテ特段ナル報償トシテ徵收サレ——公共施設ニヨリ與エラルル特
 段ナル經濟上ノ利益ニ對ルル反對給付トシテ徵收セラルトイヒ、らんべるぐハ、特段ナル經濟上ノ利益ヲ賠償ス
 ル爲メニ有功ナル方便トイヒ、ぼるぐミハ、義務者ニ生シタ、特段ナル利益ノ平準ノ爲メニスル給付トイヒ、うん
 ぶんばつはハ、分擔金カ常ニ唯々互ニ獨立シ對立スル人格ノ間ノ分解ニ關シ、全人格ノ内部ニ入込ム所ノ關係ニ
 關シナイトイフ。³⁵⁾

尙ホ此點ニテ自ラ租税ト異リ、隨フテ間々混同セラル、目的税ト異ル。税ハ能力ニ依リ、分擔金ハ能力ニ據ラス、
 利益ノ爲メニ其利益ニ據ルコトナル。

(註一七) らいつねんすたいん、びりんすきーハ、分擔金ヲ手数料ノ一種トシ、あだむすハ之ヲ手数料ノ同類トイヒ、
 わぐな ハ此カ唯手数料ノ特段ナル種類ト見ララルコトニ諸ノ理由アリト爲シ おいでんきるへんハ往々ニシテ人
 カ分擔金ヲ廣義手数料ニ入レ、然ルトキハ此カ狹義手数料ト分擔金トニ分タルトシ、のいまんハ廣義手数料ノ中ニ
 (公務及企 手数料ヲ含 所ノ中間義ノ手数料ト)分擔金トヲ含メ、しほふれ ハ、分擔金・手数料トハ反對給付
 ノ爲メノ給付タルコトニ於テ共通テ、此兩者ハ租税ニ對立シ、——此分擔金カ租税資本ニ從ツテ測定サルルトキニ
 テモ、決シテ租税ト見ルヘキモノテナイトイフ。³⁶⁾

(ハ)一定地域内ノ受益者ニ配當スヘキモノナルコト——此カ手数料ト特別課徴トヲ區別
 スル要點テアル。手数料テアレハ、受益者ノ何人カハ施設利用ノ各出來事ノ現ハレサル以
 上ハ分ラヌ。併シ特別課徴テアルト、初メヨリ其ノ或施設ニヨル受益者ハ一定地域ノ特定
 サレタ者トイフコトカ明カテアル。之ニ對シテ分配サルルコトニナル(註一八)。此點カラ租

35) Odenkirchen, a. a. O. S. 7. Landsberg, a. a. O. S. 4. Borcht, a. a. O. S. 72.
 Umpfenbach, Fw. S. 82.
 36) Reitzens ei, a. a. O. S. 70. Bilinski, a. a. O. S. 19. Adams, l. c. p. 227,
 Wagner, Fw. 2. nfl, II, S. 42. Odenkirchen, a. a. O. S. 2. Neumann, a. a.
 O. S. 326. Schaffle, a. a. O. S. 15. 373.

税ヲ見ルト、租稅ニハ右ノ二ノ場合ノ孰レモカアリ得ル。勿論此ニハ利益トイフ關係ハナク、一定地域トイフコトハ適切テナイケレトモ、義務者ノ豫定ト否トイフコトカラ見テ斯クイフ事カ出來ル。

(註一八) ろーすうおーたーハ、特別課徴ハ或地方區内ニ配當セラレ、手数料ハ或機會ノ生スルトキニノミ徵收セラルトイフ。セリぐまんモ特別課徴ニハ課徴區域ナカルヘカフストイヒ、ローべるぐハ手数料トノ區別トシテ、其理由カ當該地方施設ニヨリテ土地ノ或場所的ニ分界セラレタル團塊ノ爲メニ存スル所ノ利益ニ存ストイフコトヲ舉クル。びるんばうむニ至ニハ、分擔金ノ意義ヲ租稅ノ其ヨリ區別スルコトハ明瞭ナラストイヒ、而カモ分擔金トシテ唯義務者ノ一定ノ範圍ヨリノミ徵收スヘキタケニテハ、特別報償トイフコトアル。シトイフテ居ル。³⁷⁾

或ハ此事ヲ表ハス爲メニ、特別課徴ノ方ハ永續的事物ニ基キ、隨ツテ臺帳ニ依ツテ課徴セラレ、手数料ノ方ハ一時的出來事ニ基キ、隨テ料率ヲ適用シテ課徴ストモイフカ(註一九)、又一見スレハ其ノヤウニ見ユル。例之、裁判手数料トイヒ、授業料トイヒ、其裁判所學校ノ設立維持トイフカ如キ永續的施設ニツキ手数料ヲ取ルノテハナク其永續的施設ノ箇々ノ利用ニツイテ手数料ヲ取ルノテアル。ソシテ道路橋梁ノ建設ニ對スル特別課徴ニナルト、道路橋梁カ永續的ノモノテアツテ、其ニ對シ取ルノテアル。併シ其道路橋梁ノ建設費ノ爲メノ特別課徴トイヘハ、其建設トイフコトハ全ク一時的出來事トモイヒ得ル。又特ニ手數

37) Rosewater, l. o. p. 135. Seligman, l. o. p. 415. Eshoberg, a. a. O. S. 510. Birnbaum, a. a. O. S. 17.

料カ臺帳的ナラスシテ、時々料率ヲ適用スルコトハ可トスルモ(註二〇)、特別課徴カ必スシモ臺帳ニヨリ繰返シ取ラレルノテナク、間々一回的ニ取ラレルコトモアル。其故此區別方法ハ適當テナイ(註二一)

(註一九) 其ハのいまんノ有名ナル説テアル。彼ハ曰ク、固有ノ意義ニ於ケル手数料ハ夫ノ間接稅ト均シク、各箇ノ出來事又ハ一時的狀態ニ直接關係ニ於テ、即チ官廳ノ特段ナル要求ニ際シテ、官廳ヲ特ニ煩ハス際ニ、彼是ノ國家的制度、例之、公ノ運輸設備、衛生施設等ノ利用ニ際シテ拂フヘキ報償テ、此ノ如キ各箇ノ出來事ノ發生ヲ豫見スルコトノ不能ノ爲メニ、拂フヘキ額ニツキテモ、此ニ止マル所ノ期間等ニ關シテモ豫メ定メラルルコトカ出來ナイ、臺帳ニ記載サルルコトカ出來ナイ。隨テ此支拂ニ於テ豫定ハ單ニ關係出來事ノ發生ニ於テ拂ヘキ料率ニツキテノミ生シ得ルモノテアル。反之、分擔金ハ直接稅ト均シク一時的事物ニ依ラナイテ、永續的事物ニヨリ、存続的狀態ニヨリ、隨テ例之、斯カル存続的永久的利用(道路、橋梁、水閘、堤防、泉水、礦山等ノ如キ公ノ設備ヨリ關係所有者ニ生スル所)ノ標準ニヨリ課セラルル報償テ、斯カル永續的事物ヲ豫メ測定スルコトノ可能ノ爲メニ、拂フヘキ額及其支拂ニ止マルヘキ期間ニ關シテ豫メ定メラレ、之ニ從テ臺帳ニ登錄サレ得ルモノテアル。³⁸⁾

(註二〇) 手数料ニテモ、設備ヲ常用スルカ如キ者ニ對シ、臺帳的ニヨリ、一年分ツツ撥メテ取ルコトモ出來ル。
(註二一) サレハろーすうおーたーハのいまんノ區別ハ、眞實ヨリハ、外見的、區別ノ助トナルヨリハ混雜ヲ生スルモノトイフ。おーでんさるへんモ此區別ハ實際ニハ維持セシメナイ。例之、運河手数料カ、其永續的利用ニ對シテ、運河分擔金カ一回的出來事ニツキ課セラルル。——存在スル所ノ臺帳ニ關聯シテ分擔金ノ徵收トイフコトハ、今日ハ殆ント現ハレナイトイフ。³⁹⁾

38) Neumann, a. a. O. S. 32(=7).
39) Rosewater, l. o. p. 135. Odenkrohen, a. a. O. S. 28.

(B) 其他ノ特徴——以上ハ他種ノ類似收入ト區別スル爲メニ缺クヘカラサル主要特徴デア
ル。此ニ尙別ニ若干ノ注意スヘキ特徴カアル。左ノ如クテアル。

(イ) 當該施設ノ費用ノ一部ヲ充タスカ爲メナルコト——此ハ夫ノ租稅ノ一種タル目的稅
ノ如ク、明確ニ收入ノ用途ヲ指定スルノ意味テハナイ。之カ收入ヲ一般會計ニ入レテ使用
スルヲ認ムルノテアルカ、併シ其本質上、之ヲ取ル所以ノモノカ、夫ノ費用ヲ充タストイ
フコトニアツテ、費用ノ入ラナカツタ場合ニハ(例之、道路カ全ク寄附金テ出來タ場合ノ
如キ)、最早、特別課徵ヲ取ル必要ナク又理由モナク、其費用ノカカル場合テモ、之ヲ超エ
テ取ルヘキモノテハナク、必ス其費用ノ一部限リトスヘキヲ明カニスルノテアル(註二二)。
元來政府ノ施設ハ營利收入ニ關スルモノヲ別トシ、一般的關係ノナイモノハナイ。公益ノ
爲メニシナイモノハナイ(註二三)。其レ故ニ營利收入ニ屬スルモノハ別トシ、其他ノ方面テ
ハ施設ノ費用ノ一部ハ必スヤ租稅ニ依ルヘキテアル。其如何ナル度ニテカハ簡々ノ施設ニ
ヨリ考慮シナケレハナラヌカ、一部ハ必ス租稅ニ依ルコトヲ要スル。故ニ特別課徵テ費用
以上ヲ取ツテハナラス。費用以內テナケレハナラヌ。又政府カ公務ニツキ特別人ニ對スル
特別利益ヲ考慮スルノハ全ク例外的ノコトデアアルカラ、政府ニテ別ニ費用ヲ要スルコトノ

ナカツタトキハ、假令或人ニ特別利益ヲ與エテモ、其關係ヨリシテ特別課徵ヲ爲スヘキテ
ハナイ。併シ此場合ノ特別利益ヲ全然課徵セストイフノテハナイ。之ヲ一ノ不勞利得トシ
テ能力ニ據ル土地増價稅ノ如キモノニテ捕捉スヘキテアル。

(註二二) ろーすうおーたーハ、特別課徵ハ利益シタル財産所有者ニ特別利益ノ結果ヲ生スルタケ多クノ費用ヲ充タ
スヘク課スルタケ(其利益ニ比例シテ)ニテノミ正當テアルトイヒ、⁴⁰⁾ ろーあらーハ第一位ニ公益ニ於テ生シタル設備
(其ノ爲メ分擔金カ課セラレ得ル所)ニテハ、多クハ唯々費用ノ一部ノミカ充足ニ來ル。其分前チ市町村自ラモカ、
彼ヨリ保護サルヘキ公益ニ顧ミテ擔フヘキテアルトイヒ、⁴¹⁾ ろーべるひハ、夫ノ費用ノ全部又ハ大部分ヲ隣人ニ課ス
ル原則ハ誇張サレテハナラヌ。何トナレハ斯カル設備ノ利益ニ於テ、當ニ當該家屋及土地ノ所有者ノミナラス、凡
ヘテノ住民モカ與カルコトカ否ムヘキテナイカラトイフ。ぼるぐさ、ばすてーぶる等亦同意味ノコトナイフ。⁴⁰⁾
(註二三) ろーすうおーたーハ特別課徵ト手数料トノ類似點トシテ、公益ノ原始的要素ヲ含ムコトヲ擧ケ、おーでん
きるへんモ手数料及分擔金ノ徵收ノ前提ハ此カ公益ノ爲メ設ケラレ又ハ維持セラルル施設ノ爲メニ要求セラルルコ
トニ在リトス。⁴¹⁾ ろるふるいん⁴¹⁾モ同見。

(ロ) 特段ナル利益ニ應シテ配當サルルコト——此ハ前ノ(A)ノヨリ當然生スルコトテ、
特別課徵ノ性質上當然ノコトデアアル。租稅ノ給付能力ニ據ルニ對シテハ之トノ區別特徴ノ
一トモナル(註二四)。特ニ普國ノ法律ハ明カニ之ヲ規定シ(註二五)、學者ニヨリテハ之ニ重キ
ヲ置ク所デアアルカ(註二六)、之ヲ以テ手数料トノ區別特徴トスルハ過キテ居ル。手数料ト雖

40) Rosewater, l. c. p. 136. Ehrler, a. a. O. S. 159. Eheberg, a. a. O. S. 510
Bohrt, a. a. O. S. 72 Bastable, l. c. p. 404.

41) Rosewater, l. c. p. 134. Odenkirchen, a. a. O. S. 5-9. 75.

モ、刑事手数料ノ如ク利益トイヒ雖キ特別ノモノハ別トシ、其他ハ利益ニ應シテモ配當シ得ル所テアルノミナラス(註二七)、實際ノ立法ニテハ分擔金ニテモ實際ノ利益ヲ問ハス、單ニ推定サレタル利益ニ據ルモアルカラ(註二八)。

(註二四) こゝハ此ニテハ利益ノ標準ニ從ヒ、費用ノ分擔ニテ満足スヘシ。此カ恰モ分擔金ノ本質テアルトイヒ、るつじヤーハ利益ニ從フテ測定スヘキモノトシ、ばすてーぶるハ此カ、受ケラレタル利益ニ應シテ負擔ヲ分擔スル方法ナリトイフ。おーでんきるへんハ此ニテハ租税ニ於ケルカ如ク給付能力ノ確定ナク、手数料ニテ往々可能ナル如ク、給付能力ヲ考慮スルコトモナシトイフ。ろーすうおーたーハ、租税ノ爲メニ國家カ財産、所得、支出等ノ諸ノ標準ヲ支拂能力ノ標準トシテ取ルニ、特別課徴ハ必然、不動産ノ所有者ニ與エラレル利益ノ割合ニ應シテ分配セラルヘシトイフ。⁴²⁾

(註二五) 普國地方課徴物法ニテハ、手数料ハ通例施設ノ管理及維持費カ充タサルルカ如ク測定スヘキモノトシ、分擔金ハ利益ニ從ツテ測定スヘキモノトス。⁴³⁾

(註二六) おーでんきるへんハ其テアル。曰ク、手数料ニ本質的ニ重要ナルハ、其高サカ之ニヨツテ施設ノ費用ノ充タサルルカ如クニ測定セラレルコトトテ、——此ニ給付反對給付ノ價值ニツキテノ割合ハ存シナイ。分擔金ハ其高サニ於テ、其給付ノ經濟的價值ニ從ツテ精密ニ定メラレタル報酬テアルト。⁴⁴⁾

(註二七) 諸學者ノ認ムル所テアル。例之、わぐなーハ曰ク、費用賠償元素ト、特別報償元素ト、——ハ或ハ各個ニテ或 結合ニテ或ハ更ニ他元素ト結合シテ、手数料ノ高サノ測定ノ爲メニ適用ニ來ルヘキ標準ヲ成スト。わーべるハ亦タ、或場合ニハ此ニ生セラレタル費用カ基礎ニ置カレテ測定カ行ハレ、第二ノ場合ニハ手数料ノ標準ハ各人ニ

42) Cohe, System d. Fw. S. 122 Roscher, a. a. O. II. S. 443-4. Pastablo, I. c. p. 166. Odenkirchen, a. a. O. S. 8. Rosewater, I. c. p. 133.
43) Zelle, Städteordnung. 5Auff. S. 74. 76.
44) Odenkirchen, a. a. O. S. 7.

對スル給付ノ價值ニ求ムヘシトイヒ、へつげるモ手数料ハ測定及高サニ於テ二ノ觀察點ヨリ定メラレル。生セラレタル費用ノ充足又ハ費用給付ノ賠償ノ元素ト、給付ノ價值又ハ特別報償元素トテアルトイヒ、ふおつけハ手数料ノ高サハ認可等ヲ求ムル者カ彼ニ其許與ニヨリ生セラレタル利益ヲ自ラ見積ル度、又ハ國家ニ特段ナル行爲ニヨリ引起サレタル費用ノ補償ヲ超ユルコトハ出來ナイトイフ。⁴⁵⁾

(註二八) ろーすうおーたーモ此カ與エラレタリト推定セラレル特段ナル利益ニ比例シテ課徴サルトイヒ、ばすてーぶるモ、此カ標準タル坪數、間口、價值、表面積、何レモカ假定的利益テ、決シテ現實セラルヘカラサル利益ノ標準トシテ取ラレルヲ得トイフ。ソシテ普國ノ地方課徴物法第十條カF L法(一八七五年ノ)第十五條ノ分擔金ヲ認ムルカ、おーでんきるへんノ解釋ニヨレハ法律カ其利益ヲ豫メ推定シテ、道路ニヨリ生スル實際ノ利益ニ顧慮シナイ所テアリ、ばーでんノ分擔金ニ至ツテハ、普國ノト異リ、設備ノ費用ニ依ツテ定メラルトイフ。⁴⁶⁾

(ハ) 其高サカ利益ノ價值ヲ超エナイコト——特別課徴カ特段ナル利益ニ對スル報償タル以上ハ當然ノコトテアル。(A)ノロヨリ當然生スルコトテアル。學者ニヨツテハ之ヲモ一ノ特徴トスル(註二九)。租税ニ對シテハ特徴ニナルカ、手数料ニ對シテハ必スシモ區別特徴ニナラヌ。尤モ刑事手数料ノ如ク特別利益トイフコトノイヒ得ナイタケニテハ別段テアル。

(註二九) 例之、おーでんきるへん。——せりぐまんモ特ニ注意シテ曰ク、負擔カ特別利益ヲ超ユルトキハ無功テアラウ。何トナレハ精密ナル利益ヨリモ多クヲ負擔セシムルコトハ賠償ナクシテ私有財産ヲ取ルコトニ均シイカラト。⁴⁷⁾
(ニ) 利益ニ對シ比例的ナルコト——此ハ能力標準ニ對シテ比例又ハムシロ累進ナルヘキ

45) Wagner, a. a. O. S. 40 Ebeberg, a. a. O. S. 139. Heckel, Lehrbuch. I S. 90 Vocke, a. a. O. S. 87.
46) Rosewater, I. c. p. 88 Bastablo, I. c. p. 166. Odenkirchen, a. a. O. S. 9. 13.
47) Odenkirchen, a. a. O. S. 7. 79. Soligman, I. c. p. 417.

租稅ト對立セラルル所テアルカ、恰カモ利益標準ノ結果テアル。尤モ之ニ反對ノ見モアルカ(註三〇)其ハ通説テハナイ。

(註三〇) 例之、ばすてーぶるハ曰ク、(此カ眞實ノ利益ニ依ラスシテ假定的利益ニ據ルモノ故)此ニ比例負擔ノ必要ナシ。立法者ハ財産ノ一層大ナル塊ヲモツ者ニ一層重キ比率ニテ課スルコトヲ得ヘシト。⁴⁸⁾

(ホ)施設ノ利益カ可分的ナルコト——此ハ(A)ノロノ一面テ、兎ニ角特別課徴テハ之ニ關スル施設ノ利益ノ可分ナラサルヘカラサルハ當然テアル(註三一)。其カ租稅トノ區別トナル

(註三一) ろーすうおーたーハ特別課徴ノ場合ノ利益ハ特別ニシテ測定スヘキモノテアルノニ、租稅ノ方ノ利益ハ一般テ精密ナル測定ノ爲シ難キモノトイフ。せりぐまんモ略ホ同様ノコトナイフ。⁵⁰⁾

(各人ニ或 級ノ成員トシテノミ課セラルルコト——此ハ(A)ノハノ一面テ、之ニ依ツテ手數料カ各人ヲ各人トシテ課スルノト對立セシメラルル(註三二)。

(註三二) ろーすうおーたー、せりぐまん之ヲ擧ク、こーんカ分擔金ハ統一アル設備ノ共同ノ設立ノ爲メノ方便也トイヒ、——目的カ其ノ統一アル存在ニヨリテノミ達セラルトイフノハ此ト同趣旨ニ歸シヤウ。⁵¹⁾

(ト)持ニ多ク地方財政ニ現ハルルコト——此ハ畢竟此カ特段ナル利益ニ關スル爲メテモアルカ(註三三)、均シク特段利益ニ關シテモ手數料ノ方ハ國家財政ニモ可ナリ現ハルルノニ特別課徴ノ地方ニ多ク現ハレ、國家ニ見ルコトノ少イノハ、夫ノ(A)ノハニイフ如キ條件カ

43) Seligman, l. c. p. 416.
49) Eastable, l. c. p. 166.
5) Rosewater, l. c. p. 133 Seligman, l. c. p. 415
51) Rosewater, l. c. p. 135. Seligman, l. c. p. 420. Coahu, a. a. O. S. 122.

地方ノ場合ニハ起リ易キニ、國ノ場合ニハ起リ難ク、特段利益關係トイヘハ精々、箇々ノ場合ノ利用ニツキ生スルカラテアル。兎ニ角事實地方ニ特別課徴カ多イ(註三四)。尤モ地方ニノミ限ル(註三五)トイフニハ及ハス。

(註三三) ろーすうおーたーハ曰ク、或公共負擔ノ課稅ニ於テ、利益ハ特ニ地方財政ニ於テ重要ナル役目ヲ働クト。⁵²⁾

(註三四) わぐな一ハ分擔金ハ國及州ノ財政ニ現ハルルヨリハ、小ナル地方團體、特ニ郡及市町村ノ財政ニ現ハルトイヒ、ぼるぐまモ此カ其重ナル重要ヲ市町村財政ニモツトイヒ、こーべるひハ此カ地方財政ニ特有テハナイカ、此ニテ一層大ナル範圍ニテ現ハルトイヒ、につちモ其重要カ益々著大トナリ、特ニ地方財政ニテ然リトイヒ、ばすてーぶるハ之ヲ以テ地方財政ノ特段ナル形式ノ產物トイフ。⁵³⁾

(註三五) おーでんきるへんハ之ヲ以テ國家自ラ用井サル課徴物トシ、ろーすうおーたーハ特別課徴ハ地方財政ニ限ラルルニ租稅ハ公收入ノ全範圍ヲ通シテ其活動舞臺ヲ持チ、手數料モ國ニテモ地方ニテモ行ハレ得トス。⁵⁴⁾

(チ)多ク特別地方改良ニ現ハルルコト——前記ノ特徴ヲ改メテ斯クスルコトモ出來ル。往々ニシテ特別課徴ハ此ノミニ限ラレタルモノトシテ、租稅及手數料ノ活動範圍ノ廣キヲイフコトアルモ(註三六)、其ハ少シク極端ニ走ツテ居ル。

(註三六) せりぐまんハ租稅及手數料ニ對シ、につち手數料ニ對シ之ヲ説ク。⁵⁵⁾

(リ)額カ一方的ニ政府ニヨリ定メラルルコト——此ハ(A)ノイノ反面テアツテ、私經濟的

52) Rosewater, l. c. p. 13.
53) Wugner, a. a. O. S. 191. Borcht, a. a. O. S. 72 Eheberg, a. a. O. S. 509
Nitti, l. c. p. 255. Bastable. l. c. p. 166.
54) Odenkirchen, a. a. O. S. 2. Rosewater, l. c. p. 133. 135
55) Seligman, l. c. p. 417. 419. Nitti, l. c. p. 256.

營利的收入ニ對スル特徴トナル。或學者ハ之ニツキ手数料ハ確カニ政府ヨリ一方的ニ定メラルルカ特別課徴ノ方ハ其高サカ其給付ノ經濟價值ニ從ツテ精密ニ定メララルル報償テ、之ニ依リ後者カ前者ヨリモ私經濟的報償ニ近ツクトイフケレトモ、⁵⁶⁾其ハ特別課徴ノ内容ノコトテ形式上カライヘハ矢張り政府ヨリ一方的ニ定メララルルコトニ於テ明カニ私經濟的收入ト異ル。

(ヌ) 合計收額カ豫定サルルヲ得ルコト——此ハ畢竟(A)ノ(H)ノ結果テ、手数料ト異ル所テアル。手数料テアレハ、凡ソ平均入費ヲ見、利益ヲ考ヘテ、之ニ基キ一回毎ノ料金ヲ豫定シ、事件ノ起ルニ隨ツテ之タケツツヲ取ル。其收入全額カ豫想ニ合致スルヤ、適當必要ト認ムル額ニ達スルヤハ分ラヌ。然ルニ特別課徴テアレハ、配賦稅ト同様ニ、一定範圍ノ者ニ一回的又ハ割賦的ニ又ハ單純回期的ニ或全額ヲ割當テテ納メシムルモノ故、其合計額ハ確カニ一定額ニ達スル(註三七)。

(註三七) おいでんきるへんカバードンノニ就キ分擔金ハ一定ノ豫算的ニ確定サレタル額ヲ表ハシ、隨テ一定ノ分配標準ニ從ツテ各人ニ賦課サルルモノトイフノハ之ニ當ル。いあらーモ亦之ニツキ分擔金ハ通例次ノ如クニ手数料ト區別セラルトイフ。曰ク、分擔金ハ一定ノ全額ヲ表ハシ、此カ先ツ不分割ニ豫算的ニ確定セラレ、次ニ分割的ニ即チ一定ノ分配規則ニ基キ一定ノ支拂義務者ニ課セラルルノニ——手数料ハ一回的ノ豫算的ニ確定シタル收納物ノ

形テナクテ、市町村制度ノ時々ノ利用又ハ特段ナル地方勤務ノ要求ニ際シテ徵收セラレ、其高サカ各箇ノモノニツキ一定スルモ、合計額ハ全體ニテハ多少不定ナモノテアルト⁵⁷⁾

(C) 間々特徴トシテ擧ケラルルモ本來特徴タラサルモノ

(イ) 永續的事物ニ基キ、隨フテ臺帳ニ基キテ課セラルルコト——此ヲ以テ、特別課徴ノ手数料ニ對スル特徴トスルモノアルコトハ、前ニ(A)ノ(H)ニテ説ケル所テアルカ、其ノ眞ノ特徴トイフヘカラサルコトモ當時併記シタ所ノ如クテアル。

(ロ) 資本勘定ノ爲メニ即チ社會ノ永續的設備ヲ増加スル爲メニセラルルコト——此ヲ以テ租稅カ、政府ノ經常費ヲ支辨スル爲メニシ、時ニ公債償還ノ爲メニセラルルノニ對立セラルルコトモアルカ(註三八)、特別課徴ニテモ永續的設備ノ増加ノ爲メトイヘナイコトカアルシ(例之道路ノ維持費ノ爲メノ場合)、隨テハ之ニテ經常費ノ支辨サルルコトモアリ、勿論特別課徴ノ場合ノ工事ノ費用ヲ先ツ公債ニヨリテ辨シ、此公債償還ノ爲メニ、之ヲ課スルトイフコトモアリ、且ツ租稅カ臨時的ニ戰爭、公債ノ一時償還ノ如キ單ナル大事件ノ爲メニ起サルルコトモアリ、⁵⁸⁾旁々此區別ハ不満足テアル。

(註三八) ろーすうおーたし、せりぐまん之ヲ擧グ。其他ばすてーぶるか、特別課徴ノ眞ノ特徴ハ、所得上ノ回期的

57) Odenkirchen, a. a. O. S. 13. Ehrler, a. a. O. S. 159.
58) Bastable, l. c. p. 167.

56) Odenkirchen, a. a. O. S. 7.

負擔タルコトノ代リニ、財産ノ上ノ單一ナル負擔トイフコトアルトイフノモ、畧ホ同義テアル。

(ハ) 其利益カ不動産ノ中間物ニヨリテ得ラルルコト——之ニ對シ、手数料ノ基礎タル利益カ不動産、又ハ動産ニ關シ、而モ通例ハ動産、又ハ財産ニ關係ナキ箇人ノ性質ニ關ストイフコトモアルカ、(註三九)、成程特別課徴カ主トシテ不動産ニ關スルハ事實テアルカ、或營業ニ關スルコトモアル(註四〇)。其ヲ準不動産的トイヘヌコトハナイカ、精密ニイヘハ不動産トハイヘナイ。

(註三九) ろーすうおーたー、セリぐまん、之ヲ擧ク。ちゆるんニ至テハ此意味ニテ分擔金ヲ要求シタ。曰ク、或地方事業ニテ一定ノ各箇ノ家屋又ハ土地ノ所有者カ、指示スヘク直接利用ニテ關係シ又ハ地方事業カ其實行ニ於テ私益ニ顧慮シテ一層大ナル出費ヲ要スルトキハ、當該受益者ニ特段ナル分擔金ヲ課スルコトハ正當ナルカ如シト。らいつゆんすたいんモ分擔金ノ義務者ハ常ニ市町村ニ在ル土地ノ所有者也トイヒ、ゆーべるひモ土地及建物ノ所有ノ事實ヲ擧ケ、ばすてーぶるカ財産ノ上ノ負擔トイフモ其ノ意味ノ如クテアル。

(註四〇) ぼるぐまニ至テハ定義ノ中ニ、地主及營業者ノ給付トイフ。ソシテ普國地方課徴物法第九條ニハ、分擔金ハ利益ヲ受クル地主及營業主ヨリ徵收スルモノト定メ、ばーでんノ一八七九年ノ市町村條例七十二條モ同様テアリ、うゆるてんべるひニテモ地主屋主及營業者ヨリ取ルモノトス。

(ニ) 經濟的領域ニ現ハルルコト——ヲ以テ手数料ト區別シヤウトイフ者モアルカ、此ハ當ヲ得ヌ。手数料モ經濟的領域ニ現ハルルシ、特別課徴ニテモ公益ニ關シ隨フテ非經濟的

トモイヒ得ルカラ。

(ホ) 公務力營造物ノ制定又管理ニ限ルコト——斯クテ各箇ノ機能カ官廳行為ヨリ離ルルコトニ於テ、特別課徴カ手数料ト異ルトイフ者カアルカ、(註四一) 手数料ニテモ均シク官廳行為ト離ルルコトノアルノハ道錢橋錢ヲ見レハ明カテアルカラ、之ヲ以テ特徴トスルニハ足ラヌ。

(註四一) へつけるノ擧クル所テアル。ぼるぐまカ分擔金カ手数料ト異ル點トシテ、各個ノ勤務給ノ直接ノ賠償トシテ現ハレストイフノモ同義ナラン。

(ヘ) 通例附加税トシテ徵收セラルルコト——ヲ以テ手数料ノ區別特徴トスルコトモ、今日ノ法律狀態トハ一致シナイノミナラス(註四二)、租税ト特別課徴トノ根本差異ヨリ見ルモ、後イフ前者ニ附帶セシムヘカラサルコトカ明カテアル。

(註四二) おーでんきるへんハ斯クイフ。尤モあんはるごニテハ一般ニ分擔金ヲ、當該土地ニ掛ル地租ノ附加税ノ形ニテモ徵收スルヲ得トイフ。

(ト) 規則正シキ支拂ナルコト——此カ手数料ノ如ク場合々々テナクテ規則正シキ支拂テアルトイフモノカアルケレトモ、此ハ正當テナイ。特別課徴ニ一回的支拂ノコトカアルカラ。

63) Heekel, Lehrbuch. I. S. 92. Borcht, a. a. O. S. 72.

64) Odenkirchen, a. a. O. S. 29. Birnbaum, a. a. O. S. 123

65) Vocke, a. a. O. S. 92.

59) Rosewater, l. c. p. 133. Seligman, l. c. p. 417. Bastable, l. c. p. 167.

60) Rosewater, l. c. p. 135. Seligman, l. c. p. 420. Odenkirchen, a. a. O. S. 25. Reitzenstein, a. a. O. S. 70. Eheberg, a. a. O. S. 510. Bastable, l. c. p. 167.

61) Borcht a. a. O. S. 72. Zelle, a. a. O. S. 76. Odenkirchen, a. a. O. S. S. 13. Birnbaum, a. a. O. S. 218.

62) Eheberg, a. a. O. S. 510.

(チ) 一回的又ハ割賦的支拂ナルコト——ヲ以テ手数料ノ出來事ノ起ル毎ニ取ルノニ對セシメヤウトイフ説カアルカ(註四三)、其ハ當ヲ得ヌ。維持費ノ爲メニスルモノノ如キハ全ク割賦的テナクテ規則正シキ支拂トイフヘキテアルカラ(註四四)。

(註四三) ろーすうおーたーハ特別課徴ハ一度ニ徵收セラレ又ハ精々利子ヲ含ム所ノ割賦ニヨリ、手数料支拂義務ハ特別政府勤務ノ起ル毎ニ生スルトイヒ、せりぐまんモ同様ノコトナイヒ、れーあらーもばーでんニツキ、分擔金ハ一定額ニテ又ハ割賦額ニテ徵收セラルルヲ得——手数料ハ確定シタル單位率ニ從テ徵收セラルトイフ。れーべるぐモ其手数料ニ對スル區別トシテ、此カ往々ニシテ唯一回の給付ニ存スルコトヲ擧グ⁶⁶⁾。政府トシテハ一回的ニ收納シテ仕事ヲ行ヒ、人民トシテハ割賦的ニ納メテ負擔ヲ容易ニスル便法ハリゆつかーノ勸ムル土地年賦銀行ヲ利用スルコトアル⁶⁷⁾。

(註四四) ろつじやーハ、分擔金ハ一回的給付ニテ又ハ設備ノ維持ノ爲メニ徵收セラルトイヒ、びりんすきーハ一回的又ハ規則正シキ寄與トイヒ、ぼるぐまハ一回額ニ於ケル徵收カ分擔金ノ本質ニ屬シナイ。此カ回期的又ハ繼續的徵收ヲモ許ストイフ⁶⁸⁾。

(リ) 特別改良ノ建設ノ前ニ又ハ時トシテ後ニ要求セラルルコト——之ヲ以テ手数料ノ通例、特別利益ヲ與フルトキニ要求セラルルニ對立セシメラルルコトカアルカ(註四五)、此ハ斯ク精密ニイヘナイ。特別改良ノ建設ノミニ限ルコト既ニ不満足テアツテ、其維持ニ關スルモノノ如キハ特別利益ヲ受クル前トモ後トモイヒ難ク、ムシロ其與エラルル時トイフヘ

66) Rosewater, l. c. p. 135. Seligman, l. c. p. 419. Ehrler, a. a. O. S. 159. Ehebørg, a. a. O. S. 510.
 67) Lückner, Die Entwicklung und die Probleme des Gemeindeabgabenwesens. (Gemeindefinanzen. II. III.) S. 4.
 8) Roscher, a. a. O. I. S. 29. Bilinski, a. a. O. S. 19. Forcht, a. a. O. S. 72-3.

キテアラウシ、手数料ニテモ見様ニヨリテハ特別利益ノ與エラルル前又ハ後トイヒ得ルコトカアラウ。

(註四五) ろーすうおーたー之ヲ擧グ。れーあらーもばーでんニツキ、此分擔金ノ賦課カ當該設備ノ實行ノ前ニモ後ニモ生シ得ルニ——手数料ハ市町村制度ノ時々ノ利用、又ハ特段ナル地方勤務ノ要求ニ際シテ徵收セラルトイフ。びりんすきーハ少シク異ルカ分擔金ハ各回の實際的ノ任意ノ利用ニ對シテ拂ハルルノテナクテ強制的ニ時ニ未來ノ利用ニ顧慮シテ拂ハルルモノトス⁶⁹⁾。

(ヌ) 一時的ナル賦課機關又ハ既存ノ通例ノ機關ニヨリ徵收セラルルコト——之ヲ以テ手数料ノ之ヲ徵收スルニ永久的機關ヲ要スルニ對立セシメラルルコトカアルカ⁷⁰⁾。此ハ區別トイフ程ノ値ハナイ。既ニ特別課徴ニ於テ既存ノ通例ノ機關即チ永久的機關ヲ利用スル以上ハ、眞ノ區別特徴トイヘナイ。(大正八年十月)

69) Rosewater, l. c. p. 136. Ehrler, a. a. O. S. 159. Bilinski, a. a. O. S. 19.
 70) Rosewater, l. c. p. 136.

第十三編 特別課徵ノ課額ノ決定

緒言

(一) 私ハ前論文ニ於イテ、特別課徵ノ本質ヲ説キ、其特徴ヲ列擧シテ、其中テ、之カ課額ノ事ニ説キ及ンタ。即チ其カ受クル所ノ利益ニ應シテ配當セラレ、其利益ノ價值ヲ超エス、且ツ利益ニ比例的ナルコトヲ要シ、並ニ其總額カ當該施設ノ費用ノ一部ヲ充タスコトヲ要スル事ヲ説イタ。ツマリ費用ヲ斟酌スル所ノ利益ヲ測テ之ヲ定ムヘキモノトイフノテアル私ハ即チ斯ノ如クニ特別課徵ノ課額ヲ定ムルコトヲ至當ト考フル者テアルカ、今此ニ之ニツイテ若干立入ツタル考究ヲ試ミテ、之ヲ採用シ實施スル上ニ於テ據ルベキノ或モノヲ提供シヤウト思フ。

(一) 私ハ此問題ヲ解決スル爲メニ、先ツ之カ理論上ノ考察ヲ試ミ、次キニ其實際上ノ應用ニ及ホウト思フ。

第一段 特別課徵課額決定ノ理論上ノ考察

特別課徵ノ課額カ費用ニ條件サレタル利益テアルコト前論文ニイフ如クテアルトスレハ、

儻然ラハ其ノ内容カ如何ナルモノテアルカヲ突込シテ考察シナケレハナラナイ。私ハ先ツ之ヲ利益費用ノ各箇ニ就キテ考エ、次キニ其對照連結ヲ試ミヤウト思フ。

(一) 費用及利益ノ内容

(A) 費用

(イ) 夫ノ施設ノ全費用——カ幾許テアルカハ、全ク客觀的ノモノテ、精密ニ定ムルコトカ出來ル。或道路ナレハ其道路ヲ建設シタル費用、其ヲ維持スルノ費用、何レニシテモ餘程精密ニ調ヘ上ケル事カ出來ル。勿論其レニ金錢以外ノモノカ這入り得ル。特ニ田舎ノ場合ノ如キニハ人的勤務ニテ提供サレタルモノカアリ得ル。併シ此場合ニモ凡ヘテ其時其處ノ人ノ勤勞ニ對スル報酬ヲ標準トシテ、彼ヲ貨幣價值ニ見積ツテ計算スルコトヲ得ル。テ其全費用タケハ精密ニ計算スルコトカ出來ル。

(ロ) 全費用中一定部費用ノ指定——處カ特別課徵課額ノ標準トシテノ費用ハ、夫ノ施設ノ全費用テハナクテ、其一定部ノモノニ過キヌ。全費用ヲ之ニ依ツテ取ルヘキテハナクテ單ニ其一定部ノミヲ取ルヘキモノテアル(註一)。唯タ其分配ノ割合ヲ定ムルコトカ六ツカシイ。其全費用ノ中、幾許カ人民全體ニ共通ナル利益ヲ與フルコトニナルカ、幾許カ特定

箇人ニ特段ナル利益ヲ與フルコトニナルカトイフ事ハ精密ニ指示スルノハ難イ。即チ全體ト干係者トノ間ノ分配ガ困難ナルカ、此ニツキテハ一々各箇ノ場合ニ就キ見ルヘキモノテアリ、又其ニ依リ與ルヘキモノテアツテ、一概ニ凡ヘテニ共通ナル標準ヲ與フルコトハ出來ナイ(註二)。カ假リニ最多ク問題トナルヘキ道路ヲ採ツテ見ルト、交通頻繁ナル都市ノ大道ニ關スル費用ノ如キハ、兩側ノ地主(家主、營業者)ニ利益ヲ與フルコトモアルカ、一般人民ノ之ニ依リ利益ヲ受クル所モ亦少クナイ。然ルニ田舎ノ農耕地ヲ貫ク小路ノ如キハ、一般人民ノ利益ヲ受クルコト少クシテ、殆ント全ク其兩側ノ地主(農耕者)ノ利益トナル。斯クテ上掲ノ二ノ極端ナル例ノ間ニ分配割合ノ異ルヘキコトハイヒ得ルカ、其ヲ數字的ニ精密ニ表ハスコトハ事ノ性質上難イ。併シ第一ノ場合ニハ一般公共ノ受ル利益モ明カニ大イシ、關係地片ノ地主ノ利益モ明カニ大イカラ、全費用ヲ折半スル位ニ定ムルノカ穩當ト思ハル。而シテ第二ノ場合ニハ關係地主ノ利益カ莫大テ、公共一般ノ受クル利益微小トイフ以上ハ、前者九、後者一位ノ割合ヲ以テ分配スルノ外ナカラウ。其レテ普通ハ右ノ十分ノ五ヨリ十分九ノ間ニテ然ルヘキ割合ヲ定メテ關係地主ニ配當スヘキモノトナル唯タ此ニ例外ヲ成スノカニツアル。一ハ兩側地主ノ受クル利益ノ殆トイフニ足ラヌ程ノモ

ノテ、例之、貨物停車場ニ到ル其附近ノ道路ノ如キテアル¹⁾。此ハ其道路ノ費用ノ大部分ヲ公共ニテ負擔シ、ソシテ關係地主ハ極メテ僅カ、例之、十分一位ヲ負擔スレハ良イ。今一ハ餘リニ幅ノ廣イ道路ニテハ兩側地主ノ受クル利益カ其道路ノ或狹キ一定ノ處ニテノミテアルトイフコトアル。尤モ其何レ位ニ及フカヲ定メルコトハ六ツカシイカ、相當ニ研究シテ定メラナイコトハナイ。其ニツキ先例モアル(註三)。又私ノ考テハ一定ノ關係者ニ及フヘキ幅ヲ定メテ、其分ノ費用中、更ニ半分トカ或ハ十分ノ四トカイフモノヲ兩側地主ニ負擔セシムベキモノト思フ。

(註一) びりんすキハ、分擔金ハ公共ノ市町村設備ニ對スル一部の寄與トイヒ、おーでんきるへんモ、一般カ、費用中、其設備ニ於ケル公益ニ相當ナル部分ヲ擔フヘキモノトイヒ、ねるふろいんぎモ全費用カ、公益ノ點ヨリ地方團體ニ、利益ノ點ヨリ地主又ハ營業者ニ分配スヘキモノトイフテ居ル。尙ホ、おーでんきるへんハ字義ノ點ヨリ論究シテ、*Belang* ニハ二義カアル。一ハ一定ノ人々カ一緒ニ擔フコトテ、之ヨリイヘハ夫ノ全費用ヲ特別受益者カ擔フヘキコトニナル。然ルニ他方ニハ此カ既ニ或モノカ存在シ、又ハ少クトモ既ニ義務アリトセララル利害關係者ヨリハ他ノ方面ヨリシテモ費用ニ附加セラルルコトヲ意味スルコトカ出來、此點ヨリイヘハ、一分ハ特別受益者外ノ負擔モカアリ得ルコトトナル。故ニ純然タル詞ノ解釋上ヨリシテハ何レトモイヘナイトイフテ居ル。²⁾尤モヘつける、しほふれーハ此ニ關スル別ノ見方ヲ有テ居ル。即チしほふれーハ、手数料ハ利害關係者分擔金トハ次ノ點ニテ異ル。其ハ手数料カ公益ニ於ケル國家行爲ニ依リ基ツケラレテ、公ニ組織サレタル私益ノ共同ノ享樂

1) Odenkirchen, Interessentenbeiträge. S. 81.

2) Büinski, Die Gemeindefestsetzung. S. 20. Cdenkirchen, a. a. O. S. 74-75 77

ニ依リ基ケラレナイコトニ於テアルトイヒ、へつけるハ官廳ノ給付ノ固有ノ公務ノ範圍ヲ離ルルコトカ、分擔金ト手数料トノ間ノ原則上ノ區別ヲ理由ツケルトイフ。³⁾

(註二) 此費用ノ中ノ分擔ノ點ノミナラス、後ノ利益標準ニモ關係スルコトアルカ、諸學者ハ、特別課徵額ニツキ一般のニ定ムルコトノ難キコトヲ説ク。例之、ぼるぐミハ實際ニハ分擔金ノ限界ハ必スシモ十分ナル精密ニテ確定セシメストイヒ、⁴⁾ ぼるぐミハ、斯カル分擔金ノ高サニツキテノ一般の觀察點ハ定メシメナイ。ムシロ此決定ハ場合々々ニ依ツテ生スヘキモノテアルトイフ所テアル。⁵⁾

(註三) 例之、普魯西ノ一八七五年ノ法ニ依リ、道路ノ傍側土地所有者カ建設費及五年間ノ維持費ヲ負フニツキ道路ノ幅ノ半分以上ニ及フコトヲ得ナイ。道路カ二十六めーさる以上ノ幅ナル場合ニハ、道路ノ十三めーさる以上ニツキ引カルルコトヲ得ナイトナツテ居ル。⁶⁾

(B) 利益

(イ) 實際的利益——次ニ特別課徵額ニハ利益カ標準ニナルカ、其利益ハ本來、主觀的ノモノテ到底精密ニ表ハシ難イ。ソシテ人々カ或施設ニツキ利益ヲ受ケタリトシテ認ムルモノハ隨分多樣テアリ得ル。例之、道路ニツイテモ之ニヨリ自己ノ土地ノ價格ノ騰貴ノミナラス、便利トカイフコト、誇トカイフコトノ如キモノカ認メラレ得ル。併シ其等マテモ一切計算スルコトハ問題ノ解決ヲ面倒ニスル。到底精密ニ計算サレ得ナイ。矢張り此場合、經濟上ノ利益ニ限ル外ナイ(註四)。斯クテ客觀的ニ定メラレ得ルモノニ標準ヲ求ムルノ外ナ

イ其ハ道路ノ場合ニハ他價ノ騰貴スル度合ヲ見積リテ之ヲ得ルコトニナル(註五)。此見積モ亦主觀的作用ニ依ルコトニナルケレトモ、數多ノ委員カ評定スルコトニナレハ、矢張り此ニ客觀的ノ根據ヲ得ルコトニナル。

(註四) 此特別課徵ニ於ケル利益チ、初メヨリ經濟上ノ利益トイフ風ニ説明シ又ハ指定スルコトカ可ナリ廣ク行ハルル處テモアル。例之、普魯西ノ地方課徵物法第九條ニモ分擔金ヲ以テ、——施設ニヨリ特段ナル經濟上ノ利益ヲ受ル地主及營業者ヨリ取ルモノトスル。ソシテ學者ニテモ、例之びるんばうむハ、此分擔金ハ一定ノ地主及營業者カ、經濟上ノ利益ヲ受クル設備ノ爲メニ——課セラルルモノトイヒ、らんづべるぐモ設備カ結果ニ持ツ所ノ特段ナル經濟上ノ利益ヲ賠償スルモノトイヒ、おーでんぎるへんハ其高サニ於テ其給付ノ經濟的價值ニ從ツテ定メラレタル報酬トイヒ、⁶⁾ ぼるぐミハ、斯カル設備ノ制定ハ——特段ナル物質的利益ヲ與フル。隨テ此人々カ特別給付ニ引カラルルチ得ルトイヒ、ぼるぐミハ此分擔金カ施設ニヨリテ生スル營業又ハ土地ノ價值ノ有利ナル影響ノ平準トシテ現ハレルトイフ。⁷⁾

(註五) ぼーあらーニ依ルニ、ぼーでんニテハ、市町村設備カ一定限界内ニ於ケル一定土地ノ繼續的價值上騰チ直接結果ニ持ツタケテハ、分擔金カ——見積ラレタル價值上騰ノ高サマテ關係土地ニ課セラルルチ得トイヒ、おーでんぎるへんニ依レハ、普魯西ノ一八七五年ノ保安林及森林組合ニ關スル法律ニ於テ、保安林ノ設立維持ノ費用ハ所有者カ其土地ノ之ニ依ツテ得ヘキ剩餘價值ノ度ニ應ジ、又其高サマテ分擔スヘキモノトスルトイフコトアル。⁷⁾

(ロ) 推定的利益——併シ間々實際ニ於テハ右イフ如キ客觀的利益ノ決定カ困難テアル。此場合ニハ仕方カナイ。推定的利益(註六)ノ標準ヲ求メルノ外ナイ。例之、土地ノ間口

6) Zelle, Städteordnung. 5 Aufl. S. 76. Birnbaum, Die gemeindlichen Steuernsysteme in Deutschland. S. 20 Landsberg, Die Entwicklung des Gemeindeabgabewesens. (Schriften des Vereins für Sozialpolitik, Gemeindefinanzen II. I.) S. 4. Odenkirchen, a. a. O. S. 7. Eheberg, a. a. O. S. 109. Borcht, a. a. O. S. 72.
7) Ehrler, Die Gemeindebesteuerung im Großherzogtum Baden. (Gemeindefinanzen I.) S. 159-160. Odenkirchen, a. a. O. S. 12.

3) Schäffle, Steuern. B. T. S. 373. Heckel, Lehrbuch. I. S. 92 Derselbe, Gebühren. (Conrad, Hwb. 3 Aufl. IV.) S. 515.
4) Borcht, Fw. S. 72. Eheberg, Fw. 9 Aufl. S. 109.
5) Süss, Die Heranziehung der Anlieger zu den Strassenbaukosten S. 9-10

(註七)。面積(註八) 建物ノ立方尺(註九)、地價(法定又ハ時價)(註一〇)、賃賃價格又ハ收益(註一一)、或他ノ租稅ニ於ケル課稅標準(註一二)、距離ノ遠近(註一三)、等(註一四)、ヲ採ルコトニナル。此等ハ勿論眞ノ利益トハ必スシモ符合シナイ、隨フテ多少不公平トイフコトニナル缺點カアル。ケレトモ取扱ハ簡單ニナル。尙ホ右ノ中、特ニ距離ノ遠近トイフノハ、道路ノ場合ニハ、沿道ナラサル土地ニテモ、其ニ出テ來ルヘキ小道ニ沿ヘル土地ノ、大道ノ開カレタル爲メニ便利トナレルコトニ依ル價值ノ増加ヲ見ルコトニナルカ、此利益ハ、其大道ノ改良ニ對シテハ間接ノ利益テアツテ、一般人民カ之ヲ通行スルニ依テ受ル利益ト同様テアルカラ、此特別課徵ニテハムシロ沿道ノモノノ直接ニ受クル利益ノミヲ見ル方カ可カラウト思フ(註一五)。

(註六) ろーすうおーたハ特別課徵ノ米國ニ於ケル法律上ノ意義トシテ、此ヲ以テ、與エラレタリト推定セラルル特段ナル利益ニ比例シテ課徵セラルルモノト爲シ、ばすてーぶるハ坪數、間口、價值、表面積ノ何レモカ假定的利益(決シテ實現セラルヘカラサル利益)ノ標準テアルトイヒ、おーでんきるへんハ、夫ノF.L.法ニ依ル地地所有ノ道路ニ沿エル長サ 依ル分擔金ヲ以テ 此利益カ此法律ニテハ反對證明ヲ許スコトナシニ豫メ推定セラルト爲ス。⁹⁾
 (註七) セリぐまんハ特別課徵ノ一標準トシテ之ヲ擧ク。實例トシテさすニ依レハ一八七五年ノ普國ノ法ニ依リ道路ノ建設及五年間ノ維持費カ傍地ノ所有者ニ其道路ニ觸レタル境界線ノ長サニ應シテ負擔セシメラルルコトトナリ、

8) Rosewater, Special assessment. p. 88. Ba table, Public finance. 3 ed. p. 166. Odenkirchen, a. a. O. S. 9.

らんづべるぐニ依レハ、普國ニハ下水費ノ爲メニ間口ノ長サニヨリ測定サレタル一回的資本分擔金カアリ、(尤モおーでんきるへんハ、下水費ニツキ、一八九九、一九〇六年ノ行政裁判所ノ判決ニテ、許スヘキモノトセラレタル建物ノ間口ヲ標準トスルコトハ相當ナラサルカ如シトイフ)又おーでんきるへんニ依レハ、道路ノ維持費ニツキ、普國ノ一八七五年ノ判決ニテハ、分擔金ハ此カ利益ノ割合ニ相當スヘキトキハ、各所有者カ——彼 土地ニ接スル道路線ニ關シ使ハルルタケヲ分擔スルカ如ク定メラルヘシトイフコトテアル。⁹⁾

(註八) セリぐまんハ特別課徵ノ標準トシテ之ヲ擧ク。おーでんきるへんノ考ニテハ、下水ニツキ、無建物土地ノ分ハ此面積ニ依ルヘキテアル。曰ク、此カ土地所有者ノ利益ハ、土地ノ排水ノ便ニ存シ、其利益ハ小ナル無建物土地ニハ大ナル其ヨリモ小イ、此排水ニ關係スル土地ノ大サニ於テ各箇ノ利益ノ標準カアルテアラウト。¹⁰⁾
 (註九) おーでんきるへんニ依レハ、下水ノ利益ハ建物附土地ニアツテハ、ムシロ建物ノ大サニ歸スヘク、——此利益ノ見積ノ爲メニ相當ナル標準ハ建物ノ立方積ニ於テ見出スヘキモノテアラウト。¹¹⁾

(註一〇) セリぐまんハ特別課徵ノ標準トシテ之ヲ擧ク。おーでんきるへんニ依レハ普國ノ一八七五年ノ保安林及森林組合ニ關スル法律テハ、森林ノ保護及共同經濟的管理ノ費用ハ、土地ノ價值ニ割合ツテ分配サルヘシトイフ。——處テ此地價ニ依ルモノハ往々ニシテ地租ノ附加稅ヲ取り得ル。例之びるんばうむニ依ルニ、あんばるミテハ分擔金カ當該土地 カカル地租ニ對スル附加稅ノ形ニテモ徵收セラルルヲ得ルトイフコトテアルシ、のいまんモ此カ或ハ直接稅ノ爲メニ既ニ存在スル臺帳ニ直接關聯シテ、此稅ノ附加稅トシテ徵收セラルトイフテ居ルカ、其ハ眞ノ附加稅テハナイ。附加稅ノヤウニ見エテモ、例之、或地方團體ノ全體ニ亘ツテ課セラルトイフノテ ナク、一定地區ノ者ニノミ課セラルルニトニナル。びりんすきカ、分擔金ハ目的稅テハナイ。何トナレハ此義務カ凡ヘテノ擔稅者ヲ稅スルノテナク、單ニ或人トハ或階級ヲ稅スルカラトイフノモ亦、之ヲ見テ居ルノテアル。¹²⁾

9) Seligman, Essays in taxation 8 ed. p. 417. Sess, a. a. O. S. 10 Landsberg, a. a. O. S. 7. Odenkirchen, a. a. O. S. 80, 81.
 10) Seligman, l. c. p. 417. Odenkirchen, a. a. O. S. 80.
 11) Odenkirchen, a. a. O. S. 80.
 12) Seligman, l. c. p. 417. Odenkirchen, a. a. O. S. 12. Birnbaum, a. a. O. S. 123. Neumann, Die Steuer und das öffentliche Interesse. S. 331. Bilinski, a. a. O. S. 19.

(註一) びるんばうむニ依ルト、ぶれめんテハ、手数料及分擔金の租税カ照明、水、下水税ノ形ニテ取ラレル。ソシテ其カ地主、屋主、借屋人ニ課セラレ、例之。照明税ハ鋪石税ヲ含メテ、家屋税義務アル屋主ニ家屋税價值ノ千分ノ一、地租義務アル地主ニ純收益ノ百分ノ三、借屋人ニ屋賃ノ百分ノ五、二、ヲ課シ、下水税ハ家屋税義務者ニ家屋税價值ノ千分ノ四、地租義務者ニ純收益ノ百分ノ一、借屋人ニ屋賃ノ一萬分ノ三七半ヲ課シ、水税モ水ノ使用量テナクテ、右ト均シク家屋税價值地租價值又ハ屋賃ニヨリ課セラルル。¹³⁾

(註二) 註一〇、一一、参照

尙ホしほふれハ分擔金カ廣ク或租税資本ニ從テ課セラルル場合アリト爲ス。¹⁴⁾

(註三) 堤防、墓地費ノ如キニハ此距離カ問題ニナル。¹⁵⁾

(註四) 水害豫防ノ堤防ニ關スルト、土地ノ高サモカ問題ニナル。¹⁶⁾

(註五) 尤モ道路ニツキ斯カル距離ヲ考慮スルノモ一方法テハアル。實例モナイ譯テナイ。のいまんニ依ルト、普國ノ一八七二年ノ郡條例テハ、道路分擔金カ當該道路ヨリ貫カレタル地方ニテ、其道路ヨリ恐ラクハ引カルヘキ利益ノ標準ニヨリ土地ノ所有者ニ課セラレ、此道路ニ隣接セル所有者カ其一層大ナル利益ノ爲メニ、通例最高額ヲ、次キニ位シ少シク利益スルモノカ少キ額ヲ、一層距離レモノカ一層小ナル額ヲ拂フヘキモノトナルトイフ。¹⁷⁾

(二) 費用及利益ノ連絡

(A) 賦課全額ノ最高限—— 諸テ右各別ニ説明セラレタル兩元素ヲ如何ニ結付ケテハ、夫ノ課額ヲ定ムルカトイフノニ、先ツ指定サレタル一定部費用カ、特別課徴ノ全課額ノ一ノ最高限ニナル。課額ノ總計カ此以上ニナツテハナラヌ。ソシテ他方ニハ、利益ノ總計モカ最高

13) Birnbaum, a. a. O. S. 387-8.
 14) Schäffle, a. a. O. S. 15.
 15) Neumann, a. a. O. S. 330.
 16) Neumann, ebenda.
 17) Neumann, a. a. O. S. 330-331.

限ニナル。實際的利益ノ合計カ此最高限ニナル。テ前ノ費用ニ依リテ示サルル最高限ト、利益ニヨリテ示サルル最高限ト何レカ小イ方カ其場合場合ノ實際ノ最高限ニナルヘキテアル。特別受益者ハ其ノ特ニ受クル利益タケハ特別課徴ニヨリテ出サナケレハナラヌカ、其實際利益ノ合計カ特別受益者ニ指定サレタル費用額ヲ充タスニ足ラサル場合ニハ、彼等ハ利益ニ對スル對償サヘ拂ヘハ、其以上拂フニ及ハヌ。此場合、利益ノ合計ノ方カ實際ノ最高限ニナル。斯クテ特別課徴ニヨリ充足サレサル分ハ、政府ニテ公共的負擔トシテ引受クル外ハナイ。此ハ斯ノ如キ特別的負擔ノ性質上已ムヲ得ヌ。其レテ更ニ此場合、各人ノ負擔ノ割合モ勿論、其人々々ノ其々ノ實際的利益ニ應シテ、ムシロ其々ノ實際的利益ヲ吐キ出スコトニナル。而シテ特別利益ノ合計カ夫ノ費用ノ指定額ヲ超過スル場合ニハ又、特別受益者カ此指定費用額ヲ超エテ拂フニハ及ハナイ。其課額ノ合計カ指定費用額ニ達スレハ足ル。其程度ニテ擔エハ良イ。此場合ニハ費用ノ方カ實際ノ最高限ニナツテ、利益ハ單ニ特別受益者ノ間ノ配當ノ標準ニナルニ止マル。彼等ハ夫ノ最高限内ニテ、實際利益ニ割合ヒテ負擔スルコトニナル。尤 實際的利益ノ明カタナク、推定利益ニ依ルノ外ナキ場合ニハ、指定費用額ヲ以テ推定利益ノ全額ト見ルノ外ナク、隨テ指定費用額ヲ、各員ニ推定

利益ノ標準ニ依リ割當テルコトニナル。

(B)各箇ノ賦課額——テ何レニシテモ、特別受益者ノ間ノ分配ハ實際利益其モノニ依ルカ又ハ少クトモ實際又ハ推定的利益標準ニ從ツテ割當ツルコトニ依ツテ行ハルル。

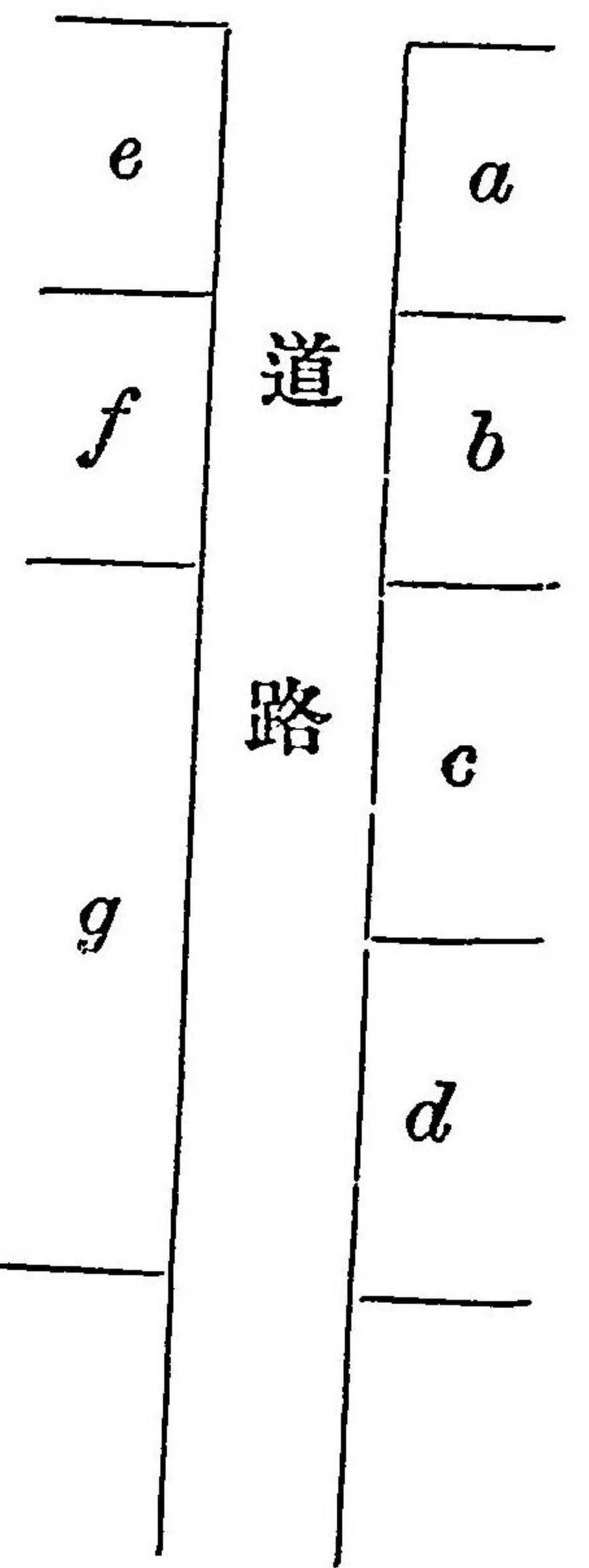
第二段 特別課徵額決定ノ實際上ノ應用

右ノ如ク特別課徵ハ利益ノ度ニ應シ、而カモ其總額ハ利益ノ合計額并ニ指定費用額ヲ超ユルコトナキヲ要スルモノテアルカ、今之ヲ實際ニ應用シテ、其適中例ヲ示サウト思フ。其ニツキ最多ク起リ來ル所ノ道路ヲ取ツテ來ル。併シ其カ建設及擴張費ト維持修繕費トテ多少事情ノ異ルヲ以テ之ヲ別ケテ説カウト思フ。

(一)道路ノ建設及擴張費

(A)實際的利益ニ依ル場合——道路ノ建設及擴張費ノ實際的利益ヲ示スモノトシテハ、之ヨリ生スル沿道土地ノ地價ノ騰貴ヲ評定スルニ如カナイ。

(イ)利益ノ合計カ指定費用ヲ超過スル場合——假リニ(註一六)道路ノ建設ニヨリ生シタル



aノ地價上騰.....	壹千圓	eノ.....	壹千圓
bノ.....	壹千圓	fノ.....	壹千圓
cノ.....	千五百圓	gノ.....	參千圓
dノ.....	千五百圓	合計	壹萬圓

トシ、道路ノ建設費八千圓トスレハ、ソシテ此道路カ大都市ノ目貫ノ處ニ當リ一般人ノ利用頗ル大トスレハ、第一段ニ説ケル所ニ從ヒ、此費用中ノ四千圓ヲ公共全體ニテ負ヒ、他ノ四千圓ヲ右ノ沿道地主ニ配當スヘキテアル。然ルトキハ各地片ノ特別課徵課額ハ

- a) $4000 \times \frac{1}{10} = 400$
- b) $\quad \quad \times \frac{1}{10} = 400$
- c) $\quad \quad \times \frac{1.5}{10} = 600$

d)	× $\frac{15}{10}$ = 600
e)	× $\frac{1}{10}$ = 400
f)	× $\frac{1}{10}$ = 400
g)	× $\frac{3}{10}$ = 1200
4000.	

(註一六) 此ニ私ノ舉クル計算方法ハおーでんきるへんノ行ツタノト大體同遣方テアル。タタ彼ノ計算テ、特別受益者ノ貢フヘキモノヲ全費用ノ五分四ト見積ツテ居ルトイフ相違カアル。

(ロ) 利益ノ合計カ指定費用又ハ其以内ナル場合——假リニ沿道地主ノ受ク 利益カ前ト同トシテ、道路費用二萬圓又ハ其以上ノ場合ニハ、其費用ノ半分カ指定費用トイフコトニヨリ、其ハ一萬圓又ハ其以上(例之一萬五千圓)トナル。此場合ニハ特別課徴額ハ實際的利益タクテトイフコトニナリ、其ヨリモ多ク即チ利益ヲ超エテハ課セラレナイ。即チ其課額ハ

a	一千圓	e	一千圓
b	一千圓	f	一千圓
c	千五百圓	g	三千圓
d	千五百圓	合計	一萬圓

19) Odenkirchen, n. a. O. S. 73-78.

トイフコトニナル(註一七)。

(註一七) 此取扱方ノ趣意ハおーでんきるへんニ做フ。

(B) 推定的利益ニ依ル場合——假リニ間口ニ依リテ分配スルトスレハ、夫ノ指定費用ヲ全ク機械的ニ各地片ノ間口ノ長サニ應シテ割當テルコトニナル。全ク簡單テ例示ノ必要ハナカラウ。

(二) 道路ノ維持又ハ修繕費

此方ハ前ノ建設及擴張費ノ如ク、土地價格ノ上騰ノ割合トイフカ如キモノテ費用ヲ分配スルコトハ出來惡イ。此場合ニ其ヲ見積ルコトハ出來難イ。勿論此ニモ費用ノ全部ヲ特別受益者ニ負ハスヘキテハナク、矢張り其一定部ノミテアリ、其度合ハ前ト同標準ニ依ルノ外ナシトシテ、儲テ其ヲ各利益ニ應シテ分配スル方法カ六ツカシイ。其ハ結局右ノ指定費用ヲ推定的利益ノ標準ニヨリ分配スル外ナク、其ノ標準トシテハ、間口カ、面積カ、地價カ(収益カ)トイフコトニナルカ、此中テハ間口ニ依ルノカ最公平ノ如クテアル。各地主ノ受クル利益ハ此間口ノ長サニ應スルト見テ良イ。此テ各地主カ公共ヲシテ道路費ヲ費サシメタ割合カ一層公平ニ現ハルルシ、此ナレハ地價ト異リ、客觀的テ明確ニ指示セラレ、争カ

19) Odenkirchen, n. a. O. S. 78-79.

起リ得ナイ。又之ニ依ルト、其ニ依ル負擔カ堪エ難クナレハ、之ヲ適度ニ切詰メル工夫ヲ凝ラスコトモ出來易イ。自ラ適當ナル負擔ヲ生スルコトニナル。地價ニ至テハ之カ測定カ困難テアリ、面積ニハ此非難ハナイカ、此二ノモノ共ニ必スシモ道路ニツキ公共ニ世話ヲ掛ケタ度ヲ示スニ適當シナイ。即チ間口狭クシテ奥行深ク、面積又ハ地價ノ大イモノカ、間口廣ク併シ面積狭ク地價低キモノヨリモ一層大ニ、公共ヨリ道路ニ付利益ヲ受ケタトハイヘナイ。且ツヤ面積又ハ地價ニ依ル場合ニハ、地主カ負擔ニ苦シムカラトイフテ其土地ヲ切詰メルコトノ難イコトモカアル。テ矢張り間口ニ依ルノカ最適當テアル。尤モ此事ハ道路ニツキ修繕費又ハ維持費ニハ當ルカ、建設又ハ擴張費ノ方ハ必スシモ同様ニハイヘナイ此ニテハムシロ地價ノ騰貴度ノ如キ實際的利益ノ標準カ得ラレルシ、推定的利益標準トシテモ、間口ヨリハ面積又ハ地價ノ方カ其道路ノ建設ニヨリ受クル利益ノ度合ヲ一層良ク表ハストモイヘル。建設ノ場合ニハ道路カ或土地ヲシテ隨分奇ナル形ヲ成サシムルカ如クニ貫通スルコトニ依ツテ、間口ハ廣クテモ受クル所ノ價值カサウ大クナイコトカアリ得ルテ矢張り此場合ニハ面積カ地價ニ依ツタ方カ一層公平ノヤウテアル。(大正八年十一月)

第十四編

特別課徴ノ利害並ニ其當否

緒

言

(一)前文並ニ前々文ニ於テ、特別課徴ノ何タルカ及如何ニ之ヲ構成スヘキカノ大綱ヲ明カニシタ。其處テ此ニハ進ンテ現代ノ日本ニ於テ之ヲ設クルノ至當且ツ有益ナルコトヲ説カウト思フ。由來我邦テハ、地方ニテモマタ國家ニテモ時勢ノ進運ニ伴レテ益々多ク道路其他ニツキ施設ヲ爲サナケレハナラヌモノノアルノニ、常ニ財源難ヲ嘆シテ居ル。而カモ願ミテ斯カル財源トシテ適當ナルモノカアリ、其ヲ等閑視シテ居ルトイフノハ太シキ迂濶トイハナケレハナラヌ。私ハ日本ニテモ速カニ特別課徴制度ヲ國定シテ特ニ地方ヲシテ其改良施設ヲ行フニ據ルヘキノ財源並ニ其賦課ノ標準ヲ得セシムルノカ適當テアルト思フ。私ハ之カ注意ヲ促スカ爲メニ、前文前々文ト共ニ此文ヲモ草スル。

(二)本文説述ノ順序トシテハ、先ツ特別課徴設定ノ正當ナルコトヲ説キ、次イテ其ニ伴フ利害ヲ説ク。前者ニ於テハ先ツ其カ正當ナル所以ノ理由其モノヲ説キテ、然ル後ニ之ヲ設定スヘキ場合ヲ例示シ以テ其意義ヲ一層明瞭ニシヤウト思フ。

第一段 特別課徵ノ正當

其一 特別課徵正當ノ理由

(一) 特別利益ニ對スル特別課徵ノ賦課ハ正當テアル。——(A) 元來特別利益ヲ得タル者カ其ニ對シ特別ノ報償ヲ爲スコトハ當然ノ要求テアル(註一)。然ルニ今日ノ日本テハ假リニ道路ヲ築キタリトセハ、又ハ之ヲ修繕シタリトスレハ、其費用ハ凡ヘテ之ヲ地方團體カ拂フ。其ハ廳カテ人民ノ一般負擔トシテ租稅カラ取ラルル。斯クテ道路ノ築造又ハ修繕ニ依リ特ニ他人ヨリモヨリ大ナル利益ヲ受ケタ者カ、其ニ對シテ相當ナル負擔ヲ爲サス、結局、一般ノ負擔ニ依ツテ特定少數人カ其利益ヲ私占スルノ結果ヲ生スル。洵ニ不當利得、反面ヨリイヘハ他ノ人々ノ不當損害テアル。此ハ何ウシテモ特別受益者ニ相當ナル特別課徵ヲ課シ他ノ人々ノ負擔ヲ輕減シナケレハナラヌ。此カ正義ノ命スル所テアル。又現代人ノ如ク利害ニツキ敏感ヲ持ツ者ニ對シテハ、特別受益者ニ相當ノ特別負擔ノナイコトハ、他ノ人々ニ不平不滿ヲ懷カシムルコトニナリ、社會組織ヲ堅實ナラシメル所以テナク、人々ヲシテ其經濟生活ニ勤勉勵精ナラシメル所以テモナイ。之ヲ矯正シナクテハナラヌ。之ヲ傍觀スル統治團體ハ、其當サニ盡スヘキ道義的義務ヲ虛フスルモノテアル。彼カ一ノ怠業ヲ爲ス

ニ均シイ。又タ個人トシテモ他人ノ力ニ依ツテ自己ノ利益ヲ進メヤウナトトイフ依賴心ヲ起スノハ不心得至極テアリ、人々ハ自己カ特別利益ヲ受ケタルタケニテハ、進ンテ之カ報償ヲ爲スコトヲ敢テシナケレハナラヌ。餘リニ國家地方團體ノ組織ノ有機的關係ヲ高調シテ一切ノ負擔 租稅ニ依ラシメヤウトシ、爲メニ特別受益者ノ不當利得ヲ無視スルハ、シクナイ(註二) 固ヨリ夫ノ政府ノ施設ニヨリ受クル特別利益カ指示スヘカラサルカ又ハ全ク不可分ナルカテアレハ已ムヲ得ナイ、其ハ租稅ニ依ルノ外ナイカ(註三)、道路等ノ如キモノテハ、其ニヨリ受クル特別利益カ指示スルコトヲ得、且ツ可分的テモアルカラ(註四)、此ハ是非トモ特別受益者ニ相當ノ特別負擔ヲ爲サシメナケレハナラヌ。假令嘗テ自由貿易論カ盛ンニナツテ、市町村ヲ純經濟團體ト解シ、其方便ノ調達ヲ、凡ヘテ給付及反對給付原則ノ上ニ立テナケレハナラヌトイフタノハ、¹⁾ 極端テアツテ、採ルニ足ラナイニセヨ、夫ノ施設ノ費用ノ負擔ニツキ、一部此原則ノ適用サル、コトハムシロ當然ノコトトイハナケレハナラヌ。B) 或ハ斯ノ如ク公共施設ニヨリ特別利益ヲ受ケタル者ニ特別課徵ヲ課スルナラハ之ニヨリ損害ヲ受ケタル者ニ賠償ヲ爲サナケレハナラヌテハナイカトイフ論モアラウカ、ソシテ同一人ニ對シ同一事業ニヨリ利ト害トヲ生セシメタルタケニテハ之カ損害ノ計算ヲ

1) Ocenki chon, Interessentenbeiträge. S. 16.

爲スヘキテアルカ、(註五)然ラサル以上ハ夫ノ損害ヲ斟酌スルコトヲ得ヌ。之カ賠償力不十分テアルカラトイフテ、夫ノ政府ニテ取り得ヘキ理由ヲモツ所ノ特別利益ニ對スル特別課徴ヲ遠慮スルニハ及ハナイ。

(註一) 汝カ費用ヲ生セシメ及利益ヲ得タルノ故ニ、汝カ拂フ(Du Zahlest, weil du Kosten verursachst und Vorteil hast.)トハわぐなノ名言テアル。而シテ彼ハ又曰ク、負擔ノ公正ナル配分ハ利益ニ相當スルコトアルト。ろーすうおーたーハ之ニツキ、特別課徴ノ體系ノ爲メノ唯一ノ正當ナル基礎ハ與ヘラレタル特別利益ニアリトイヒ、セリぐまんハ例之、新道路カ開カレタルトキハ、其費用カ全ク全社會ニテ擔ハレサルヘキコトカ公平ト考エラレル。併シ價值ノ直接ノ昂上ニ依ツテ否ムヘカラサル利益ヲ受クル所ノ接觸不動産ノ所有者ニヨリテ、一部又ハ全部支持ハルヘキコト 公平ト考エラルトイヒ、ばすてーぶるハ一方ニ所有者ノ限ラレタル階級ノ利益ノ爲メニ費用ノ招カレル所ニハ、彼等ノ得タル特段ナル利益ノ爲メニ、彼等方之ヲ支拂フコトヲ要求セラルルノ正當ナルヲ信スル爲メニ頗ル強キ理由アリトイヒ、²⁾わーあらーモ亦、市町村設備ヨリ特段ナル經濟上ノ利益ヲ得又ハ斯カル設備ヲ特段ナル度ニテ要求ニ取ル者ハ、第一位ニ之ヨリ生スル費用ニ相當ナル方法ニテ任セシメラルル事、此カ斯カル特段ナル利用ヲ受ケサル市町村ノ其他ノ納稅者ニ歸セラレサル事カ公正ニ適フトイフ²⁾

(註二) わぐなハ之ニツキ前掲書中ニ曰ク、故リーぶくれひミハ未來國家ヲ讚美シテ、街鐵ハ其時代ニハ無價テアリ、鐵道モ同様、航空船モ同ナラントイフタ。併シ予ハ之ニ答エテ曰フ。吾人カ之ヲ欲スルナラハ、吾人ハ今日ニテモ之ヲ行フヲ得ルテアラウ。今日モ無價ニテ人ヲ輸送シ得ルテアラウ。併シ吾人ハ之ヲ欲シナイ。何トナレハ吾人ハ之ヲ正當ト思ハナイ。吾人ハ常ニ何人カ費用ヲ擔フヘキカナ問ハナケレハナラヌカラト。此ハムシロ手数料ニ

關スルカ趣意ハ特別課徴ニテモ同テアル。ソレテ彼ハ特別課徴ニツキテモ其財政學中、下ノ如ク曰フテ居ル。曰ク一般ニ其ク制定セラレ且ツ適當ニ擴張サレタル分擔金制度ハ、通例ノ手数料制度及固有ノ租稅ノ正當ナル補充テアル。隨フテ國家及自治體ノ共產的性質ヲ制限スル適當ナル方便テアル。此カ原則上許スヘク、又實際上行フヘキ處テハ、此カ起サレナケレハナラヌ。此カ強制共同經濟ニ於ケル分配的正義ノ要求テアルト³⁾

(註三) 指示スヘク可分的ノ利益ヲ與フル場合ニモ、特殊ノ租稅ニ依ル場合カアル。即チ手数料ヲ取ル代リノ意味ヲ持チタル稅テアル。後掲註一三ヲ見ヨ。

(註四) セリぐまんハ曰ク、地方政府カ一定行爲ヲ爲シ一定費用ヲ使ヒ、其結果カ財產ノ或特段ナル片ノ價ニ於ケル明カニ且ツ測定スヘキ増加テアル場合ニハ、論理及正義ノ各ノ考慮カ、此費用ヲ充スカ爲メニ所有者ヨリノ特別ノ貢獻ヲ要求スルト⁴⁾

(註五) セリぐまんハ曰ク、或簡人カ利益ノ爲メニ支拂フヘキモノテアルナラハ、其隣人カ公ノ改良ノ爲メニ生セシメラレタル其財產ニ於ケル損害ノ爲メニ賠償サレナケレハナラヌトイフコトカ要共セラレタ。併シ委員會(英國ノ)ハ財產ニ對スル損害 其同一改良ニヨリ直接ノ近隣ニ在ル其財產ニ生セラレタル利益ノ爲メニ同一所有者ニ特別課徴ノ課セラルルトキニノミ計算セラルルコトトシタト⁵⁾

(二) 斯ク特別課徴ヲ肯定ハスルケレトモ、別ニ租稅并ニ手数料ノ賦課ヲ否定セサルノミナラス肯定スル。——上説ノ如ク特別受益者ニ特別課徴ヲ課スルヲ正當トシテモ、其ノ關係施設ノ費用ニツキテ別ニ租稅手数料ノ賦課ヲモ許サナイノテハナイ。即チ

(A) 租稅——例之、道路ノ築造又ハ修繕費ニツキ、沿道ノ地主ノ利スル許リテナク、其地

3) Wagner u. Preuss, a. a. O. S. 13-4. Wagner, Fw. 2 Aufl. II. S. 192.

4) Seligman, l. c. p. 445.

5) Seligman, l. c. p. 446.

2) Wagner u. Preuss, Kommunal Steuerfragen. S. 15. Resewater, Special assessments, p. 132. Seligman, Essays in taxation. 8 ed. p. 414. Bastable, Public finance. 3 ed. p. 403. Ehrler, Die Gemeindebesteuerung im Grossherzogtum Baden. (Schriften des Vereins f. Sozialpolitik, Gemeindefinanzen. I.) S. 160-161.

方團體ニ屬スル一般人モカ利益スルカラ、彼等モ亦タ相當ノ負擔ヲ爲スヘク、即チ夫ノ費用ノ一部ハ租稅ニ依ルヘキテアル。ソシテ租稅ト特別課徴ト何レカ先キニ夫ノ費用ヲ充スヘキカトイヘハ、租稅ノ捕完的性質ニ考エテ、ムシロ特別課徴ヲシテ先立タシムヘキモノトイフヘキテアル(註六)。

(註六) ろつじあーカ、然ラサレハ費用カ租稅ニ依ツテ齎ラスヘキトキハ、分擔金カ通例徴收サレナケレハナラヌトイフノハ此意味テアル。普魯西ノ地方課徴物法ニテモ、分擔金ハ通例然ラサレハ費用カ租稅ニヨリテ齎ラサレサルヘカラサルトキニ徴收スヘキモノトスル。びるんばうむカ之ニツキ敷衍シテ曰フノニ普ニテハ地方課稅ニ於テ、給付及反對給付原則ヲ出來ルタケ廣ク實行センカ爲メニ、法律カ財政需要ヲ先ツ以テ手数料及分擔金ニヨツテ、タサシメントシ、此目的ヲ達センカ爲メニ地方財政ニ於テ租稅ヨリモ手数料ト分擔金トニ優先權ヲ與フル所ノ諸多ノ規定ヲ出シタト。其他ぶらうんじゆわいひニテモ市町村ハ他ノ收入、特ニ市町村有財産、手数料分擔金又ハ交付金ヨリ充タサレサルタケニテ、其費用ノ充足ノ爲メニ租稅ヲ徴收スルノ權能カアリ、あんばるミニテモ分擔金徴收義務ハ、市町村ニ然ラサレハ設備ノ費用カ租稅ニ依ツテ齎ラスヘキタケニテノミ生スル。又ばーでんニテモ市町村費用ノ充足方便ハ出來ルタケ、支出ヲ引起ス所ノ市町村制度、市町村活動及之ニヨリ生セラレタル利益ニ密接ナル關係ニ於テ求ムヘク、此原則ノ實行ニ於テ、固有ノ一般課稅ノ範圍カ其捕完的性質ノ原則ニ從ツテ、狭キ限界ニルヘキモノトイフ原則ヨリ出發スルトイフコトアル。⁶⁾

B) 手数料——或公共施設ノ費用ノ爲メニ、右特別課徴ト租稅トノ外、別ニ手数料ヲモ課ス

ルヲ至當トセスヤカーノ問題テアル。(イ)前ニ特別課徴ト租稅トヲ對立シテ、例之、道路費ニツキ、沿道ノ土地所有者ノ受クル特別利益ト、一般人ノ受クル利益トヲ對立セシメタカ其一般人ノ受クル利益ハ精密ニイフト尙ホ分科シ得ル所テアツテ、眞ニ不可分ニシテ指示スヘカラサル一般的利益ト、指示スヘク可分的ナル特別利益トニナル。前者ノ爲メニハ租稅ニ依ル外ナイカ、後者ノ爲メニハ道路費トイフカ如キ手数料ニテ負擔セシメルコトカ出來ル。其道錢ニ當ルモノヲ便宜上、特定人ニ纏メテ課スルコトカアリ(註七) 其ニ分擔金(特別課徴)ノ名ノ與エラルルコトカアツテモ、其ハ性質上手數料ニ外ナラヌ。名稱ニヨツテ誤解シテハナラヌ。又道路費トイフテモ更ラニ細クイフト人ト車馬トニ別ツヘク、人道ト車馬道ト別タレタ處テハ、人ハ人道ノ方ニツキ、車馬ハ車馬道ノ方ニツキ課セラルヘキモノテアル(註八)。兎ニ角、一般人カ道路ヨリ利益ヲ受クルトイフテモ、現ニ其道路ヲ通行シテ利益ヲ受クル人ハ、他ノ之ヲ通行セントスレハ通行シ得ルトイフコトニ於テ利益ヲ受ケ及此道路ノ爲メ一般精神的物質的文化ノ發達ノ恩澤ニ浴スル人々ヨリモ、特別ニ指示スヘキ可分的利益ヲ受クルモノトシテ手数料ヲ取ラレテモ不服ヲイフコトハ出來ナイ。唯タ交通ノ餘リニ頻繁ナル都市ノ道路ノ如キテハ、此ヲ課セラルト、之ヲ利用スル人々ノ面倒ヲ

6) Roscher, System d. Fw. 5 Aufl. II. S. 444. Zelle, Städteordnung. 5. Aufl. S. 76. Birnbaum, Die gemeindlichen Steuersysteme in Deutschland. S. 18. 62-3. 123. Ehrler, a. a. O. S. 156-7.

増シ、交通ヲ妨害スルトイフ缺點カアル(註九)。サウカトイフテ、餘リニ交通ノ少キ偏僻ノ處テハ、其收入カ取立ノ爲メノ吏員ヲ置ク費用ヲ償フニモ足ラヌコトトナツテ之ヲ不經濟トスルコトモアル。其カラ凡ヘテ手数料ニハ收入額ノ動搖ノ大イトイフ弊モアリ(註一〇)、旁々此道錢ノ適用ノ餘地ハ少イ。其ノ行ハルルハ精々地方間ノ大道、例之日本ニテイヘハ國道府縣道位ノモノテアル(註一一)。テ態々設ケル程ノモノテハアルマイカ、既存ノモノハ之ヲ何ニモ自由主義ニ捉ハレテ、廢止スルニハ及ハナイ(註一二)。ロソシテ此道錢ヲ設ケナイ場合ニハ(1)其ノ此ニ當ル部分ハ結局、租稅ニ依ツテ一般人ヨリ取ララルコトニナル。其ハ手数料カ交通ヲ妨クルコトカ、廳カテ一般カ租稅ニ依ツテ負擔スルモ已ムヲ得サルノ、一般の必要ノ理由ヲ成スコトニナルカ、又ハ手数料ヲ取ルモ徵費ヲ償フニ足ラヌ場合ニハ、之ヲ取ルカ爲メニ財政上不利ヲ見ルノ故ニ之ヲ止メル、即チ此ニモ矢張り一般の必要ノ爲メニ租稅ニ依ルコトトナルノテアル。(2)尤モ其租稅ニ依ルトシテモ、特ニ利益ヲ受ケ隨テ手数料ヲ取ララルヘカリシ物ニ對スルノ特殊ナル租稅ヲ選フモ一方法テアル。例之、車馬、自動車稅ノ如キテアル(註一三)。勿論其ハ人道ト車馬道ト區別サレタル場合ニハ、其車馬道ノ負擔ノミニ關スル。

(註七) 手数料ヲ集合的ニ納メル場合ヲ分擔金トイフコトカアル。例之、普ノ一九〇二年ノ道路建設ニ對スル豫約給付ニ關スル法律ニ基キテ課セラルル所ノ分擔金ノ如シ。此法律ニ依レハ、獨立ナル交通設備ヲ成ス所ノ公道又ハ橋梁カ、工場、鑛山石取場、煉瓦燒場又ハ類似企業ノ設立ノ爲メニ、一時又ハ其經營中、大ナル度ニテ引續キ使損セラルルトキハ、其維持負擔力之ニヨリテ増加ヲ受クル者ノ動議ニヨリテ、此カ道錢橋錢ノ徵收ニヨリテ充タサレサルトキハ、又充タサレサルタケテハ、此過負擔ノ度ニ應シテ、右企業者ニ關係道路ノ維持ノ爲メニ相當ナル分擔金カ課セラルルコトヲ得ル。⁷⁾

(註八) わるかハ曰ク、人道ノ外、道路ノ敷石ハ歩行者ヨリハ殆ント全ク利用サレナイカラ、其費用ハ車、特ニ荷車、警澤車ノ持主及地主ニ課スルコトカ正當テアル。⁸⁾

(註九) びるんばうむニ依レハ、うゆるてんへるヒテハ、橋及道錢ハ之ニヨリ交通ヲ妨ケサランカ爲メニ一般ニ採用スヘカラサルコトトナツテ居ルトイフ事テアル。⁹⁾

(註一〇) 此收入動搖ノ大ナルコトナノいまんカ特ニ擧ケテ居ル。¹⁰⁾

尤モ手数料ニハ左ノ三ノ長所カアルコトヲ無視シテハナラヌ。勿論其短所ニ比シテ重キヲ爲スニ足ラナイケレトモ。

(一) 地方施設ヲ利用スル住民外ノ人ニモ課スルコトヲ得ルコト(ちう、らんづべるぐ)。¹¹⁾

(二) 特別課徴ノ如ク彙帳作成費ヲ要セナイコト。¹²⁾

(三) 義務者カ小額ツツ而カモ適意ノ時ニ拂フテ得ルコト。¹³⁾

(註一一) わぐなハ田舎道ニハ道錢ニ長所アリトイフ。¹⁴⁾

實例ニ依ルニ普國ニテハ道錢橋錢徵收ノ強制ハナイカ、ソシテリゆつかハニ依レハ道錢カ七十年代ニ國道ニハ止メラシメカ東部ノ諸多ノ郡道ニハ維持セラレタ。ソレカラらんづべるぐニ依レハ此國ノ大市ニハ道錢ハナイカ、橋錢

7) Odenkirchen, a. a. O. S. 10.
 8) Walcker, Fw. S. 76.
 9) Eirnbaum, a. a. O. S. 219.
 10) Neumann, Die Steuer und das öffentliche Interesse S. 333.
 11) Rau, Grundsätze d. Fw. 5 Aufl. I. S. 74. Lan'sberg, Die Entwicklung des Gemeindeabgabewesens. (Gemeindefinanzen. II I.) S. 4.
 12) Neumann, a. a. O. S. 333. 13) Neumann, obenda.
 14) Wagner, a. a. O. S. 136.

ハアル。東部ノ諸市ニテハ多クハ唯々車、家畜ヨリ、らいん諸市ニハ歩行者ヨリ取ルモアル。¹⁵⁾
 (註一二) 例之、しゆわつふるつぶるぐぞんだーすはうぜんテハ、交通ヲ妨クル道錢橋錢ノ尙ホ現存スルタケテハ、此カ更ラニ徴收セラルヘキテアル。其ハ唯々舊率ニテテアル。併シ此種ノ新シキ課徴物ハ一般ニ採用シテハナラヌ。何トナレハ此カ急速進歩ヲ爲シツツアル所ノ近世交通ヲ妨クルカラトイフ事テアル。¹⁶⁾
 わぐな一モ、利用者ニ對シ道錢ヲ絶對ニ廢棄スルコト及隨テ道路費ヲ他ノ者(其ノ他ノ利害關係者カ公團體ノ金庫カ)ニ全ク移スコトハ一般原則的ニハ辯護セラレナイ。寧ロ反對ニ道錢カ恰モ手数料トシテ原則上辯護セラレ、且ツ實際上不適當テナイヤウテアルトイフテ居ル。¹⁷⁾

(註一三) わぐな一ハ曰ク、運搬器、車、馬、自動車ヲ持テテ道路ヲ利用スル人ハ、道路ニツキ一層大ナル利益ヲ有ツ。車税、馬税、自動車税、交通税等カ多クノ國ニテ既ニ肯定的ニ決定セラレルト。¹⁸⁾

其二 特別課徴ヲ設クルニ適當ナル施設

上記ノ如クニシテ或場合ニハ特別課徴ヲ設定スルヲ正當ナリトシテ、其場合ハ如何ナル場合カトイヘハ、或公共施設ニヨリ一定地區内ノ受益者カアツテ、其受クル利益カ明示スヘキ可分的ノモノナル場合テアル。尤モ明示スヘキ可分的ノモノトイフコトハ、之ヲ絶對ニイフコトハ難イ。其カ多少不明確テモ良イ。其當時ノ人ノ普通ノ判断ニヨツテ然リトセラレハ良イ。具體的ニイフト、道路、下水、灌排水、堤坊ナドノ場合テアル(註一四)。

(註一四) 試ミニ清學者ノ舉クルモノヲ示スト左ノ通りテアル。

例之、せりぐまんハ特別課徴ノ活用ハ下ノ如キ改良ニ及フ。道路ヲ開クコト設ケルコト、平坦 スルコト、鋪石スルコト、改鋪石スルコト、板敷スルコト、邊石ヲ置クコト、道路ニ撒水スルコト、瓦斯電燈ニテ照明スルコト、並木ヲ植エルコト、下水道及堤防ヲ築クコト、水管水道ヲ設ケルコト、水路ヲ整理スルコト、川浚スルコト公園街園及馬車道ヲ設ケ及擴張スルコト是ナリトイヒ、こーんハ道路敷設、照明、下水、水道ヲ舉ケ、ぼるぐまハ街路敷設及變更、灌排水、下水、瓦斯等ヲ舉ク。ソシテ匿名政治家ハ瘋癲病院ノ利用ノ爲メノ費用分擔金、必要ナル水工事ノ爲メノ堤防組合ノ分擔金ヲ舉ケ、のいまんハ耕地整理、堤防、墓地、排水分擔金——道路分擔金ヲ舉ケ、更ニば一でんぐぞちあるらすてんカ道路、橋梁、泉水等ニ關ストイヒ、へつけるハ労働保險分擔金、病院利用ニ對スル分擔金、水道屠畜場瓦斯電燈ノ利用ニ對スル分擔金ヲ舉クルノ外商工農會議所ノ如キ利益代表ニ對スル分擔金テフ財政ノ範圍外ニ屬スルモノヲ舉ケル。——いあら一ニ依レハかるるする一は市ノ一九〇五年ノ分擔金ノ實例ハ左ノ如クテアル。曰ク、道路維持分擔金、市有ニ移リタル舊國道維持ニ對スル國家ノ分擔金、新設道路ノ維持費、職業紹介機關ノ經營ニ對スル分擔金、道路ノ設テ及下水費ニ對スル地主ノ分擔金はナリト。¹⁹⁾

第二段 特別課徴ノ利害

其一 特別課徴ノ利益

特別課徴ノ正當テアルコトハ以上ノ如シトシテ、尙其他ニ於テ之カ長所短所如何トイフコトヲ明カニスルコトカ肝要テアル。先ツ以テ其長所ヲ列舉スルト左ノ如クテアル。
 (一)政治上、必要ナル改良事業ノ進行ヲ促スノ利アルコト、——即チ特別課徴ノ如キモノカ

19) Seizman, l. c. p. 414. Colm, Sys em d. Fw. S. 127. Forght, Fw. S. 72. Staatsmann a. D., Fw. S. 169. Neumann, a. a. O. S. 330. 331. Odenkirchen. a. a. O. S. 30 Ehrler, a. a. O. S. 161.

15) Zollo, a. a. O. S. 74. Lütcker, Die Entwicklung und die Probleme des Gemeindeabgabenwesens. (Gemeindefinanzen. II. 3) S. 2. Landsberg, a. a. O. S. 7.
 16) Birnbaum, a. a. O. S. 162.
 17) Wagner, a. a. O. S. 129.
 18) Wagner und Ireuss, a. a. O. S. 14. 15.

ナカツタナラハ、到底財源ノ不足トイフコトテ中止トナルヘキノニ、斯カル財源カアルナ
ラハ、トシトシ必要ナル事業ヲ進メテ行クコトカ出来ル(註一五)。ソシテ近代都市ノ發展ハ
益々多ク之ニ依ラナケレハナラヌ(註一六)。

(註一五) ばすてーぶるハ曰ク、特別課徴ノ廣キ使用カ改良事業チ一層容易トスルコトニ疑カナイト。²⁰⁾

(註一六) あだむすハ之ニツキ、都市カ發展スヘク續ク間ハ、特別課徴ノ形ニ於ケル支拂カ益々増加スヘク續クテア
ラウトイフテ居ル。²¹⁾

(二) 人々ニ不平不満ナカラシメ、社會上并ニ經濟上有利ナルコト、——即チ前段ニモイヘル
如ク特別課徴ナク單ニ普通ノ租税ニヨリテノミ改良事業費ヲ辨シ、隨ツテ一般人ノ負擔ニ
於テ特定人カ特別ノ利益ヲ受クルコトヲ認メルト、斯カル特別利益ニ與ラサル者ノ間ニ、
不平不満カアリ、隨フテハ社會組織カ薄弱ニナリ、人々カ勤勉勵精ヲ缺クコトニモナル。
人々ヲシテ斯カル不平不満ヲ懷カサラシメ、益々其堵ニ安ンシテ經濟生活ヲ營ミ、現社會
ヲ愛護セシムルノニハ、何ウシテモ公平ナル負擔ヲ定メ、取敢ス特別課徴ヲ設ケナケレハ
ナラナイ。

(三) 財政上、收額ノ確實テフ利アルコト、——即チ此ハ一定ノ所要金額ヲ一定地區内ノ各人

20) Bastable, l. o. p. 403.

21) Adams, Science of finance. p. 68

ニ割當ツルモノ故、夫ノ普通ノ税(定率税)ヤ手数料ノ如ク收額ノ動搖スルモノト異リ、動
搖殆ト之ナキ一定金額ヲ得ルノ見込カアリ、豫算上甚タ便利テアル(註一七)。

(註一七) のいまんハ、カ臺帳作成ノ後ニ變動少キ收入ヲ擧クルコトヲ説ク。²²⁾

(四) 租税技術上ニハ徵收ノ容易トイフ利アルコト、——成程、初メニ特別課徴ノ課額ヲ定メ
ルコトハ若干面倒テアルカ、其後ノ取立ハ間接税ヤ手数料ナトノ如クニ面倒テハナイ。脱
納ヲ防ク爲メノ監督トイフコトモ少クテ済ム(註一八)。

(註一八) のいまんハ此カ比較的容易ニ徵收セラルル。——脱税ヲ防クカ爲メニ困難且ツ多費ナル監督ヲ要シナイ。
大ナル且ツ進ミタル豫備教育アル役人ヲ要シナイトイフテ居ル。²³⁾

其二 特別課徴ノ弊害

次キニ特別課徴ノ短所ノ重ナルモノハ左ノ如クテアル。

(一) 其賦課上ニ於テA) 第一頗ル面倒ナル計算ヲ要シ、而カモ此ニツキ色々行政官ト當事者ト
ノ間ニ争モ起ラウシ(註一九)、B) 結局多少恣意的ニ定メラル、コトニナリ(註二〇)、C) 隨フテ
ハ各人民ノ間ニ不公平ナル負擔ノ配當ヲ爲スノ機會モアリ得ル。特ニ近代ノ如ク民主的政
治ノ下ニハ、動モスルト政治ノ實權ヲ有ツ民衆カ特別課徴ニヨリ財產階級ノ負擔ニ於テト

22) Neumann, a. a. O. S. 331.

23) Neumann, a. a. O. S. 331-2.

シノ改良事業ヲ行フコトニナル心配モアル(註二一)。尤モ右ノ中賦課上ノ面倒及恣意トイフコトハ凡ヘテ此種ノ仕事ニハ己ムヲ得ナイ事トシテ、特ニ他面前ニモイフ如ク、之カ徵收ノ容易トイフ場合モアルカラ恕スヘシトシテ、借テ賦課ノ不公平トイフコトニツイテハ此ハ地方當局者ノ政治道義ノ訓練ニ依ツテ矯正スル外ナク、又タ民衆カ有産階級ニ重課ヲ負ハスコトノ如キモ、假令多少此カ行ハレタニシテモ幾分カハ轉嫁ニ依ツテ民衆ノ頭ノ上ニ戻ツテ來ルコトニヨリテ緩ムル事カ出來ル(註二二)。

(註一九) ばすてーぶるハ曰ク、地方行政官ト改良財産所有者トカ、問題ノ改良價值ニツキ頗ル異リタル見積ヲ爲ステアラウト。又曰ク、困難ハ課セラルヘキ財産ト其各ニ與エラル改良ノ額トヲ定メルコトニ關シテ生スルト。²¹⁾

(註二〇) ろーすうおーたーハ曰ク、利益ノ區域カ立法者、地方官權又ハ賦課委員會ノ考テ恣意的ニ決セラルルコトナルノハ確カテアルト。²⁵⁾

(註二一) ばすてーぶるハ之ニツキテ、選舉人ハ廣大ナル地方工事ニ賛成シ、而モ其一部ノ費用ヲ、限ラレタル恐ラクハ、治上力ナキ階級ニヨツテ拂ハシムルコトトナルコトカアルトイヒ、ろーすうおーたーハ此課徵制度カ民主的ノ社會テハ危険ナルモノトイフ故障ニ遇フ。選舉權カ無土地民衆ノ手ニアル處テハ、民衆ハ不要ナル公共改良ノ設立チ、少數ノ財産所有者ノ負擔ニテ強制スルテアラウトイフ。²⁶⁾

(註二二) ろーすうおーたーハ之ニツキテイフ、併シ課セラレタル負擔ハ、初メニ政府ニ拂フ者ノ上ニ專ラ止マラナイ。此カ多クハ占有者(土地ノ借主タル民衆)ニ轉嫁サルルテアラウ、此故ニ特別課徵ノ場合ニ、凡ヘテ他ノ公共課

徵物ニ關スルヨリモ一層大ナル危険ハナイト。²⁷⁾

(二) 其徵收ノ容易ナル爲メニ過大ノ額ヲ取り及義務者ヲシテ苦シマシムルカ如キ取方ヲスルコトニナラヌカトイフ心配ヲ説ク人モアルカ(註二三)、此ハ特別課徵ノ如ク初メヨリ豫定全收額ノ定マツテ居ルモノテハ多分起ルコトハナカラウト思フ。萬々一其カ起ルトスレハ、其矯正ハ地方政治道義ニ待ツノ外ナイ。

(註二三) のいまんハ曰ク、此カ徵收費ノ少イ爲メニ、相對的ニ大ナル額ニテ要求セラルルコトトナリ、然ルトキニ、厄介且多費ナル督促、及有害ナル、多クノ關係ニテ腐敗シ易キ租稅實行チ結果ニ有テ得ルト。²⁸⁾

結 論

要之、特別課徵ノ外ニ、之ト並ンテ手數料ノ行ハルヘキヤハ事情ニ依リ一様ニイフコトハ出來ヌカ、其實行シ得ヘキコトカアリ、實行スルモ至當ナルコトカアル。又此外ニ勿論租稅ノ存立ヲ認メナケレハナラヌ。併シ日本ノ今日ノ如ク公共改良施設ノ費用ヲ凡ベテ租稅ニ依ルカ如キハ不當テアリ又不得策テモアル。是非トモ特別課徵ヲ起シテ特別受益者ニ相當ノ負擔ヲ爲サシメナケレハナラヌ。特ニ今日改良施設ノ起スヘキ必要多クシテ財源難ヲ嘆スル事情ノ下ニハ是非トモ特別課徵ニモ依ラナクテハナラヌ。此ニ若干ノ不利缺點ハ

27) Rosewater, l. c. p. 148.
28) Neumann, l. c. p. 3:2.

24) Bastable, l. c. p. 403.
25) Rosewater, l. c. p. 146.
26) Bastable, l. c. p. 403; Rosewater, l. c. p. 147-8

アルカ、他面ニ此ニ伴フ利益長所ハ優ニ之ヲ補フニ足ル。テ日本テモ特ニ地方財政ノ爲メニ之カ採用ニツキ據ルヘキノ標準ヲ定メテ、各地方ヲシテ相率キテ之ヲ採用セシムルコトトスヘキモノト考ヘラル、(註二四)。(大正八年十二月)

(註二四) 大正八年四月法律五十八號道路法ノ三十九條ニテ、少クトモ道路ニツキテ特別課徴ニ當ルモノヲ課シ得ルコトヲ明カニシタノハ良イカ、更ラニ進ンテ其課徴ノ標準ヲ定メナイノハ遺憾テ、此カナケレハ地方團體ニテハ其適從スル所ニ迷フト思フ。又道路以外ニモ、課徴ノ必要適切ナル場合カアルカラ、更ラニ其等ヲ定メテ欲シイ。

第十五編 手數料決定上ノ二問題

緒言

(一) 手數料ノ意義種類等ニツキテハ、一般教科書ニ於テ相當説明セラレテ、茲ニ多ク加フヘキモノヲ持タヌ。タ、之ニ關シ未タ明確ニ決定セラレサルカ又ハ爭ノ存スル所ノ問題カニツアル。一ハ其ト特別課徴トノ採用順位ノ問題テ、他ハ其額決定ノ標準ニ關スル問題テアル。今私ハ之ヲ明カニシヤウト思フ。ソシテ此ハ適々私カ特別課徴問題ニツキ研究ヲ進メテ得タル副産物テアル。之トノ關係ニ於テ明カニスルヲ得タル所ノノテアル。尙ホ此ニイフ手數料ハ公經濟的ナル固有ノ手數料テ、名ハ手數料トイフモ其實營利收入タルモノ¹⁾ニハ關シナイ。其カラ其手數料カ公經濟的又ハ公益的ナル施設又ハ勤務ニ就キテ生スルカ爲メニハ、其カ人民ニ可分的ナル特別利益ヲモ與フルモノナルコト、爲メニ手數料ヲ課スルコトカ格別重大ナル公益上ノ不利ヲ齎ラサ、ルコト、(註一)ヲ要スル。此事ハ豫メ之ヲ斷ツテ置カナケレハナラヌ。

(註一) 前論文第一段、其一、(二)ノ(B)ノ(ロ)ノ(1) 參照

第十五編 手數料決定上ノ二問題

二九九

1) Kutzer, Die öffentlich-rechtlichen Einnahmen der Gemeinden in Bayern. (Schriften des Vereins für Sozialpolitik, Gemeindefinanzen. I.) S. 218.
2) Nitti, Principes de sciences des finances p. 252.

(二)本文説述ノ順序トシテハ、先ツ特別課徴トノ順位關係問題ヨリ説キ、其レヨリ手數料額決定ノ標準ニ及フ。

第一段 手數料對特別課徴順位問題

廣ク手數料ニ關スル順位問題トシテハ、手數料對租稅關係ニモ問題カアルカ、此ハ既ニ前論文ニ、特別課徴對租稅ニツキイヘルト同様テ、手數料カ租稅ニ先立ツヘキコト論ヲ待タヌ。テ疑問ハムシロ均シク特別報償的ナル特別課徴ト此手數料トノ間ニ於ケル順位ニ殘ル(一本問題——)楮テ、特別課徴ト手數料ト何レカ先立ツヘキカ。之ニツキテハ由來明確ナル説明カナイ。併シ私ハ思索ノ結果、一層密接關係アルモノハ一層疎隔シタルモノニ先立ツトイフ原則ヲ確立シ、此前提ノ下ニ特別課徴ハ手數料ヨリモ先立ツヘシト爲サントスルモノテアル。例之道路ニツキテ見ルノニ、沿道ノ地主、此ハ此道路トハ密接不可離ノ特別利益關係ヲモツ。ソシテ道路ノ通行人又ハ車馬ハ前者ヨリハ一層疎隔シタル特別利益關係ヲ持ツ。前者ニ至テハ殆ト夫ノ道路トノ關係ヲ斷ツコトハ難イ。併シ後者ハ此道路ノ通行ヲ止メ、又ハ往々ニシテ他ノ道路ヲ選ミテ此道路ヲ利用セザルコトヲモ得ヘキ關係ニ立ツ。

道路費ノ負擔ニツキ先ツ前者ニ分配シテ次キニ後者ニ及フハ公正ノ要求ニ適フモノトイハナケレハナラス。

(二)本問題ノ應用トシテ手數料内部ノ順位問題——斯ク手數料ハ特別課徴ニ對シ其順位ヲ讓ルトシテ、手數料ノ中ニ、公共設備(例之道路)ノ特殊使用企業者ニ對スル合同手數料(間々特別課徴ト混同セラル)(註二)ト公共設備ノ箇々ノ使用ニ對スル個別手數料トカアリ、ソシテ其先後如何トイフコトカ更ニ問題テアルカ、此モ前記ノ原則ニ照シテ考フレハ、夫ノ合同手數料ノ場合ハ個別手數料ノ場合ヨリモ恐ラクハ其公共施設ニ一層密接ナリトシテ先行スヘキモノトイフテ差支ナイ。

(註二) 前論文註七參照

第二段 手數料額決定ノ標準

其一 手數料總額ノ決定

(一)全費用中ノ一定部タルコト——ハ手數料總額ノ第一要件テアル。詳シクイヘハ手數料ノ總額ハ關係勤務又ハ施設ノ費用ノ全部ヲ充スヘカラスシテ其一定部ニ限ルヘキモノチアル

(註三) 否ナ加之別ニ特別課徴ノ行ハルヘキ場合ニハ、其ト手数料トノ合計モカ夫ノ全費用ノ一部ヲ充スコト、ナルヘキモノテアル。其故ハ元來公務ハ凡ヘテ何等カ一般的重要アツテ行ハレタモノテアルカラ、其費用ノ一部ハ之ヲ一般人民カ負擔スヘキ筈テアル。即チ租税ノ如キニテ負擔スヘキモノテアル。之ニヨリテ同時ニ別ニ特定人カ特別利益ヲ受ケタカラトイフテ、其特定人ニ夫ノ全費用ヲ負ハスヘキテナク、特定人ノ負フヘキモノハ單ニ全費用中ノ一部ニ限ルヘキモノテアルカラテアル。尤モ實例ニテハ之ト異ルコトカアリ、理論トシテモ之ト異ルモ可トイフカアル(註四)。特ニ實例ニ於テハ此全費用ヲ超ユル定メ方ヲスルカアル(註五)。其ト一致スル定メ方ヲスルカアリ(註六)、其ニ顧慮セスシテ定ムルカアル(註七)。併シ其ハ何レモ當ヲ得ナイ。ソシテ實際ニテモ全費用ノ一部トスル正當ノ方法ヲ採ルカアル(註八)。

(註三) しほふれーハ曰ク、共同制度カ手数料義務アル公務ニ依リテ公益ヲモ計ルノ故ニ、手数料ハ公共費用額ノ後ニ相當ニ止マラナケレハナラナイト。ソシテ匿名政治家モ、手数料ニ於ケル各人ノ費用ノ分擔ハ、斯カル設備ノ全費ヲ充テシテハナラス。何トナレハ此カ然ラサレハ國家營造物トシテノ性質ヲ失ヒ、純私的設備トナルカラトイヒ、こんらービモ手数料ハ國家ヨリ給付サレタル勤務ニ對スル直接併シ唯一部ノ賠償テアル。——此カ凡ヘテノ人ノ利益ニ於テ必要ナル一般的重要ノ制度ニ關スルノ故ニ、全體モカ費用ノ一部ヲ引受ルコトカ相當テアルトイフ。何レ

モ予ト同見

特ニばるぐまハ手数料カ夫ノ費用ヲ超ユル場合ヲ認ムルモ、他方ニ其一部ニ止マルヘキ場合ヲモ認ム。曰ク、勤務給付ニヨリテ一般公共目的ヲ達スルコトカ多ク進メラルトキハ、愈々多ク費用ノ超過ヲ止メルコト、事情ニヨリテハ費用以下ニ止マルコトカ可能テアル。當該公制度及營造物ノ利用ヲ困難ニシナイヤウニスル爲メテアル。併シ斯カル勤務給付ヲ全ク無償ニテ一般ニ與フルコトハ不適當テアル。何トナレハ之ニヨリテ公務給付ノ要求カ過剰ニ擴張サルルカラ。ソシテ此カ又不正當テモアル。何トナレハ此カ納税者ノ全體ヲ負擔セシメテ、其利益ニ於テ勤務給付ヲ要求シ又ハ其叱責ノ爲メ之ヲ引起シタル者ノ利益トナルカラト。⁴⁾

更ラニ或學者ハ夫ノ全費用ノ一部ヲ手数料ニ依リテ充スヘシトイハス、單ニ其全費用ヲ超ユヘカラストイフカアル。例之ハばるぐまハ手数料ハ爲メニ拂ハルル所ノ勤務ノ費用以上ニ國家ニ收入ヲ生セサルモノトイヒ、ふおつけハ、手数料ノサハ、認可等ヲ求ムル者カ彼ニ其許與ニヨリテ生セラレタル利益ヲ自ラ見積ル度又ハ國家ニ特段ナル行爲ニヨリテ引起サレタル費用ノ補償ヲ超ユルヲ得ヌトイヒ、こつさモ、手数料カ適法ナルカ爲メニハ、其額カ精密ニ手数料義務者ニ依リ實際ニ生セラレタル支出ニ從テ定メラレタル或境界ヲ超エナイコトカ必テアルトイフ。ソシテ普魯西ノ地方課徴物法ニモ、手数料ハ其額カ關係行政分科ノ費ヲ超エナイヤウニ測定サレナケレハナラナイト規定セラレ、わーあらーカばーでんニツキ脱明スル所ニ依ルモ、共同經濟的設備ノ手数料ハ、企業ノ費用ヲ通例超エテハナラナイ。何トナレハ必要ナル費用ヲ超エテ過剩收入ヲ擧グルコトハ、第一位ニ關係者ノ經濟上ノ利益ヲ目的トスル共同經濟ノ意義ニ反スルカラトイフコトテアル。⁵⁾

(註四) 例之、わらぐまハ、手数料ノ純收入ハ國家等ノ費用ト同ナルコトヲ得、其以下タルコトヲ得又ハ之ヲ超ユルコトヲ得ルトイヒ、ばるぐまハ手数料カ公共團體ノ費用ヲ超エストイフコトハ手数料ノ本質ニ屬シナイ。——前

4) Borght. Fw. S. 67.

5) Bastable, Public finance. 3 ed. p. 240. Voc'e, Grndzüge d. Fw. S. 87. Cossa. Grundriss d. Fw. S. 47-8. Zelle, Städteordnung. 5 Aufl. S. 75. Ehrler. Die Gemeindebesteuerung im Grossherzogtum Baden. (Gemeindefinanzen. I.) S. 160.

3) Schäffle, Steuern A. T. S. 30. Staatsmann a. D., Fw. S. 138. Conrad, Grundriss d. Fw. 2 Aufl. S. 5. 117-8.

務給付ノ費用カ手数料ニヨリ唯一部又ハ全部充足セラルヘキカ又ハ超過セラルヘキカハ、如何ナル範圍ニテ要セラルタル勤務給付カ人民ノ私益又ハ同時ニ全體ノ利益ニモ用立ツカニ係ルトイヒ、ろつしあ一ハ國家的行爲、効果カ主トシテ各箇ノ關係者ノ受クル利益ニ關スルヤ、又ハ之ヲ超エテ全國民ノ利益又ハ國家組織ノ利益カ斯ノ如キモノトシテ進メラルルヤ。第一部ニ屬スルハ、非訟事件、教育、博物館及圖書館ノ維持、交通給付、認可、特許、免除ヲ數エ得ル。第二ニハ訴訟事件、造幣、市場ノ警察監督、衛生事業ヲ數エ得ル。後者ニ就キテハ手数料ノ徵收セラルルタケテハ此カ公共行爲ノ當該分科ノ費用ニ於ケル分擔ヲ超エテハナラヌ、前者ニ於テハ此制限ハ必要ナリ。各分科ノ全費用ヲ手数料ニヨリ齎ラスコト、否ナ加之、大ナル過剩ヲ齎ラスコトカ正當ナルヲ得ル。他方ニハ此ニ於テ特別ナル事情カ唯費用ノ分擔ヲ供エル所ノ安キ手数料又ハ手数料免除ヲ辯護スルコトヲ得ルトイヒ、ばすて一ふるモ或場合ニハ手数料カ凡ヘテノ費用ヲ充スコトアリトイヒ、しゑふれ一モ亦タ、手数料率ハ一方ニハ費用額ヲ超エテ、公共給付カ箇人ニ對シテ持ツ所ノ使用價值ノ高サマテ上ホスコトヲ得ル。費用額ヲ超エテ利益ノ價值マテノ手数料ノ餘剩ハ、公權力ノ實行ヨリノ純収入ト見ルヘキテアルトイフテ居ル。(前掲註三ニ出テタルしゑふれ一ノ言トハ矛盾ス。恐ラク同氏自ラトシテハ費用額ヲ超ユルコトヲ勸ムルモノニハ非ルヘシ)。

(註五) 普魯西ノ地方課徴物法第四條第二項ノ意義ニツキおいでんきるへんハ之ヲ、手数料カ設備ノ全費用ヲ充タスヘシト解スルモ、びるんばうむハ普ニテハ手数料ノ高サニ限界ヲ定メナイ、隨テ市町村カ剩餘額ヲ取ルコトカ可能テアルト解シテ居ル。又同びるんばうむニ依レバ、あんばるこニテモ普ト均シク手数料ノ高サニ對スル上限ハ定メラレナイ。隨テ手数料剩餘ヲ生スルカ如クニ手数料率ヲ定メルコトヲ得ル。併シ此ハ使用手数料ノミニ當リ、行政手数料ニハ、其收入カ關係行政分科ノ費用ヲ超ユヘカラサルコトカ定メラルルトイフコトヲアリ、又くつあ一ニ依ルトばいゐるんニテハ一般ニ水道瓦斯電氣事業、檢査所、車等ハ利益ノ爲メニ營マレ、隨テ支出ノ充足ニ必要ナルヨリハ多クノ手数料ヲ徵スルヲ例トスルトイフ。⁷⁾

(註六) おいでんきるへんハ普ノ法ヲ以テ、手数料カ設備ノ全費用ヲ充タスヘキモノト解スルカ、實際ニモらんづべるぐニ依レハ其或市例之、ざるさむんじ、りくすざるふニテハ、下水手数料ヲ其收入カ其全年經費(元利拂費ヲ含メテ)ヲ充タスカ如クニ測定シ、くつあ一ニ依レバ、ばいゐるんニテモ屠畜場、家畜場、塵埃取、浴場及墓地ノ手数料ハ餘剩モ生セス交付金モ要セサル程度ノモノトスルトイフコトヲアル。⁸⁾

(註七) らんづべるぐニ依レバ、普ノ或市例之、まぐでぶるぐニテハ下水手数料ノ高サカ全ク費用ノ高サニ顧慮ナクシテ決定セラルルトイフコトヲアリ、びるんばうむニ依レバ、ざくせんまいにんげんテハ、手数料カ唯タ當該設備ノ費用ノ充足ノタメニ徴收セラルルヲ得ルコトノ規定カ此ニ定メラレナイ。隨テ市町村カ之ニツキ廣キ徵收權ヲ持ツトイフコトアル。⁹⁾

(註八) 普ノ或市例之、ぶれすらう、げーにひすべるひテハ下水ニツキ費用ノ一定部(半分)ヲ租税ニヨリ殘テ手数料ニヨリ充タス所テアリ、ばいゐるんテハ病院、學校、實驗所、下水、街路掃除、何所ニツキテハ手数料ハ多クハ一般方便ヨリノ交付金ヲ避ルニハ足ラメトイフ。¹⁰⁾

(二) 一定部ノ定メ方——處テ右費用ノ中ノ一定部ヲ定メル、其限界ノ定メ方ハ實際難問題テアル(註九)。其ハ勿論其施設又ハ公務ノ性質ニ依リテ異ルヘク(註一〇)、大體ハ其ニ於ケル公益ノ分子ノ大小ニ依ルヘキモノテアル(註一一)。著シキハ例之義務教育ノ授業料ノ如キニテハ、此場合公益カ重大テアルカラ、全費用ノ一割以内ニテモ可カラウシ(註一二)、營業免許料ノ如キハ當該營業者ノ特ニ受クル經濟上ノ利益カ大イカラ、費用ノ九割以上全額以内ニ

7) Odenkirchen, Interessentenbeiträge. S. 76. Jirnbaum, Die gemeindlichen Steuersysteme in Deutschland. S. 18. 123. Kutzer, a. a. O. S. 218.
 8) Odenkirchen, a. a. O. S. 76. Landsberg, Die Einwirkung des Gemeindeabgabewesens. (Gemeindefinanzen. II. 1.) S. 10. Kutzer, a. a. O. S. 218.
 9) Landsberg, a. a. O. S. 10. Jirnbaum a. a. O. S. 285.
 10) Landsberg, a. a. O. S. 10. Kutzer, a. a. O. S. 218.

6) Waloker, Fw. S. 24. Borcht, a. a. O. S. 66-67. Roscher, System d. Fw. 5. Aufl. I. S. 126-7. Bastable, l. c. p. 159-160. Schäffle, Steuern. A. T. S. 30

テ可カラウ。此兩極端ノ間ニテハ各箇ノ公務ヲ比較シテ相當考慮ノ上、其々ニ定メルノ外
 ナイ。ソシテ夫ノ道路ノ如キニ就テハ全費用中、特別課徴ニテ充タサレサルモノノ約半分
 位ヲ手數料ニ負ハスノ外適當ナル分配方法カナカラウ。即チ沿道地主ハ道路ト密接不可離
 關係ニテ特別利益ヲ受クル故其負擔ハ全ク特別ナルモノトシ、其他ノ一般人ノ之ニ依リ受
 クル利益ノ中ニ就キ、箇々ノ場合ニ或人々カ之ヲ通行スルコトニ依リテ現實ニ受クル利益
 ト、之カ通行可能ト并ニ之カ爲メニ生スル一般文化及經濟發達トニヨリ一般人カ受クル觀
 念上ノ利益トヲ對立セシメ、此二ノモノノ間ニ略ホ對等ノ價值ヲ認ムル外ハナイ。ソシテ
 此二ノモノノ間ニ對等ノ重要ヲ認ムルノハ、箇々ノ人々ノ現實通行利用ノ多キ程ノ道路ハ
 結局一般人ノ受クヘキ觀念上ノ利益モ多キ所テアリ、前者ノ少キモノハ後者モ少ク、夫ノ
 沿道地主ノ利益ト其他ノ一般人ノ受クル利益トノ間ニ於ケル差等關係(註二三)トハ概ノ異
 ルモノカアルカラテアル。尤モ現實通行者ニ對スル手數料ヲ採用スルコトノ不利ナル場合
 ニハムシロ之ヲ止メテ、觀念上ノ利益ニ對スル負擔ト共ニ、租稅ニテ取ルノ外ナキコトテ
 アラウ(註一四)。

(註九) びるんばうむハ、各箇ノ課徵物ニテ、其カ手數料タルヘク止ミ、租稅タルヘク始マル所ノ確固タル限界ヲ引

クコトハ不能テアルトイヒ、しむふれーモ之ヲ如何ニスルカハ嚴格ニハ計算スヘカラストイフ。¹¹⁾

(註一〇) わぐな一ハ、如何ナル高サニテ之ヲ課スヘキカハ一般ニイフコトヲ得ヌ。設備及制度ノ各種ノモノノ事情

ニヨリテ定ムヘキモノテアルトイヒ、匿名政治家モ、各々ノ國家營造物ニ於テ全體ノ分前及分擔カ如何ニ大ナルヘ
 キヤハ、此ノ如キモノノ種類ニ係ルトイフ。¹²⁾

(註一一) ばーべるひハ、當該國家設備ニテ一般利益カ大ナルハ大ナルホト、其要求ニ對スル手數料ハ一層低ク測定
 サルヘク、前者一層小ナレハ後者一層大ナルヘシトイヒ、るつじあーモ、全體上ハ公益カ當該國費ニテ私益ヲ超過
 スレハスルホト、手數料ハ愈々低クナリ、結局純國家經費(無手數料)ノ原則ニ歸着スヘキモノテアルトイフ。¹³⁾

(註一二) につちハ之ニツキテ、教育カ之ヲ受クル者ヨリ拂ハルルコトハ良イ。併シ之ヲ受ケントスル者ヲ失望セシ
 メサル方法ニテ拂ハレナケレハナラヌ。授業料カ餘リニ、イトキハ、此カ不正及有害テアラウトイヒ、びるんばう
 ムハ普魯西ニツキテ、手數料ハ種々ノ例外ヲ受クル。特ニ設備カ主トシテ公益ニ關シ、手數料ヲ取ルコトニ於テ貧
 民ニモ出來ルタル容易ニ利用セシムル固有ノ目的ノ無効ナル場合ニ然リトスル。例之、病院、保養院、學校(此ニ
 テハ手數料徴收ノ強制ナシ)ノ如シトイフ。¹⁴⁾

(註一三) 前々論文第一段ノ(一)ノAノ(ロ)参照

(註一四) 前論文第一段其(一)ノ(二)ノ(B)ノ(ロ)ノ(1)参照

其二 手數料總額ノ分配

(一) 主タル分配標準(費用カ利益カ)

11) Birnbaum, a. a. O. S. 17. Schäffle, a. a. O. S. 30.
 12) Odenkirchen, a. a. O. S. 26. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 138.
 13) Ebelberg, Fw. 9 Aufl. S. 19. Roscher a. a. O. I. S. 126.
 14) Nitti, l. c. p. 253. Birnbaum, a. a. O. S. 18-9.

(A) 利益ニ依ル場合——(イ) 右ノ如クニシテ手数料トシテ徵收サルヘキ總額ハ大體定マルトシテ、其ヲ各箇ノモノニ如何ニ割當ルカカ次ノ問題テアル。之ニツキ特別課徵カ利益ニ應シテ分配セラルルニ對シテ、此手数料ハ費用ニ應シテ定ムヘキモノトスル見解カアルカ(註一五)、此ハ必スシモ當ヲ得ナイ。特別課徵ニテモ費用ニ依ル點カアリ、又費用ニノミ基キテ定ムル例サヘモアル(註一六)。手数料トテモ利益ニ依ルヲ得ル場合ニハ必スシモ費用ニ依ラスシテ利益ニ依ルコト、毫モ其ノ特別利益ニ對スル報償タルノ性質ニ反シナイノミナラス、ムシロ之ニ適當シテ居ル(註一七)。詳シクイヘハ夫ノ特別課徵ノ利益ニ應シテ配當サレテモ、其ノ實際的の利益ヲ指示スルコトカ困難テ、推定の利益標準ニ依ルノ外ナキコトカアリ、隨テ結局一定費用部ヲ特別利益ノ全額ト推定シテ之ヲ各人ニ其々ノ推定の利益標準ニ應シテ配當スルノ外ナキモノカアリ、或ハ又實際的の利益ニ依ル場合ト雖モ、其合計カ一定費用部ヲ超ユル時ハ、其實際的の利益ニ依ラスシテ、一定費用部ヲ最高配當總額トシテ此ヲ單ニ實際的の利益ノ度ニ應シテ配當スルコトニナリ、矢張り費用トイフモノカ課額ヲ定ムル大切ナル土臺トナル。即チ特別課徵カ利益ニ應シテ配當サルトイフテモ費用ヲ無視シタノテハナクテ、大ニ之ヲ考慮シ、之ヲ基礎トスル所テアル。此ト對立シテ手数料カ果シテ費

用ノミニ依ルカトイフト、此トテモ此費用ノミニ依リテハ公平テナク、利益ノ度ニ應シテ配當スルノ公平ナルヲ得ルコトカ少クナイ。成程之ヨリ取ラルヘキ總額ニハ大略費用カ標準ニナル。夫ノ一定費用部ヲ標準トスル。而カモ此ニテ特別課徵ノ場合ノ如ク、一定費用部ト課額ノ總額トノ一致ハ得ラレ難イ。事ノ性質上、手数料ニテハ其總額ハ實行ノ後ニ非レハ分ラナイ。大體夫ノ一定費用部ヲ單ニ目安トシテ配當スルニ止マル。此場合費用カ精密ナル標準テハナクテ、大體ノ標準トイフニ止マル。ソシテ此費用ノ一定部ノ基礎トナル或行政的施設ノ費用トイフモノノ計算モ時ニ頗ル困難テアル。其ノ明ナルコトモアルカ、他ノ行政ト一緒ニナツテ居テ、一ノ行政ノ費用ノ精密ニイヒ得ナイコトモアル。此場合ノ費用カ斯カルモノテアルカラ、之ノミニ依ラスシテ別ニ利益ニモ依ルコトハ一層賦課ヲ公平ニ近カシムル所以テアリ、又前ニモイフ如ク手数料ノ性質ニ反セサルノミナラス適應スル所以テモアル。(ロ) ソシテ手数料ヲ利益ニヨリ配當スルトスレハ、其ハ關係物體ノ大サ又ハ價值ノ如キニ依ルコトトナル(註一八)。テ斯カル標準ノ見付ケラルル場合ニハ之ニ依ルノカ適切テアル

(註一五) 例之とつゝハ手数料ニテハ測定標準ハ生セラレタル支出ノ高サニ基クトイヒ、匿名政治家モ、費用ノミカ手数料ノ標準トナルヘク、而シテ此勤務給付ヨリ各人ノ爲メニ生スル所ノ特段ナル利益カ標準トナルヘカラス

トイヒ、にちモ手数料ニハ其額カ勤務ノ生産費ニ相當セサルヘカラストイフ考チ含ムトイフ。ソシテ、實際普魯西ノ地方課徴切法ニ依ルモ手数料ハ通例、施設ノ管理及維持費カ充テサルルカ如クニ測定スヘキモノテアル。¹⁵⁾

(註一六) 例之ば、一で、んノ分擔金ハ、其高サカ凡ヘテ設備ノ費用ニヨリテ定メラルル所テアル。¹⁶⁾

(註一七) 一、んハ此見ヲ採ル。曰ク手数料ハ特段ナル利益ニ對スル特段ナル報償ヲ表ハシ又ハ各個ノ成員ノ利益カ公共團體ニ特段ナル損害(費用)ヲ引起シ、其カ成員ヨリ報償サルヘキモノテアルト。¹⁷⁾ 尤モ之ニ對シ反對説アリ。例之らうハ此ハ國家權力カ或設備ニ於テ爲スヘキ費用ニ對スル特段ナル報償トシテ見ラルルコトヲ得ルトイヒ、匿名政治家ハ此ヲ以テ各個人カ彼ヨリ特ニ促サレタル費用ノ爲メニ拂フヘキ分擔金テアルトイフ。¹⁸⁾

(註一八) 例之、普魯西ノ下水手数料ハ、或ハ屋賃ノ高サニヨリ、或ハ家屋稅ニ於ケル利用價值即チ家屋ノ時價ニ依リ或ハ導カルル水ノ立方尺ニヨリ又ハ此後ノ二ツノモノノ結合ニ依ル。塵埃取ノ手数料ハ或處テハ(けるん、ふるんくふるま)借屋人ヨリ、屋賃ニ應シテ徵收セラレ、併シ多クハ屋主ヨリ或ハ家屋ノ利用價值、室ノ數ノ如キモノニ應シ又ハ取去ラレタル入物ノ數ニ應シテ課セラルル。ソシテ水道使用料ハふるんくふるま及かつせるニテハ水ノ使用量ニ依ラナイテ、屋賃ニ應シテ借屋人ヨリ拂ハラル。尙ホ又かつせるニテハ右ノ借屋人ヨリ取ララル所ノ水ノ使用料及立方めーさる毎ニ一定率ニ依ル過剩使用ニ對スル一定附加料ノ外ニ、家主ヨリ家屋稅ノ十分一ノ利用分擔金ヲ取ル。ばいぬるんニテハ下水及塵埃取手数料ハ、往々ニシテ取ラレタル材料ノ額又ハ水管ノ前面長ノ代リニ、材料ノ排除セラルル場處ノ賃賃價格ニ依ル所テアル。¹⁹⁾

B) 費用ニ依ル場合——イ) 處カ場合ニ依テハ右ノ如キ標準ノ見付カラヌ場合カアル。特ニ

手数料ノ場合ニハ見様ニヨリテハ特段ナル利益ヲ受ケタリトイヒ難キ場合サヘアル(註一九) 此場合強キテ利益標準ヲ求ムルニ及ハヌ。強キテ之ヲ求メテ不公平ニ陥テハナラヌ。此場合ニハ各個ノモノカ平等ノ利益ヲ受ケタリト見做シテ、夫ノ一定費用部ヲ割當テルコトニ依リテ公平ヲ得サセルヨリ外致方カナイ。(ロ) 其ニハ過去數年間ノ平均ヲ基礎トシ、其ノ起リ來リタル平均件數ニヨリ所要總費額中ノ一定部ヲ除シテ得タルモノ即チ平均入費ニ依ルノ外ナイ(註二〇)。勿論此ノ如キモノモ、一旦定メタル後、事情ノ推移ニ依リ、一方ニハ費用ノ増減ト他方ニハ事件ノ増減トニヨリテ時々變更修正ヲ要スルコトニハナル。又初メテ之ヲ定メル場合ニハ件數ニツキ全ク推定ニ依ル外ナキコトモ之アルヘキテアル。

(註一九) おーでんきるへんカ、手数料テハ必然ニ給付及反對給付ノ價值ニツキテノ割合カ存シナイトイフノハ過キテ居ルカ特ニ夫ノ刑事手数料ノ如キニテハ、見様ニヨリ當事者ニ利益ヲ與ニスシテ損害ヲ興エルモノトモ見ラルル。尙ホへつけるカ、費用標準ハ通例、箇人ノ利益ノ進捗ニ對シ官廳行爲ノ間接共力ノ存スル場合ニ現ハレ、利益標準ハ直接ニ特段ナル権利的利益ノ達セラルル場合ニ問題トナルトイフノモ、必スシモ當ラナイ。

(註二〇) けーべるひハ、手数料ノ最高限ハ通例、官廳ノ經常費ノ平均ニアリトイヒ、ふおつけカ、手数料ノ自然的ノ高サハ、國家ニ彼ヨリ引起サレタル行爲ニヨリ生スル所ノ費用ニヨリテ測定セラルル。此故ニ手数料ハ關係者ノ持ツ所ノ利益ノ大サニ顧慮ナクシテ同種ノ場合ニハ同一ナラサルヘカラストイフモ同テアル。²²⁾

20) Odenkirchen, a. a. O. S. 7.

21) Heckel, Gebühren. (Conrad, Hwb. 3 Aufl. IV.) S. 514. Derselbe, Lehrb. I. S. 90.

22) Eheberg, a. a. O. S. 139. Vocke, a. a. O. S. 90.

15) Cossan, a. a. O. S. 47. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 139. Nitti, l. c. p. 250. Zelle, a. a. O. S. 74. Odenkirchen, a. a. O. S. 6. Birnbauin a. a. S. O. 18.

16) Odenkirchen, a. a. O. S. 13.

17) Cohn, System d. Fw. S. 132.

18) Rau, Grundsätze d. Fw. 5 Aufl. I. S. 349. Staatsmann a. D., a. a. O. S. 70.

19) Landsberg, a. a. O. S. 7. 10. Kutzer, a. a. O. S. 220.

(C) 右兩場合ノ總括的批評——孰レニセヨ手數料ノ場合ニモ矢張り特別課徴ト同様ニ一定費用部ノ配當ニ外ナラヌコトナル。ソシテ其カ結局精密ニ豫定額ニ達セサルコトカアリ又ハ時ニ之ヲ超ユルコトノアル點ニツキ特別課徴ト異ルカ、併シ其一部分ノモノカ推定の利益標準ニ應シテ配當セラルルコトニ於テ特別課徴ト同トイフコトモアル。唯タ他部ハ平均入費ニ依ルコトニナルカ、此モ見様ニヨリテハ一ノ推定の利益ニ依ルトモイヘル。併シ手數料ニテハ特別課徴ノ如ク實際的利益ニ依ルコトハナイ。テ特別課徴ト手數料トノ此配當標準ニ關聯シテノ相違ハ、總額カ一定費用部ニ一致スルト否ト、實際的利益ニ依ルコトノ有無ニ存スルコトニナル。

(二) 特段ナル標準

以上ノ外、手數料ニ於テ右ヨリモ特段ナル標準ニ依ルコトカアリ又ハ之ヲ加味スルコトカアル。爲メニ右ノ標準ニテ定マリタルヨリハ低クナルコトカ起リ、高クナルコトカ起ル(註二二)。其カ或ハ豫防又ハ教育上ノ目的ヨリ生シ、或ハ給付能力ノ考慮ヨリ生スル。

(註二二) 21) べるひハ手數料ニテハ特段ナル場合ニ夫ノ平均率以下タルコトモ以上タルコトモ行ハルトイフ²³⁾

(A) 給付能力ノ考慮

(い) 特ニ貧民ノ爲メノ免除又ハ輕減——上記ノ標準ニヨリ定マリタル手數料ヲ特ニ貧民ニ對シテ免除又ハ輕減スルコトカアル(註二二)。此ハ給付能力ノ考慮ノ結果トモイハル、カ(註二三)、此場合ハ之ヲ給付能力ノ考慮トイフ租稅の標準ヲ假ラストモ説明スルコトヲ得ル即チ夫ノ施設ノ利用カ一般的重要ノ大ナルモノテ、貧民ト雖モ之ガ利用ヲ避クルコトヲ許シテハナラヌノニ、若モ此ニ手數料カアルナラハ、貧民カ其施設ノ利用ヲ爲サ、ルコト、ナルヲ防カンカ爲メトモ解スルヲ得ル(註二四)。

(註二二) へつけるハ手數料ノ徵收チ一部免除又ハ全部免除ニマテ其輕易ノ方へ導キ得ル場合カアルトイヒ、ぼるぐ²⁴⁾、經濟上弱キ國民階級カ手數料ヲ各箇ノ場合ニ全部又ハ一部免除セラレ、又ハ勤務給付ノ一定ノモノカ豫メ無手數料トセラルルコトヲ排除シナイトイヒ、つねれニ依レハ普魯西ノ地方課徵物法ニテモ無資力ノ考慮カ排除セラレ²⁵⁾トイフ。

(註二三) びるんばうむハ之ヲ解シテ、普魯西ニテハ手數料ノ全免ニマテ給付能力ニ依ル分級カ許スヘキモノトセラルト爲シ、つねれモ手數料率ヲ給付能力ニヨリ分級シテ全免ニ至ラシムルコトハ許スヘキモノトイフ²⁵⁾。

(註二四) 匿名政治家ハ、均シク此制度ヨリ利用ヲ爲ササルヘカラサル凡ヘテノ貧ナル給付能力ナキ人民ノ爲メニ、費用カ全體ヨリ引受ケラルヘキモノテアルトイヒ、こんらごハ、全體ニ容易ニ利用サルヘキ福祉の制度ノ利用ニツキ貧民ニ餘リ多ク課スルノハ殘酷ナルヘシトイヒ、こつさモ手數料支拂ノ例外トシテ絕對ノ貧乏ヲ擧グ。つねれニ依レハ普魯西ニテモ凡ヘテノ市町村民ニ又ハ其各箇ノ階級ニ施設ノ利用ノ義務アルトキハ、又ハ右ノ者カ施設ノ利用

24) Heckel, Gebühren, S. 515. Derselbe, Lehrbuch. I. S. 91. Borcht, a. a. O. S. 67. Zeile. a. a. O. S. 76.

25) Birbaum, a. a. O. S. 20. Zeile. a. a. O. S. 76.

23) Eheberg, a. a. O. S. 130.

ニ指定サレタルトキハ、手数料率ノ相當ナル輕減カ許サルヘシ。此種ノ場合ニ手数料ノ徵收カ中止サルルコトヲモ得トイヒ、びるんはうむぶらうんじゆわいひ、説明ニテ、手数料率ノ全部又ハ一部輕減ハ設備カ凡ヘテノ市町村民又ハ其各級ヨリ利用サレサルヘカラス又ハ此否ニ指定セラルルトキニハ生シ得ルトイフ²⁶⁾

(ろ) 一般ニ給付能力ノ考慮——管ニ貧民ノ處ニテノミナラス、凡ヘテノ人ニ對シテ給付能力ヲ考慮シテ手数料ヲ完メルコトヲモ得ル(註二五)。併シ此ノ如キハ名義上コソ手数料テハアルカ、最早其實ハ租稅ニ外ナラナイ(註二六)。固有ノ手数料トハイヘナイ。

(註二五) 註二三參照

(註二六) しゆふれハ、財政々策ハ十分自覺シテ手数料率ニテ費用及使價値又ハ利益ヲ超エテ定メタ。ソシテ租

稅ニ手数料ヲ裝ハシメタトイヒ、こんらーじモ此ノ如キ支拂カ費用ヲ超過シタル高サニテ取ラレルトキハ此方租稅性質ヲ得ルトイヒ、ばすてーぶるハ、普通ノ利益カ超エラレルトキハ、役所ヨリ有タレタル獨占ハ租稅トシテ使用セラルトイヒ、わぐな一モ手数料收入ノ結付ク所ノ公共制度ニ正當ナル經濟上ノ原則ニヨリ計算サレタル費用ヲ超エテ餘剩ヲ生スルトキハ此餘剩ハ固有ノ租稅ニ屬ストイヒ、るーすうおーた一ハ、手数料ハ特別勤務ノ費用ヨリモ多ク取ルコトニヨリテ、其超過ニ關シテ間接稅ニ容易ニ且ツ便利ニ變形セラルルヲ待ヘシトイフ²⁷⁾ 尤モろつしあ一ハ手数料カ餘剩ヲ生スルモ、爲メニ手数料カ租稅トナラストイフ²⁸⁾

(B) 豫防又ハ教育ノ理由——ニ基キテ手数料ノ正常ノ標準ニテ定マルヘキモノヨリモ高ク

定メラル、コトカアリ得ル(註二七)。此ノ場合ニハ前記A)の(ロ)ノ場合ノ如ク利益又ハ費用標準ヲ止メテ異リタル他ノ標準ヲ取ルノテハナクテ、利益又ハ費用標準ヲ土臺トシテ少シク豫防又ハ教育ノ趣旨ヲ加味シタルニ止マル。故ニ此場合ハ之カ爲メニ其カ手数料タルノ實ヲ失フニハ至ラス。

(註二七) へつげるハ曰ク、特段ナル觀察點ヨリ手数料額ヲ費用及勤務價以上ニ出テシムルコトヲ得ルコト(其カ爲メニ手数料性質ヲ失フコトナクシテ)ヲ注意スヘシ。此ノ如キ標準ハ多クハ豫防又ハ教育上ノ性質ヲ持ツト²⁹⁾

結 論

以上要之、手数料ト特別課徵トノ順位ハ明カニ手数料カ特別課徵ニ一步ヲ讓ルトイフコトニアル。然ルニ手数料額決定ノ標準トイフコトニ就テハ、精密ナルモノヲ得ルコトハ難ク多少蓋然的ノモノニテ満足セサルヘカラサル憾ハアル³⁰⁾。併シ大體ハ其々ノ公務ニテ相當ナリト認めラル、其費用ノ一定部ヲ總額ト爲シ、利益標準ノ適當ナルモノアル場合ニハ、之ニ依リテ略ホ右ノ總額ヲ得ラル、カ如クニ分配シ、此利益標準ノ求メ難キ場合ニハ、概算又ハ推定ニ基ク件數ニ依リ右ノ總額ヲ除シテ得タル平均入費ヲ求メテ手数料額トスベキモ

29) Heckel, Gebühren. S. 514-5. Daselbe, Lehrbuch. I. S. 91.
30) Birnbaum, a. a. O. S. 18

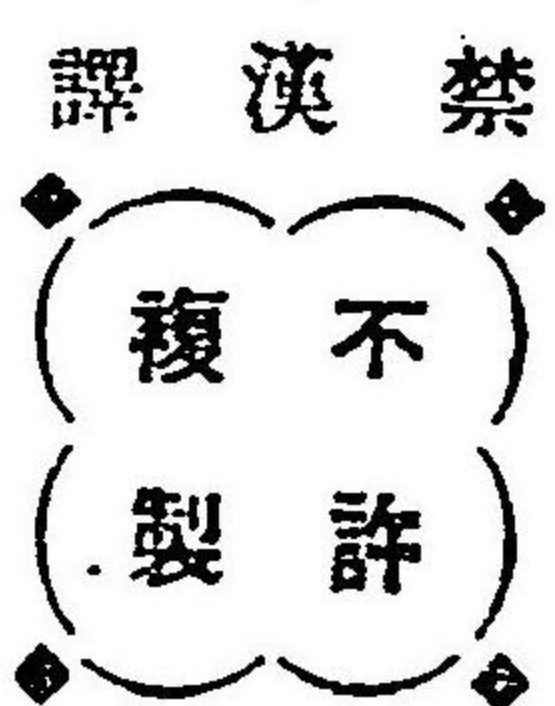
26) Staatsmann a. D., a. a. O. S. 139. Conrad a. a. O. S. 118. Zelle, a. a. O. S. 74. Birnbaum, a. a. O. S. 63. Cossa, a. a. O. S. 48.
27) Schäffle, a. a. O. S. 30. Conrad, a. a. O. S. 5. Bastable, l. o. p. 160. Rosewater Special assessments. p. 136. Wagner, a. a. O. S. 38.
28) Roeder, a. a. O. I. S. 30.

ノトナル。其他ニ給付能力ヲ考慮シ又ハ豫防教育ヲ加味スルコトハアレトモ、其ハ凡ヘテ
手數料ノ本質ニハ屬シナイ。(大正九年一月)

租稅研究 第二卷終

大正九年九月十五日印刷
大正九年九月二十日發行
昭和三年十月一日六版

特 資 品



著 者 神 戶 正 雄

印 行 者 八 坂 淺 次 郎

印 刷 所 弘 文 堂 印 刷 部

京都市九太町寺町東入
京都市東川通川端東入

發 行 所 弘 文 堂 書 房

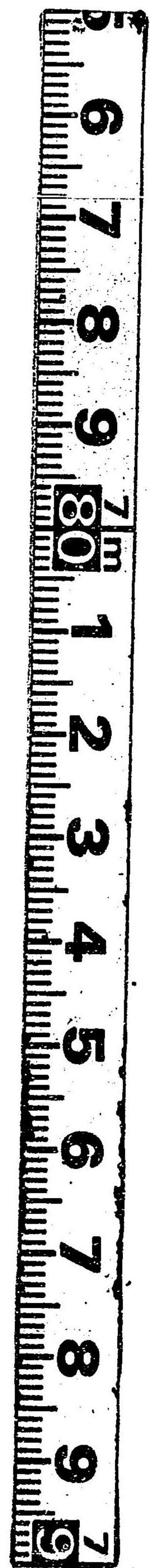
發 賣 元 弘 文 堂 東 京 店

京都市九太町寺町東入
電話 二〇〇九番
京都市東區山崎二丁目四番
電話 二七九二番
東京市神田區後藤町二丁目四番
電話 三三九二番
東京市神田區後藤町二丁目四番
電話 三三九二番

IT-5C-85

終

344
a
43



始

